

令和2年度スポーツ庁委託事業

障害者スポーツ推進プロジェクト
「障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業」
成果報告書

2021年4月
一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

本報告書は、スポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業として、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟が実施した令和2年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

2020 年度も前年度と同様にスポーツ庁の障害者スポーツ推進プロジェクト委託事業の受託者に選定していただき、全都道府県において障がい者サッカー関係者との連携と体制整備に関する継続した活動を行うことができた。心より感謝を申し上げたい。

計画では前年度と同様に 9 地域に訪問し、会議を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染の収束が見込めないため、会議室の密状態や県をまたぐ移動を避け、オンラインでの開催に変更した。

初めてのオンラインでの開催であり、進行やディスカッションに不安はあったが、なんとか円滑に進めることができた。オンライン開催にしたことにより、「移動」というハードルが低減され、昨年度よりも大幅に出席者を増やすことができた。これはオンライン開催の大きなメリットと言えるであろう。特に Jリーグクラブからの出席者が増えたことは嬉しい変化であった。全都道府県に存在し、地域に影響力のある Jリーグクラブが障がい者サッカーに取り組み、それを発信すれば、サッカーファミリーへの障がい者サッカーの認知度は大きく向上する。障がい者サッカーの大きな課題の一つである「知られていない」ということへの改善が期待される。

また「移動」に負担のかかる障がいのある方にとってもオンライン開催は有効であった。前回は当事者チームの出席は会議の開催地に所在するチームのみであったが、今回は他県からの出席も可能としたため、当事者チームの出席を増やすことができた。

出席者が増えることに比例して、会議時間の設定や進行が難しくなるが、一方でネットワークが拡大することにより、今後の各地域における活動の発展性が高まる。現に今回の繋がりによって、新しい動きが始まっている地域も出てきている。

オンライン開催が有効といっても、大人数の会議では会話のキャッチボールには限界がある。やはり、実際にフェイス・トゥ・フェイスで会話することも大事ではあるので、新型コロナウイルス感染が収束し、訪問会議ができるようになった折には、オンライン参加も可能なハイブリッドな会議も検討していきたい。

本会議を 2 年継続して思うことは、同じ地域でも都道府県によって状況は様々であることから、同じテーブルでの議論がなかなか深まっていけないことだ。たとえば、7 つの障がい者サッカーの全てのカテゴリーのチームがある県と一つしかない県では、自ずと検討する内容が異なってくるため、テーマを絞るのが難しくなってしまう。このようなことから、今後は地域毎の会議を継続していきながらも、地域を越えた、同様の状況の都道府県が集まれる機会を設定するなど、きめ細かい対応が必要だと考えている。

いずれにしても、まだ種まきが終わったような段階であり、この種を将来の豊かな実りに繋げるためには、長期にわたる継続した活動が必要である。コロナ禍の難しい時代に入っているが、諦めることなく、工夫をしながら少しずつでも前進していきたいと思う。

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟
専務理事 松田薫二

目次

はじめに

	頁
I. 事業概要	・・・ 6
1. 事業の目的と内容	
(1) 現状	
(2) 昨年度事業の振り返り	
(2) 本事業の目的と内容	
①実施体制	
②9 地域障がい者サッカー連携会議	
③コロナ禍での対応について	
④実施スケジュール	
II. 9 地域障がい者サッカー連携会議	・・・ 12
1. 目的	
2. 概要	
(1) 参加者	
(2) 参加条件	
(3) 実施期間と参加人数	
(4) 参加者属性	
(5) 満足度調査	
3. 事業内容	
(1) 共通	
(2) 北海道	
(3) 東北	
(4) 関東（北）	
(5) 関東（南）	
(6) 北信越	
(7) 東海	
(8) 関西	
(9) 中国	
(10) 四国	
(11) 九州	
III. 成果	・・・ 140
1. 障がい者サッカーに携わる方の増加	
2. 地域連携を推進する組織または会議体の増加	
3. 地域特性および課題の類型化	
4. JFA による都道府県サッカー協会への障がい者サッカー活動支援の充実	

おわりに

【添付資料】

1. 2020 年度 9 地域障がい者サッカー連携会議案内資料
2. 2019 年度 9 地域障がい者サッカー連携会議実施報告サマリー

【報告書作成担当者】

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

専務理事 松田薫二

理事 日比野（田中）暢子

事務総長 山本康太

事務局員 神谷衣香、山口紗都美

I. 事業概要

1. 事業の目的と内容

(1) 現状

東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催年を迎え、スポーツを通じた共生社会の実現に向けて機運醸成、環境整備等がさらに進んでいるが、いずれもパラリンピック競技に関わる活動に限り、地域も首都圏が大半を占めている。また、東京2020大会へ向けて実施されているものが多く、大会後にはパラスポーツ競技団体の約6割が活動縮小を予定する等、継続性、発展性に不安が残る。

サッカー界では、2014年5月15日に公益財団法人日本サッカー協会（以下、JFA）が「JFAグラスルース宣言」を行い、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを身近に楽しめる環境を目指し、障がい者サッカーとの連携が始まった。そして、2016年4月に7つの障がいサッカー競技団体*1（以下、7競技団体）が社員となる一般社団法人日本障がい者サッカー連盟（以下、JIFF）が設立され、JIFFの活動により首都圏を中心として、Jリーグクラブとの連携は徐々に進んでいるものの、首都圏以外の地域における7競技団体と都道府県サッカー協会やJリーグクラブとの関係構築や、障がい者が安心・安全にサッカーを楽しめる環境になるには未だ多くの課題が存在している。

*1=特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会、一般社団法人日本CPサッカー協会、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会、一般社団法人日本ろう者サッカー協会

(2) 昨年度事業の振り返り

本連盟は、上記の課題に取り組むべく、JFAとともに2019年度に「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」として「7競技団体の登録クラブチームへのアンケート調査」、「9地域障がい者サッカー連携会議（以下、地域連携会議）」を実施した。

アンケート調査は、障がい者スポーツ団体（障がい者サッカー団体）を対象とした支援のニーズ調査および体制整備に係る助言、同団体支援への理解の促進を図るための情報提供を行うことを目的として実施し、調査対象269チーム中、132チームからの回答を得た。

地域連携会議は、一般のスポーツ団体（サッカー団体）と障がい者スポーツ団体（障がい者サッカー団体）間の連携を図ることを目的として、全国9地域（北海道、東北・宮城県、関東・東京都、北信越・長野県、東海・愛知県、関西・大阪府、中国・広島県、四国・愛媛県、九州・鹿児島県）で実施し、7競技団体の地域担当者、7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等、延べ340名が参加した。

これらを通じて、①障がい者サッカー関係者の初顔合わせ、②全国の活動状況把握（地域単位）、③7つの障がい者サッカーの共通課題抽出の3つの成果を得ることができ、「連携機会の創出」と「情報共有の場」ができた。

(3) 本事業の目的と内容

本事業は、以下の2つを目的として実施した。

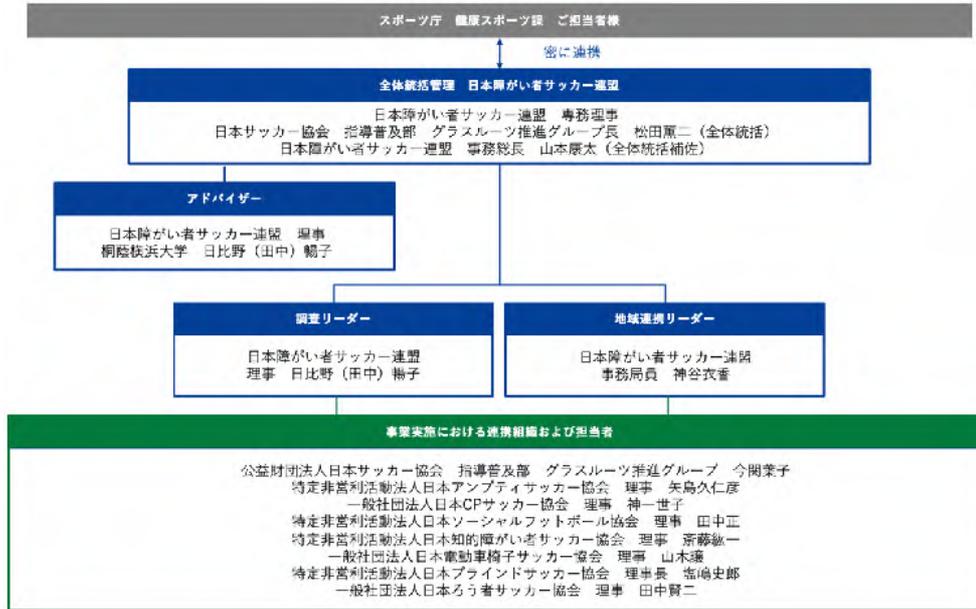
- a. 障がい者スポーツ団体における連携の推進
- b. 情報収集及び障がい者スポーツ団体への情報提供

2020年度（令和2年度）は、コロナ禍のためオンライン開催となったが「9地域障がい者サッカー連携会議」を継続開催し、一般のスポーツ団体（サッカー団体）と障がい者スポーツ団体（障がい者サッカー団体）間の連携を図った。事前に各地域における活用状況や展望を障がい者サッカー7競技団体および都道府県サッカー協会等に情報収集し、2019年度抽出した課題とともに地域連携会議内で共有した。また、都道府県別等のグループに分かれ、その後も定期的にディスカッションが行えるような仕組みの考案、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場の考案をするディスカッションを行なった。

地域連携会議には昨年度より100名増の440名が参加し、①障がい者サッカーに携わる方の増加、②地域連携を推進する組織または会議体の増加、③地域特性および課題の類型化、④JFAによる都道府県サッカー協会への障がい者サッカー活動支援の充実の4つの成果を得ることができた。

① 実施体制

事業実施におけるコアメンバーを4名体制とし、関連する組織および担当者もプロジェクトメンバーとして実施した。実施体制は下図表の通り。



全体統括を担う JIFF の専務理事松田は、JFA グラスルーツ推進グループ長を兼務している。グラスルーツ推進グループは、JFA 内で障がい者サッカーを担当する部署で、JIFF と JFA のスムーズな連携が可能になる。

全体統括補佐を担う JIFF の事務総長山本は、これまで加盟団体である特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会に事業戦略（広報、資金調達、マーケティング等）を統括、大会運営を経験し、代表チームおよびクラブチームとの連携を行ってきており、加盟団体や登録するクラブチームの環境に精通している。

アドバイザーを担う理事の日比野（田中）暢子は、スポーツ政策学を専門とし、中央競技団体の競技環境整備に関する研究が多くある。また実践としては、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会理事、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会アドバイザーなどを務めている。

地域連携リーダーを担う神谷衣香は、2019 年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」実施時に連携の実務、2020 年度同事業実施にはリーダーを務めており、障がい者サッカー7 競技団体、全国の障がい者サッカークラブ、Jリーグクラブの連絡窓口となり直接的に知り得る担当者である。

関連する組織とのスムーズな連携を行うため、事業実施における連携組織およびメンバーには各連携組織からプロジェクトメンバーとして入ってもらった。

② 9 地域障がい者サッカー連携会議

全国 9 地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）に分け「9 地域障がい者サッカー連携会議」をオンラインで実施した。地域連携会議には、7 競技団体の地域担当者、7 競技団体に登録する地域の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等、延べ 440 名が参加し、地域全体での現状および好事例・先進事例の情報共有のみならず、都道府県単位等に細分化したグループでディスカッションを実施した。

詳細については、II. 9 地域障がい者サッカー連携会議にて後述する。

③ コロナ禍での対応について

新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン会議ツール「zoom」を活用し、地域連携会議を全てオンラインで実施した。

④ 実施スケジュール

・全体スケジュール

実施時期	計画事項			備考
	(1) 障がい者スポーツ団体における連携の推進	(2) 情報収集及び障がい者スポーツ団体への情報提供	(3) 委託事業成果報告書の作成	
6月				
7月	事業推進部会実施	作業部会実施 (取りまとめ準備)		
8月				
9月				
10月	地域連携会議	ヒアリング 実施		
11月	実施	(情報収集)		
12月		情報提供	取りまとめ準備	
2020年1月			書類作成	
2月				
3月		実施報告書作成		

・事業推進部会スケジュール

主な出席者：

松田薫二（JIFF 専務理事、JFA 指導普及部グラスルーツ推進グループ長）

山本康太（JIFF 事務総長）

神谷衣香（JIFF 事務局員）

山口紗都美（JIFF 事務局員）

今関葉子（JFA 指導普及部グラスルーツ推進グループ）

	日程・場所	出席者	アジェンダ
1	7月1日（水）13:00～14:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、今関葉子	・会議コンテンツ検討
2	7月8日（水）14:00～15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、今関葉子	・会議コンテンツ検討
3	7月9日（木）15:00～16:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、今関葉子	・会議コンテンツ検討
4	7月15日（水）15:00～16:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、今関葉子	・会議コンテンツ検討

5	8月19日(水) 16:00~17:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、今関葉子	・会議コンテンツ検討
6	8月28日(金) 11:00~12:30 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、今関葉子	・会議コンテンツ検討
7	9月2日(水) 13:00~14:30 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、今関葉子	・会議コンテンツ検討
8	9月3日(木) 17:30~18:30 オンライン	山本康太、神谷衣香、山口紗都美	・会議運営方法検討
9	9月9日(水) 13:00~14:30 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・会議コンテンツ検討
10	9月16日(水) 14:30~15:30 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・四国会議リハーサル
11	9月23日(水) 16:30~17:30 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・四国、北海道会議内容確認
12	9月30日(水) 15:00~16:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・9月24日四国会議振り返り ・次回会議内容確認
13	10月7日(水) 14:00~15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・10月5日北海道会議振り返り ・次回会議内容確認
14	10月14日(水) 17:00~18:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・進捗報告 ・次回会議内容確認
15	10月27日(火) 15:00~16:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・10月22日九州会議振り返り ・次回会議内容確認
16	11月2日(月) 15:00~16:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・10月29日中国会議振り返り ・次回会議内容確認
17	11月11日(水) 14:00~15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・11月9日北信越会議振り返り ・次回会議内容確認
18	11月18日(水) 14:00~15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美	・11月16日東北会議振り返り ・次回会議内容確認
19	11月25日(水) 14:00~15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・進捗報告
20	12月3日(木) 17:00~18:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	・11月26日関西会議振り返り ・次回会議内容確認

21	12月23日(水)14:00~15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美	<ul style="list-style-type: none"> ・12月7日東海会議振り返り ・次回会議内容確認 ・報告書準備 ・報告書役割分担確認
22	2021年 1月6日(木)14:00~15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	<ul style="list-style-type: none"> ・次回会議内容確認
23	1月14日(木)16:00~17:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	<ul style="list-style-type: none"> ・1月13日関東(北)会議振り返り ・次回会議内容確認
24	1月22日(金)14:30~15:30 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	<ul style="list-style-type: none"> ・1月21日関東(南)会議振り返り ・報告書進捗確認

・作業部会スケジュール

	日程	出席者	アジェンダ
1	4月27日(月)18:00~19:30 オンライン	JIFF 理事・監事 JIFF 事務局：山本康太、神谷衣香	<ul style="list-style-type: none"> ・JIFF 理事会承認 ・目標設定等の再確認 ・報告書構成の検討
2	7月29日(水)19:00~20:30 オンライン	JIFF 理事・監事 JIFF 事務局：山本康太、神谷衣香	<ul style="list-style-type: none"> ・会議日程承認 ・進捗報告
3	12月23日(水)14:00~15:00 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書構成の再検討 ・報告書役割分担確認
4	2021年 1月22日(金)14:30~15:30 オンライン	松田薫二、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作業スケジュール確認
5	2月8日(木)13:30~15:00 オンライン	山本康太、神谷衣香	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書目次の作成 ・報告書作業進捗確認
6	3月11日(木)10:15~11:30 オンライン	松田薫二、日比野(田中)暢子、山本康太、神谷衣香、山口紗都美、今関葉子	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内容の検討
7	3月12日(金)13:00~14:00 オンライン	松田薫二、日比野(田中)暢子、山本康太、神谷衣香	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内容の検討
8	3月15日(月)13:30~15:00 オンライン	松田薫二、日比野(田中)暢子、山本康太、神谷衣香、山口紗都美	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書内容の検討

・ヒアリング実施（情報収集）スケジュール

	日程	対象者	ヒアリング内容
1	10月13日(火) メールアンケート	7競技団体 担当者： 前鼻啓史、神一世子、佐々毅、 斎藤紘一、山木謙、佐藤豪、 田中賢二	九州 ・地域での取り組み ・都道府県サッカー協会・Jクラブ等への 要望等
2	10月22日(木) メールアンケート	7競技団体 担当者： 前鼻啓史、神一世子、佐々毅、 斎藤紘一、山木謙、佐藤豪、 田中賢二	中国 ・地域での取り組み ・都道府県サッカー協会・Jクラブ等への 要望等
3	10月29日(木) メールアンケート	7競技団体 担当者： 前鼻啓史、神一世子、佐々毅、 斎藤紘一、山木謙、佐藤豪、 田中賢二	北信越および東北 ・地域での取り組み ・都道府県サッカー協会・Jクラブ等への 要望等
4	11月19日(木) メールアンケート	7競技団体 担当者： 前鼻啓史、神一世子、佐々毅、 斎藤紘一、山木謙、佐藤豪、 田中賢二	関西 ・地域での取り組み ・都道府県サッカー協会・Jクラブ等への 要望等
5	11月25日(水) メールアンケート	7競技団体 担当者： 前鼻啓史、神一世子、佐々毅、 斎藤紘一、山木謙、佐藤豪、 田中賢二	東海 ・地域での取り組み ・都道府県サッカー協会・Jクラブ等への 要望等
6	12月22日(火) メールアンケート	7競技団体 担当者： 前鼻啓史、神一世子、佐々毅、 斎藤紘一、山木謙、佐藤豪、 田中賢二	関東（北、南） ・地域での取り組み ・都道府県サッカー協会・Jクラブ等への 要望等

・その他会議スケジュール（Jリーグ、9地域サッカー協会）

	日程・場所	出席者	アジェンダ
1	8月17日(月) 10:00~11:00 オンライン	Jリーグ：鈴木順、青山優香 JFA：今関葉子 JIFF 事務局：松田薫二、山本康太、神 谷衣香	・JリーグおよびJリーグクラブとの 連携の依頼 ・Jリーグクラブへの情報展開
2	9月10日(木) 12:30~13:30 オンライン	JIFF 事務局：松田薫二 JFA：今関葉子	・地域代表理事会議（JFA 主催）での 依頼

Ⅱ. 9地域障がい者サッカー連携会議

1. 目的

JFAとJIFFは協働し、一般のスポーツ団体（サッカー団体）と障がい者スポーツ団体（障がい者サッカー団体）間の連携として、地域における障がい者サッカー競技団体と47都道府県サッカー協会、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブとの連携および体制を整備することを目的に、2020年9月より全国9地域で「9地域障がい者サッカー連携会議（以下、地域連携会議）」を2019年度に続き継続開催した。地域連携会議は、コロナ禍での開催となったためオンラインにて実施した。

地域連携会議では、各地域における活用状況や展望を障がい者サッカー7競技団体および都道府県サッカー協会等に事前に情報収集し、2019年度抽出した課題とともに地域連携会議内で共有した。また、都道府県別等のグループに分かれ、その後も定期的にディスカッションが行えるような仕組みの考案、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場の考案をするディスカッションを行なった。各地域の活動および普及状況にあわせた障がい者サッカーの活動を促し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境整備を進めた。

2. 概要

地域連携会議はオンラインで2時間を基本とし、2019年度の振り返りおよび新規事例等の発表とディスカッションの2部構成で実施した。（詳細は、3. 事業内容にて後述する）。

（1）参加者

- ・47都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者
- ・9地域サッカー協会担当者
- ・障がい者サッカー7競技団体*の地域担当者
- ・障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者
- ・その他地域連携会議に参加が必要とされる障がい者サッカー団体
- ・JリーグクラブおよびJリーグ百年構想クラブ担当者
- ・JIFF担当者
- ・JFA障がい者サッカー担当者

*=特定非営利活動法人日本アンブティサッカー協会（切断障がい）、一般社団法人日本CPサッカー協会（脳性麻痺）、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会（精神障がい）、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟（知的障がい）、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会（重度障がい）、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会（視覚障がい）、一般社団法人日本ろう者サッカー協会（聴覚障がい）

（2）参加条件

①47都道府県サッカー協会

・障がい者サッカー担当者の会議への出席を必須とした。やむを得ず出席不可の場合は、各地域での取り組み内容を説明可能な方が代理出席を必須とした。

②障がい者サッカー7競技団体

・会議には、各地域での取り組み内容の説明が可能な地域担当者の参加を必須とした。やむを得ず出席できない場合は、代理出席を必須とした。

③障がい者サッカークラブ

・地域で活動する障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブへの案内を行ない、任意参加とした。

④JリーグクラブおよびJリーグ百年構想クラブ

・地域で活動するJリーグクラブおよびJリーグ百年構想クラブへの案内を行ない、任意参加とした。

(3) 実施期間と参加人数

実施期間	2020年9月24日～2021年1月21日
参加総数*	440名（延べ人数）
実施単位	9地域： 北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州
実施回数	10回： 北海道、東北、関東(北)、関東(南)、北信越、東海、関西、中国、四国、九州

(4) 参加者属性

①組織別人数（延べ、重複あり）

JFA	28 名
9地域サッカー協会	6 名
都道府県サッカー協会	67 名
Jリーグクラブ	81 名
Jリーグ百年構想クラブ	9 名
その他サッカー関連団体	4 名
アンブティサッカー	27 名
CPサッカー	28 名
ソーシャルフットボール	45 名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	22 名
電動車椅子サッカー	35 名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	35 名
デフサッカー／ デフフットサル	17 名
その他障がい者サッカー 関連団体	14 名
JIFF	43 名
合計	461 名

②部門別人数（延べ、重複あり）

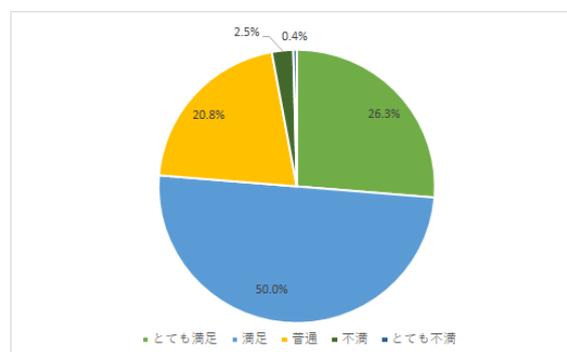
役員・管理職	172 名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	117 名
管理部門	89 名
強化・指導者	54 名
選手	21 名
合計	453 名

*同一人物が複数組織または複数部門に所属している場合があるため、参加延べ数が重複している。

(5) 満足度調査

アンケート回答者の76%から参加満足度の高い結果が得られた。

(n=240)



3. 事業内容

(1) 共通

地域連携会議は、2019年度会議の振り返りおよび2019年度会議以降の状況や取り組み事例についての共有とディスカッションの2部構成で実施した。2019年度以降の障がい者サッカー7競技団体の状況および地域連携の取り組みについて、全会議共通となる内容をまとめて掲載する。

①参考：会議の前提となる共通課題（2019年度会議の振り返り）

■ 選手の発掘が困難

- ・ 普通学校へ通学する障がい者が増えたことで、競技団体およびクラブチームと障がい当事者との接点がつくりにくくなっている。
- ・ 競技ごとに選手発掘の傾向はみえているが、十分なアプローチができていない。

■ 地域差があり環境整備が困難

- ・ 地域ごとの普及状況（競技者数、チーム数等）の格差が大きい。
- ・ 関東や関西にチームが集中し、他地域では障がい種別ごとのチームづくり、環境整備が難しい傾向にある。

■ サッカー専門の指導者が不足

- ・ 多くの障がい者サッカークラブチームには、競技に精通したサッカー専門の指導者が不在。

■ 活動資金が不足

- ・ 障がい特性、競技特性により、介助・サポートの確保や競技用具の調達等、競技者の費用負担が大きく、競技活動を開始するハードルになっている。
- ・ チーム運営を継続するにあたり、活動資金の調達が課題。

②障がい者サッカー7競技団体の活動状況と地域連携の取り組み・展望

競技名	活動状況と地域活動の取り組み・展望
アンプティサッカー (切断障がい)	<p>■コロナ禍での活動状況</p> <p><大会等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年内の全国大会中止 ・ 東日本リーグは感染症対策のうえ開催 ・ 体験会は感染症対策のうえ実施 <p><チーム活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本協会として競技再開ガイドラインを策定し周知 <ul style="list-style-type: none"> - ガイドラインを参考に、練習は各チームの判断で実施 - 現状多くのチームがチーム練習その他の活動も再開している ・ 体験会は感染症対策のうえ実施可能 ・ 屋外練習場所の確保が困難 ・ 体験会は感染症対策のうえ実施 <p>■地域活動の主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020本年度より健常者サッカーチームに対して、アンプティサッカー部門の新設進出支援の制度を設置の準備を開始 (継続的なトレーニング環境の獲得、専門的な指導を受ける機会の構築、初期費用の補助や競技用具の貸与等)

	<ul style="list-style-type: none"> ・チームがない地域での大会、交流会、体験会の実施において各都道府県サッカー協会等と連携
CPサッカー (脳性麻痺)	<p>■コロナ禍での活動状況</p> <p><大会等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年内の全国大会中止 <p><チーム活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習は各チームの判断で実施 <p>■地域活動の主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年岐阜県で全日本選手権を開催（2020年度は中止） ・日本ソサイチ連盟と普及面での連携を開始 （2020年度は各地域で予定していたフットサル大会は中止） ・女子選手の発掘、普及 （各地での女子サッカークリニックやイベント開催） ・競技対象外の脳性麻痺者への場の提供（フレームフットボール）
ソーシャルフットボール (精神障がい)	<p>■コロナ禍での活動状況</p> <p><大会等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年内の全国大会中止 <p><チーム活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習は各チームの判断で実施 ・コロナ禍では屋外での練習が望ましいが場所の確保が困難 <p>■地域活動の主な取り組み・展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及が進んでいない地域での全国大会開催 ・Jリーグクラブとの連携によるイベント開催
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	<p>■コロナ禍での活動状況</p> <p><大会等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年内の全国大会中止 <p><チーム活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習は各チームの判断で実施 ・コロナ禍では感染予防対策をするためにスタッフが居合わせる必要があり選手だけでの練習が実施できない ・屋外は場所の確保が困難 <p>■地域連携の主な取り組み・展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国障がい者スポーツ大会の競技として全国に普及しており、各都道府県サッカー協会との連携がある ・地域ごとの活動が主 <ul style="list-style-type: none"> - 6地域（関東、東北、東海、関西、中四国、九州）に連盟設置 - 各都道府県サッカー協会が担っている地域も多い - 北信越は特に活動が少なく、チーム数等の現状把握が曖昧 ・高校選手権および全日本選手権の地域予選開催 ・2018年に女子委員会を立ち上げ、女子への普及を開始（関東、関西、東海でトレセン実施）

<p>電動車椅子サッカー (重度障がい)</p>	<p>■コロナ禍での活動状況 <大会等> ・年内の全国大会および協会主催事業中止 <チーム活動> ・練習は各チームの判断で実施 - 体験会は原則実施不可 - 進行性かつ重度の障がいのある選手が多く練習参加は不安が多い</p> <p>■地域連携の主な取り組み・展望 ・日本選手権の開催地域変更 ・コロナ禍前は各地での体験会実施 ・コロナが落ち着いたら各所と連携していきたい</p>
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル (視覚障がい)</p>	<p>■コロナ禍での活動状況 <大会等> ・全国大会は対策のうえ開催 (1stラウンドは大阪、広島、埼玉、茨城、東京に分かれて実施) ・体験会は対策のうえ実施可能 <チーム活動> ・練習は各チームの判断で実施 ・体験会は対策のうえ実施可能</p> <p>■地域連携の主な取り組み・展望 ・日本協会主催の地域リーダープログラムを通じてクラブチームが増加中 ・学校での体験会実施 ・各地で全国大会予選の開催(大阪、広島、埼玉、茨城、東京の5地域) ・行政との連携による体験会実施(健常の学校での体験会も多く実施) ・コロナ禍前はキッズキャンプ(関東、関西)、トレーニングの実施(関東、関西、東海の3地域) ・地域リーダープログラムの継続的实施</p>
<p>デフサッカー／ デフフットサル (聴覚障がい)</p>	<p>■コロナ禍での活動状況 <大会等> ・年内の主催大会中止 <チーム活動> ・練習は各チームの判断で実施 ・北海道、東日本、西日本、山口・九州の4つのブロックで活動</p> <p>■地域連携の主な取り組み・展望 ・日本代表合宿をさまざまな地域で実施し、現地での交流を図っている ・クラウドファンディングを実施し地域での体験会実施</p>

(2) 北海道

①会議概要

開催日時	2020年10月5日（月）会議 18:00～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 ・日本障がい者サッカー連盟 5分 ・コンサドーレ札幌 2分 ・7競技団体活動状況 15分 4. ディスカッション 75分 5. 写真撮影、クロージング 3分
参加人数（実数）*	24名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	4名
9地域サッカー協会	0名
都道府県サッカー協会	4名
Jリーグクラブ	1名
Jリーグ百年構想クラブ	0名
その他サッカー関連団体	0名
アンプティサッカー	2名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	2名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	1名
電動車椅子サッカー	1名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	4名
デフサッカー／ デフフットサル	2名
その他障がい者サッカー 関連団体	0名
JIFF	4名
合計	27名

部門別人数

役員・管理職	11名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	2名
管理部門	6名
強化・指導者	5名
選手	0名
合計	24名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
コンサドーレ北海道	■特別支援学校部活動への指導者派遣を開始 ・北海道教育委員会からの依頼により、2020年から特別支援学校の部活動への指導者派遣を開始した。毎週月曜日と木曜日の週2回。本来であれば2020年4月より実施予定だったが、コロナの影響で延期となり6月途中からの開始となった。10名程度のサッカー部員（主に知的障がい）に指導を行っている。
全体ディスカッション	
(1) 状況・課題・要望の共有	
アンプティサッカー	■活動状況

<p>日本協会 アシルスフィード北海道AFC</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道内で活動するチームはアシルスフィード北海道AFC（道央圏）のみ。道北、道南、道東にはチームがない。 ・選手が少なく、新規の選手発掘も苦戦している。 ・コロナ禍では屋内で練習することに不安があり、屋外が望ましいが練習場所の確保が困難。 <p>■今後の展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンフットボール発祥の地でもある北海道で、アンプティサッカー4人制の全国大会を実施したい。 <ul style="list-style-type: none"> - 現在の仮称は「アンプティサロンフットボール」。 - 初開催となる第1回は北海道で実施したいと考えている。 - あらゆる人々に競技参加の門戸を開き、アンプティサッカー関係人口の増加のみならず、パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ文化の基盤構築のひとつとして取り組んでいきたい。 - ぜひ他団体・組織に協力ないし後援をしてほしい。また関心のある方や組織の紹介等も歓迎している。
<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道では1チームが活動していた（協会未登録）が、現在は活動できていない状況。 ・日本CPサッカー協会として2020年に北海道でイベントを実施予定だった（コロナの影響で中止）。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道でCPサッカーの選手・チームがなかなか出てこない。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技希望の選手が出てきたときに、CPのチームに限らず、他の障がい者サッカーチームや健常者チームが受け皿となれるよう、連絡・協力体制を整えていきたい。 ・2021年以降、普及を兼ねたイベントを検討中。
<p>ソーシャルフットボール 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道は土地柄により独立しているため、道内でトーナメント、リーグ戦や、個人参加の活動、各チームの活動を、それぞれ連携を持ちながら取り組んでいる状況。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県協会やJリーグクラブに各障がい者サッカー競技団体を応援しているというメッセージの発信をしてほしい。 ・北海道は競技人口とチーム数が多く、とりまとめるのも容易ではないが、各地域の自主的な活動を尊重し、より良いバックアップをできるよう取り組んでいきたい。
<p>知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル 北海道サッカー協会</p>	<p>北海道サッカー協会より)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道サッカー協会の中で唯一サッカーファミリーのひとつのカテゴリーとして存在している。 ・北海道内で登録24チーム、登録者数は460人。 ・例年の4つの全道大会のうち、コロナにより3大会が中止。 ・冬季はフットサルの季節となり、2021年3月には全道のフットサル大会を実施予定。
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道内には北海道電動車椅子サッカー協会と、それに所属するチームとしてSafilvaが活動している。 <p>■課題</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・選手が発掘しにくい。 ・冬場は選手が身動きを取りづらいため、通年で1月から3月くらいは活動を中断・停止している状況。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由でも電動車椅子があれば誰でも参加できるということを広く伝えていきたい。 ・特別支援学校等の協力も得ることで選手発掘の機会が広がるのではないかと考えている。
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 日本協会 ナマーラ北海道 とちかflow</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、北海道では2チームが活動中（ナマーラ北海道、とちかflow）。 ・とちかflowは2020年7月にチーム登録。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラブチームでも練習や大会の場所確保に苦戦している。 <p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会開催にあたり、北海道サッカー協会、Jリーグクラブ等に既にリレーションがある会場等を紹介してもらいたい。 ・各クラブチームとしても練習や大会の場所確保に苦戦しているため、協力を得たい。 ・他競技団体の大会と、ブラインドサッカーの大会を併せて開催できると良い。デモンストレーションだけでなく、試合を見てもらうほうが普及や認知の影響力があると感じている。 ・現在、コンサドーレ札幌のホーム試合の際にPRブースを設けたり、インタビューを受けてPR等をさせてもらっているが、その際手話通訳や字幕をつけてもらうようお願いをしている。
<p>デフサッカー／ デフフットサル 日本協会 北海道ろう者サッカー協会 （兼北海道サッカー協会）</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年は道内各地域でのリーグ戦が実施できず、トーナメントに振り替えて実施している。 ・全日本ろう者サッカー選手権に向けて、道外にいる北海道出身の選手を集め、北海道チーム代表として試合に参加。（2020年度は中止） <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道全体でのデフサッカー人口が減少している。 <ul style="list-style-type: none"> - 学校卒業後、道外に出ていってしまうことで道内には若い選手が非常に少ない。 - 道内のみで北海道チーム代表メンバーを集めるのは非常に困難。 - 現在は子どもたちに対して、小・中・高校生を対象としたスポーツ交流のイベントなどを開催している。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年は、2020年同様に交流や普及関係のイベントを実施予定。
<p>Jリーグクラブ コンサドーレ札幌</p>	<p>■連携の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道唯一のサッカークラブとして、広報の面で協力したいが、コロナの影響で2020年は具体的な行動に移せなかった。 ・イベント等の告知もクラブを通じて行うことで、ホームゲーム時にサブグラウンドを提供することも検討していた。（コロナの影響もあり実施には至らなかった）。 ・クラブから特別支援学校でのサッカー指導を始められたことは前進。現場で様々な障がい者サッカー関係者と触れ合うことの大切さを実感している。

<p>都道府県サッカー協会 北海道サッカー協会</p>	<p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初は競技会の設置を主に検討していたが、それと並行して8月のフェスティバルで7競技団体と協力して企画や運営を担うことで連携が強化・持続できるのではないか。 ・施設利用については、例年10月～11月にかけて翌年4月以降のアンケートを行っているため、そこで希望を挙げてほしい（土日に関しては既に埋まっている状況だが、調整可能な場合もある）。 ・例年2月に札幌ドームで実施しているイベントがあり、3日間確保が可能であり、各競技に提供は可能だと考えている。 ・協会のHP等で障がい者サッカーを応援しているというメッセージ発信のため、JIFFバナーかリンクを貼り、7競技団体の情報発信に協力する。 <p>■協会内での障がい者サッカー組織化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会の2025プロジェクトのミッションのひとつとして「障がい者サッカーの充実」を掲げており、横で連携する協議会の設立を考えていたが、コロナの影響で今年は断念。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各障がい者サッカー競技団体では主に活動場所の確保、選手発掘、指導者・審判の育成が課題となっており、これは7競技団体やチーム個別の取り組みでは発展させることが困難。まずは北海道サッカー協会が主催しているフェスティバル等で各7競技団体やチームが集まる場を設け、イベントの企画や運営を協力して担うことで連携の強化を図り、今後に繋げる。 ・障がい者サッカーの広報強化が先決のため、唯一のJリーグクラブであるコンサドーレ札幌や、北海道サッカー協会を中心にホームゲームやHP等で7競技団体と連携した発信を行っていくことが必要。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、道内では連携が取れているほうなので、今回のように年1回対話できる場を継続することが大切だが、具体的に誰がイニチアティブを取るかまでは決定していない。 ・まずは、北海道サッカー協会が提供している障がい者サッカーに関する補助金や、JFAから各都道府県サッカー協会に提供している補助金を活用し、会議の開催を検討してもらう。



③参加者の声

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠方の参加でオンラインによる、情報共有ができたため ・コロナ禍での環境であっても開催できるリモート会議であったこと <p>■満足 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な意見を聞くことができたため ・2年目を迎え、地域課題がより具体化されたと感じました。 ・内容は前回とあまり変わらないものの、定期的に継続的に会を開くことが重要であると考えるため。 <p>■普通 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席者が多く、北海道の各競技の現状が殆ど伝わっていないように感じられたため。 ・手話通訳者が交代するたびに画面が変わるので手話通訳の画面を捜さなければならず、会議の内容が分からない所もありました。 <p>■不満 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繋がりのお機会についてさらに具体的なやり取りが必要だと思えます。単なる活動の実情についての焦点化はこの連携会議の場においては疑義を呈するところです。特にディスカッションでは地域内での話の共有のみに終着せず、地域から「7団体の中央」に向けて具体的な連携の手がかりとなる発信がキーポイントとなるように思います。また、7団体の中央の各リーダーからも該当地域に根差した独自の展望例の提示は必要不可欠と感じ、わたし自身も反省しております。
<p>感想・気づいた点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の状況や共通の課題、今後について等を聞いて、更にディスカッションの中で解決するような事項もあり、実りある時間だと感じた。 ・各統括団体（本体）と地域との情報共有が不十分で、各競技とも地域の実態が上手く伝わっていないように感じた。 ・オンラインでの実施でしたが、情報補償に対する配慮や事前準備等にも余念がなく、素晴らしいものとなったと感じた。 ・この会議に参加をさせて頂き繋がりを感じる事ができ、心強く思う ・オンライン会議の時は私のそばに手話通訳者が付いた方がスムーズだと思う。 ・潤沢な予算（助成基金）がついているかと思うが、連携会議において「魅せ方・作り方（音楽・造形表現も含む）」について外部の精通した者へ外注することも必要ではないか。わたしの至らなさもありますが、いまいちお金をかけている点あまり感じ取れません。ただし、毎度あげていただく資料は非常に見やすい。 ・機会があつてろう者協会と一緒に参加した。2時間近い会議はお疲れになったかと思うので、1.5時間以内で実施されたら良いかと思う。 ・配布資料と会議資料が若干違う所を統一してくれると良い。
<p>来年の参加希望</p>	<p>■参加したい 8名</p> <p>■参加したくない 0名</p> <p>■どちらでもない 1名</p>

<p>今後同様の会議を実施する場合の単位</p>	<p>■実施単位</p> <p>9地域ごと 3名</p> <p>都道府県ごと 1名</p> <p>9地域ごと・都道府県ごと両方 4名</p> <p>その他 1名</p> <p>■「その他」の意見</p> <p>・冷静に俯瞰視するためにもクールダウン期は必要かと思う。ただしなんらかの活動はすべき。フットボールカンファレンスの障がい者サッカー版の機会構築に期待している。ぜひパラフットボール先進国の先進的事例についてみなで知見を深め、日本版モデルの構築など共有できれば良いのではないか。</p>
<p>その他要望</p>	<p>・都道府県サッカー協会に対する、JIFFの理念・取り組みの啓蒙</p> <p>・私本人車いすユーザーであり、今後ブラインドサッカーの監督やコーチを目指している。車いすでも参加可能な、監督・コーチの育成講座などあれば参加したく情報提供をお願いしたお。また、コーチングライセンス取得など、あれば色々と学んでいきたい。</p> <p>・連携会議ごとに具体的な成果事例を必ず構築するといった意気込みについて醸成をはかっていくことも大事に思われるので、適宜指導してほしい。</p> <p>・選手を見つけるときには行政の協力があると探しやすくなる。しっかりとした団体と思ってもらえることが大切。チームの存在を、ぜひ広く伝えて頂けると嬉しい。</p>

(3) 東北

①会議概要

開催日時	2020年11月16日(月) 会議 18:00～16:00
開催方法	オンライン (Zoom)
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 15分 地域内の新規事例共有 7競技団体の地域内での状況や展望の共有 4. グループディスカッション 75分 5. ディスカッション概要共有、写真撮影 10分
参加人数(実数)*	42名

*参加者属性：

組織別人数(重複あり)

JFA	2名
9地域サッカー協会	0名
都道府県サッカー協会	7名
Jリーグクラブ	6名
Jリーグ百年構想クラブ	2名
その他サッカー関連団体	1名
アンプティサッカー	3名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	7名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	2名
電動車椅子サッカー	2名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	3名
デフサッカー／ デフフットサル	2名
その他障がい者サッカー 関連団体	0名
JIFF	4名
合計	43名

部門別人数

役員・管理職	18名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	8名
管理部門	9名
強化・指導者	4名
選手	3名
合計	42名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
知的障がい者サッカー	<p>■地域連携の主な取り組み</p> <p>・知的障がい者サッカー指導者養成講習会の開催協力等</p> <p>日本知的障がい者サッカー連盟主催の「知的障がい者サッカーB級指導者養成講習会」を岩手県で開催するにあたり、岩手県サッカー協会に会場や宿泊施設の調整等、協力を得た。(講習会は新型コロナの影響により中止)</p> <p>また、東北地区の各県サッカー協会のホームページに募集要項を掲載し告知協力を得た。青森県サッカー協会と宮城県サッカー協会からは参加申し込みもあった。</p>

7競技団体の地域内での状況や展望の共有	
アンプティサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・東北で活動しているチームはない ・宮城県に選手が1名のみいるが、埼玉県のチームに所属している。 ・体験会やイベントを実施したい。
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県（仙台）では過去にチームが立ち上がったことがあるが、継続困難だった。 ・日本ソサイチ連盟「ソサイチリーグ」と連携して各地で試合や体験会を実施している。東北でも計画していたがコロナにより中止。 ・サッカー活動を希望する脳性麻痺の方たちが出てきたときに参加できる、サッカーができる環境（受け入れてもらえるチームや教室等）が整えられるよう連携や情報共有ができる体制をつくりたい。
ソーシャルフットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでチームがなかった秋田県と福島県に、2020年チームが立ち上がり、東北各県にチームができた。 ・各県サッカー協会やJクラブ等と継続的な指導や連携をお願いしたい。
知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年7月に岩手県で「知的障がい者サッカー指導者養成講習会 東北」を開催予定だった。募集の際に、東北地区の各サッカー協会にご協力いただいた。 ・地域の高校生や大学生との交流の機会を設けており、継続していきたい。次世代の指導者育成や競技力向上にも繋がる。 ・今年は岩手でも、フットボールデーで知的障がいに限らない様々な子どもたちが一緒にサッカーを楽しむ機会ができた。各県でそのような機会を増やしていきたい。
電動車椅子サッカー	<p>現在東北地域では1チーム活動しているが、やはり1チームのみの活動では裾野が広がらない状況のため、各県協会、特別支援学校に協力を仰ぎたい。</p>
ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、東北に特化した取り組みはないが、チーム設立を促すため地域リーダープログラムを実施し、今年度はオンラインで開催。→ガルハ青森も本プログラムを経て設立。 ・今後協会としても東北の2チームを盛り上げるための取り組みをしていきたい。
デフサッカー／デフフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・東北では、デフサッカー人口が非常に少なく、活動が活発ではないのが現状。 ・宮城県（仙台）にて「デフキッズ教室」（子ども向けデフサッカークリニック）を開催した。
グループディスカッション	
グループ1（青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
アンプティサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北で活動しているチームはなく、宮城県に選手が1名（埼玉チームに所属し、練習に遠征参加）。 <p>■東北での連携事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベガルタ仙台のイベント内で千葉県のアンプティサッカーチームが体験会を実施。 <p>■今後に向けて・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉など関東から派遣し、体験会等の開催も可能。イベントがある際は声がけしてほしい。
CPサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本CPサッカー協会としても東北地域では体験会やイベントを開催したことがなく、ネットワークが乏しい。

	<p>・ソサイチ（7人制）リーグと連携し、各地域のリーグ戦の際に交流試合や体験会でCPサッカー紹介の機会を準備中。2020年度は東北でも実施予定だった新型コロナの影響で中止。</p> <p>■課題</p> <p>・チームがないため、当事者からプレー希望があっても活動を継続できる場がない。</p> <p>■今後に向けて</p> <p>・ソサイチリーグとの連携で実施する交流試合や体験会を、来年の東北リーグにて実施予定。</p>
<p>ソーシャルフットボール 日本協会スタッフ バリエンテ山形 秋田県精神障がい者フットボールクラブ クレセル郡山</p>	<p>■活動状況 バリエンテ山形)</p> <p>・2月まで練習会と交流会を実施していたがコロナで活動休止。それまで練習は週1回または月3回程度。交流会は関心のある方を招待する形で月1回実施。 ※現在、主に使っている体育館が補修工事をしており練習ができない状況。再開は来年の1、2月頃の予定。</p> <p>秋田県精神障がい者フットボールクラブ)</p> <p>・2020年度はクラブ立ち上げのため選手発掘がメイン。 ・例年、精神障がい者の県スポーツ大会で主にソフトバレーボールが行われており、県内からは3～4チームが出場している。それに乗じてイベント開催予定だったが、選手の発掘に難航した。そのため秋田県障がい者スポーツ協会と連携しながら強化を進めている。</p> <p>クレセル郡山)</p> <p>・2019年に結成し、月1回活動している。 ・選手層を広げるため、福島県障がい者スポーツ協会開催の種目別教室の中で数回授業を実施。 ・2020年度からはより地域を広めていけるようJリーグクラブや県サッカー協会とも連携を図っていく予定だったが、新型コロナの影響で実現できなかった。</p> <p>■今後に向けて・要望</p> <p>・他地域では2019年度の地域連携会議以降、Jリーグクラブと精神科診療所が練習や試合のボランティア等で継続的な取り組みを行っている例がある。ぜひ東北でも持続可能な連携が取れる状況をつくっていききたい。</p>
<p>知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>・岩手県内では知的障がい者サッカーが1チーム、県の選抜チームとして活動していたが、県南にも拠点ができ、現在は2カ所で活動可能となった。</p> <p>■今後に向けて・要望</p> <p>・少年団など健常のチームから、障がい児への指導法が知りたいという声が増えてきた印象。日本知的障がい者サッカー連盟ではJFAのC級ライセンス保有者向けに知的障がいの特性を加えた講習会を開催しているが、より身近にいる障がいの方との関わり方などの講習会や体験会が求められているため、今後検討していきたい。</p>
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>・現在東北では宮城県で1チームのみ活動（日本協会への登録なし）。</p>

	<p>■今後に向けて・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動車椅子サッカーのデモンストレーションなどで知っていただく機会をつくりたい。 ・特別支援学校へのアプローチについて各都道府県の方にアドバイスいただきたい。
<p>ブラインドサッカー 日本協会 ガルハ青森</p>	<p>ガルハ青森)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ブラインドサッカー協会主催の地域リーダープログラムに参加し、現在チームとして活動中。 ・地域で助成金を取得し体験会を実施したり、定期的な練習会（月に1～2回）を実施している。場所は、市内の小学校体育館を借りているため、特に費用もかかっている。体験会を行う際はメディアに取り上げてもらうよう意識しており、それが新たな参加にも繋がっている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の地域連携会議でラインメール青森と繋がることができ、現在も少しずつ連絡を取っている状況。新型コロナの状況が落ち着いたら連携して何かできれば。
<p>デフサッカー／ デフフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北地域では、デフサッカー人口が非常に少なく活動が活発ではないのが現状。 ・日本ろう者サッカー協会としても東北の担当者が不在。 <p>■今後に向けて・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がいがあっても、どこでも気軽にサッカーができる環境づくりにご協力いただきたい。 ・聴覚障がいのある子どもたちがサッカーに触れる機会の創出にご協力いただきたい（試合観戦やサッカークリニック開催等）。 ・デフの日本代表の交流戦の観戦等、子どもたちが目標に持てるような機会づくりにご協力いただきたい。
<p>Jリーグ百年構想クラブ ラインメール青森</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、高齢者の方をホームゲームの会場に招くことに力を入れており、バリアフリーや車椅子の動線なども検討している。実現しそれをぜひ色々な方に見てほしい。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でJFLでも「JFLチャンネル」という形で会場に来られない方に映像を提供。ガルハ青森の活動も映像で提供できる機会があるのか検討したい。 ・その中で自クラブの選手にも興味を持ってもらいたい。選手がアクションを起こすようになれば、サポーターにも興味を持ってもらうことができるのでは。
<p>Jリーグクラブ いわてグルージャ盛岡 モンテディオ山形 福島ユナイテッド いわきFC</p>	<p>いわてグルージャ盛岡)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年9月、ブラインドサッカーのイベントにて、コルジャ仙台のイベントにゲスト出演した。2回目の実施（久慈市）の際には、共同で一緒に取り組みを進めている。 ・11月29日にはクラブ主催で発達障がい児童向けの運動教室を初開催。岩手県障がい者スポーツ協会の協力を得ながら取り組んでいる。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後障がい者サッカーの方たちとのネットワーク構築をしたい。

	<p>モンテディオ山形)</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響により、昨年度に比べホームタウン活動の回数が減ってきている。現段階では、障がい者サッカーチームとの取り組みもできていないため、連携を図りたい。 ・活動場所の提供については、障がい者サッカーを通じてどんな人でも来やすい公園作りを目指した活動をしているため、これを機に何か一緒に取り組めればと思っている。 ・スタジアムは、山形県の全35市町村をホームタウンとして県内全域から人が集う場所となっているため、試合日にソーシャルフットボール体験会などを実施し、障がい者の方々から県内・東北の方々に向けたメッセージの発信ができれば。 ・モンテディオ山形が持つメディア媒体を活用し、障がい者サッカーの普及に取り組んでいきたい。 <p>福島ユナイテッド)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ近くの支援養護学校に指導者を派遣しサッカー教室を実施。現在は年1回のため、機会を増やしたい。 ・毎年ではないが、ホームゲームのあとに福島県サッカー協会と協力しながらブラインドサッカー体験会を行った。地元出身のブラインドサッカー日本代表選手がいるため、親和性が高く実現に至った。 ・障がい者の方を試合に招待する事業も手掛けている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のメディアの媒体がかなり協力して活動しているので、今後はクラブを通じてメディア発信なども連携できると良い。 <p>いわきFC)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状は障がい者サッカーと接点がない。 ・現在いわき市と連携し、スポーツコミッション、合宿誘致などを積極的に行っている。 ・2020年夏はデフフットサル日本代表の合宿を予定していたがコロナにより中止。合宿や練習など、クラブのファシリティーの部分を生かし、普及に貢献していきたい。
<p>都道府県サッカー協会 青森県サッカー協会 岩手県サッカー協会 福島県サッカー協会 山形県サッカー協会 秋田県サッカー協会</p>	<p>青森県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4年前からキッズフェスティバルでは障がいがあっても参加できる形を取っているが、情報発信の仕方が悪く、なかなか参加してもらえていない。障がい者サッカー教室も一般向けで実施したが、保護者や引率者が気を使って申し込まない状況。今後はこちらからアプローチし参加しやすい環境を他連盟、団体と連携して作ってきたい。 <p>岩手県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めてフットボールデーにて障がい者サッカー体験を実施。周知の方法に不備があり多くは集まらなかったものの、今後も県サッカー協会のフットボールセンターを利用する計画をしていきたい。 ・県内の障がい者サッカーの活動は、日本知的障がい者サッカー連盟の東北スタッフが中心に手掛けており、その現状は変わっていない。

	<p>い。</p> <p>福島県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島県障がい者サッカー連盟の方と連携があり、知的障がいの方と健常者、子ども達などと8人制サッカーで交流したことがきっかけとなり、フットボールデーを4～5年継続して開催している。 ・2020年も11月29日に第10回福島県障がい者フットサル大会があり、福島県障がい者サッカー連盟と連携して進める。 <p>山形県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数年前からソーシャルフットボールの交流会に補助金を付け事業を進めてもらっている。 ・その他は特別こちらから積極的なアプローチができなかった。 ・情報収集はしたいが、そこに従事できる人員が不足し進展がない。 <p>秋田県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度から特に進展はない。 ・2019年度と同様、練習会場の確保の手伝いや、特別支援学校の体育会の視察等により情報交換や交流を図っている。
<p>関連団体 J ヴィレッジ</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度にブラインドサッカーのアルゼンチン代表と日本代表の試合を実施 ・2020年度はデフサッカー日本代表のキャンプも実施予定。デフサッカー日本代表のキャンプは毎年実施しているため、普及・交流の場や発信の場にもしていけるのではないかと。ぜひ協力していきたい。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な次のアクション決定までは至らなかった。 ・障がい者サッカーのほうからは、ソーシャルではプレーする会場の課題や継続的な指導者の支援の要望、アンプティサッカーではチーム新設の困難、ブラインドサッカー・アンプティサッカーであれば、地域でリーグ戦や大会をやっていききたいという話があがった。 ・東北サッカー協会と知的障がい者サッカーのほうからは、特別支援のフットサル大会、交流会を2021年にやっていききたいという話があり、各県協会に打診をしているという。また、何名かからインクルーシブな場づくりの重要性の話もあった。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的なアクションを決めることは難しかったが、まずはJFAやJIFFが持っている情報を定期的に共有していくことの必要性をあげてもらった。
<p>グループ2（宮城県）</p>	
<p>(1) 状況・課題・要望の共有</p>	
<p>アンプティサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城県に選手が1名のみいるが、東北に活動場所がないため、埼玉県のチームに所属。練習の際は出向している状況。 ・2020年6月、コルジャ仙台ブラインドサッカークラブと繋がり、仙台で体験会を実施。 <p>■今後に向けて・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来的にはチームの設立が目的。

	<ul style="list-style-type: none"> ・関東から派遣し知ってもらい機会をつくりたいので、体験会やイベントがある際は声がけてほしい。
<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>数年前までは仙台在住の選手が大会に出場することもあったが、東北で活動しているチームはない。</p> <p>■今後に向けて・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな障がい者サッカーをまぜこぜで行う場を設けてもらい、少しずつ競技者を増やしていきたい。 ・7団体の動画などをJリーグの試合の際に流してほしい。
<p>知的障がい者サッカー Sendai Forza</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームは中学生以上を対象として活動している。 ・11月23日にSendai Forza主催で「宮城FIDサッカーフェスティバル」を愛宕山運動公園サッカー場（色麻町）で実施予定。実施内容は午前中が8人制の交流大会、午後が参加チームの練習、トレーニングの時間。知的障がい者サッカーの特徴として、障がいの程度によりさまざまな競技レベルがあるため、競技を主とするオープンクラス、オープンを目指す選手を対象としたミドルクラス、比較的障がい重度な方を対象としたエンジョイクラスの3カテゴリーで実施予定。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校年代の活動の場がまだない。 ・宮城県の特別支援学校（中学・高校）は部活動がほぼないのが実態。放課後は「放課後デイサービス」で過ごすのが一般的であり、スポーツと触れ合う機会がない。
<p>電動車椅子サッカー ビクトリーフェニックス</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在東北地域では1チームのみ活動。選手8名。 ・競技用の電動車椅子が高価なこともあり、レクリエーションレベルのためチームとして日本協会登録まで至っていない。 ・電動車椅子は高価だが、仙台市（4台）と県のスポーツ体育館（2台）から借りて活動している。 ・重度障がいの方も多く、特にコロナ禍では集まっての練習が困難。
<p>ブラインドサッカー コルジャ仙台ブラインド サッカークラブ</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度より小学生を対象としたサテライトチームを発足。現在、仙台では弱視の小学生が5名、トップチームの隣で練習。山形県内でも2名に対し練習を実施している。 ・5社のスポンサーから金銭等のサポートを受けている。 ・男子日本代表選手1名、女子日本代表選手1名、ユース代表選手が1名在籍し、2020年2月の全国大会「KPMGカップ」で準優勝するなど競技レベルも上がっている。 ・仙台市所有のサイドフェンスを使って練習できるようになったことは競技力向上の一因。 ・コロナにより民間での体験会の実施が減少したが、2020年夏頃からは東北各地で要望があり実施。宮城県内では小学校、中学校、高校での体験会の依頼が多数。 <p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県では2020年夏頃から、Jクラブ・いわてグルージャ盛岡と一緒に活動している。 ・スポーツボランティアの会合に月1回参加することで知っていただく機会にもなり、ボランティア人員も確保できている。 <p>■今後に向けて・要望</p>

	<p>・県サッカー協会主催でキッズフェスティバル開催する際、参加者に弱視の子ども等が参加する場合は、ぜひお声がけいただきたい。</p>
<p>デフサッカー／ デフフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>・2020年度、仙台にて「デフキッズ教室」（子ども向けデフサッカー教室）を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2020年7月に仙台でデフサッカー日本代表合宿が開催されることを機に、日本代表選手と子ども達がサッカーを通じて交流する企画を認定特定非営利活動法人ハートフル福祉募金とともに立ち上げ。 - デフキッズのオリンピック観戦を目指すクラウドファンディングを実施したがオリンピックが延期となり、デフキッズ教室を5回開催することに変更。会議時点で2回実施済みであり、12月1月、2月にも実施予定。これを機に各所の協力を仰ぎながら、継続的に東北での選手発掘に繋げたい。 <p>■今後に向けて</p> <p>・今後は「デフキッズ教室」のような大きなイベントを他競技団体とも一緒に開催したい。</p> <p>・東北各県のろう学校を訪問し、ろう者の子どもたち向けにサッカー教室を実施予定。</p>
<p>Jリーグクラブ ベガルタ仙台</p>	<p>■活動状況</p> <p>・バリアフリーサッカー大会を宮城県サッカー協会と協働し例年実施。コロナのため今年度は中止。</p> <p>■知的障がい者サッカーとの連携</p> <p>・2020年9月：Sendai Forzaのバリアフリーサッカー教室に協力し、ゴールキーパーのサッカー教室を実施。</p> <p>■今後に向けて</p> <p>・現在、経営状況が厳しい中クラブとして主体的にできることを検討中。クラブとしてグラスルーツの考え方に賛同しており、地域全体での連携にできる範囲で協力していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタジアムの芝の関係もあり、ピッチ内でのイベントは困難。 ・コロナ禍においては、選手の協力（出演）等も難しい。 ・ホームゲームでの映像放映については、クラブ専用スタジアムではないため、クラブ判断での実施は困難。
<p>都道府県サッカー協会 宮城県サッカー協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>・グラスルーツ委員会では主に4つの活動（障がい者サッカー、ウォーキングサッカー、小学校体育サポート、小学校サッカー巡回）がある。</p> <p>→現在の重点事業・ウォーキングサッカーをきっかけに広げたい。</p> <p>・グラスルーツ委員会が2020年度に拡大した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2019年度にグラスルーツ委員会が立ち上がったもののメンバーは4人しかいなかった。 - 2020度は特任理事、女子サッカー普及コーディネーター、小学校体育インストラクター、1種～4種、シニア、キッズ、フットサルの代表を1人ずつ出し、各職種において障がい者サッカーを広めていくためのメンバー構成をした。 <p>■障がい者サッカーとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デフサッカー：県内で行われた「デフキッズ教室」の視察 ・知的障がい者サッカー：フェスティバル開催等 ・ベガルタ仙台と協働でバリアフリーサッカー大会を継続的に開催。

(2) ディスカッションまとめ

テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する

テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する

- ・宮城県県サッカー協会としては、地域交流委員会がグラスルーツ委員会に変更になり、大きく4つの活動をしている。障がい者サッカーとウォーキングサッカーを広めていくということと、小学校の体育サポートにサッカーが楽しくできるように先生をサポートしていくということ、また小学校にサッカーの巡回に行くこと。
- ・その中で障がい者サッカーについては障がい者サッカー団体との連携を深めていく。
- ・ベガルタ仙台と実施しているバリアフリーサッカーのイベントや、特別支援学級への訪問なども継続していく。
- ・今回の繋がりを生かして今後連携を深めていく。



③参加者の声

会議の満足度

■とても満足 8名

- ・東北各県の現状を知ることができ、また、皆さんの顔を拝見することができ嬉しかったです。
- ・東北地域の取り組みを実際に聞いて良かったです
- ・都道府県FAや各種障害者サッカー団体と繋がりを持つことができたため。
- ・参加者全員の意見を聞くことができ、課題等を共有することができたから。
- ・関係団体との顔合わせの機会となった
- ・初参加でしたが、障害者サッカーの課題やそれに対する取り組みを知ることができ、我々でも出来ることがあると可能性を感じたからです。
- ・情報交換出来るのがいいですね。
- ・各県、各団体とつながることができ、現状の把握と今後の参考になったから。

■満足 10名

- ・参加者の実情・考えを知ることができた。
- ・新たな方々も参加され、新しい情報を伺う機会となってよかったと思う。ただ、ディスカッションが人数が多く、うまくまとまらなかったのが事前に情報を資料として収集すればよかったと思います。
- ・他県の事例を知ることができた
- ・意見交換の時間の確保があると幸いです
- ・おまかな部分については共有できたが、細かい部分に関してはWEB会議だと伝わりにくい部分があると感じました。
- ・障がい者サッカーとの連携状況や実際に協会の方のお話をお聞きすることができた

	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーについて、知識がなかったこともあったので、非常にいい機会となりました。県内の障がい者サッカー団体とご連絡を取らせていただくきっかけともなりましたので、満足しております。 ・JSFAとしてはまず各県で窓口ができ、福島の方とは顔を合わせることができました。また、参加のJチームが増えたことは心強いです。 ・中々進展がない気がします ・東北地方での活動を知ることが出来よかった。各県ごとに詳しい話が出来れば更に良かったです。 <p>■普通 11名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的に横の繋がりを作れなかった ・ディスカッションが自己紹介だけで終わってしまった ・ZOOMでの会議は発言時間も短く、双方向のコミュニケーションが取りにくい。 ・もう少し発言の場が欲しかったです。 ・とてもありがたいことですが参加人数が多数でしたので、具体的なディスカッションまでたどり着けなかったです。 ・ディスカッションはZOOMでは難しいが、よくやっていただいたと思います。ありがとうございます。 ・今現在の状況を各地域に伝達するのみになってしまった為。 ・言いたいことの半分は共有できた ・ZOOM会議は初めてで慣れないため。 ・近況報告のみとなり、県内の関係者とのやり取りができなかった ・自己紹介で終わった感があります。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・一点気になったことがあり、各県のサッカー協会によって障がい者サッカーに対する温度差が気になりました。 ・課題感は明確に理解できましたが、具体的にどう取り組んでいくかなど少し見えにくいと感じました。 ・秋田県はまだ全然事業やほかの団体とのつながりが持っていない状況です。今回のように沢山の方々と交流する前に自県との関係を築きたいと思います。 ・宮城県での活動が増えてきたので、それぞれの方を知ることが出来て良かったです。 ・全体では皆が一同に集まれたのでよかったと思います。 ・Jリーグ関係者の参加があり良かった。また、各県庁の担当部署や教育委員会、障がい者スポーツ協会などにも、情報が広まればより今後の可能性が広がると考えます。 ・地域が多数の県であり、団体が多かったため、ディスカッションのグループ人数を均等にしたほうがよかったかもしれません。 ・今回は宮城だけでのディスカッションになってしまったので、他県との交流ができなかったのが残念でした。顔が見えないとやっぱり難しいですね。 ・各県ごと、又は各障害ごとに分けて話が出来れば更に良かったです。 ・コロナ下での実施状況の共有がメインだったが、事前に文書で取りまとめることで円滑に進んだと思う。 ・参加者同士の意見交換の場が少ないように感じます。
来年の参加希望	<ul style="list-style-type: none"> ■参加したい 25名 ■参加したくない 0名 ■どちらでもない 4名

<p>今後同様の会議を実施する場合の単位</p>	<p>■実施単位</p> <p>9地域ごと 8名 都道府県ごと 10名 9地域ごと・都道府県ごと両方 5名 その他 6名</p> <p>■コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北はよく北東北、南東北と区別されることもありますので、3県ずつの会議も良いかと思えます。あるいは、少子高齢県同士なども興味があります。 ・東北6県で良いと思うが十分な意見交換の時間を確保するため、北東北・南東北の3県ずつでも良いと感じます ・コロナが収束に向かえば単位というよりも、Face to Faceでの会議体をお願いしたい。 ・会議内容によって、単位を変えていただけるのであれば対応していただきたいと思えます。ただ、どのような方が参加するか分かっているのであれば、都道府県単位では各FA主催で開催してもよいと思えます。 ・東北第1グループ、東北第2グループと、分けたほうが良い可能性があるかもしれません。
<p>その他意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回同様に大変参考になりました。ありがとうございます。 ・定期的な開催を望みます。 ・参加者の方へ、情報提供の場や機会を求めています。参加者の方へご連絡できる手段があればご教授願います。 ・2時間でこの人数で話すのはやはり難しい部分がある。 ・グループディスカッションを行う際、グループが2グループ以上になる場合、グループに各競技の中央団体のスタッフが1名が参加できる状況であると、より共有できるかと思われ（他グループ内のディスカッションの少数意見も、時として新鮮かつ大切であったりするため）。 ・PDFファイルに視覚障害者向けに文字を埋め込んでほしかった ・コロナ禍の会議で仕方のないことですが、自分的にはもう少し会議時間が欲しかったです。チャットで意見を出してもらい、それに対して議論するなどあってもよかったかもしれません。多くの方の意見が聞きたかったです。 ・各障がい者サッカー団体の年間の活動計画や活動の様子が紙面や映像であれば、より、各FAやJリーグ関係者にイメージしていただけるのではないかと感じた。また、他団体の活動を知ること、自団体に活かしたり、一緒にできそうだと感じたりできるのではないかと考える。

(4) 関東(北)

①会議概要

開催日時	2021年1月13日（水） 会議 18:00～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 15分 地域内の新規事例共有 7競技団体の地域内での状況や展望の共有 4. グループディスカッション 75分 5. ディスカッション概要共有、写真撮影 10分
参加人数（実数）*	41名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	2名
9地域サッカー協会	0名
都道府県サッカー協会	7名
Jリーグクラブ	7名
Jリーグ百年構想クラブ	1名
その他サッカー関連団体	0名
アンプティサッカー	3名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	6名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	3名
電動車椅子サッカー	1名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	4名
デフサッカー／ デフフットサル	2名
その他障がい者サッカー 関連団体	3名
JIFF	5名
合計	46名

部門別人数（重複あり）

役員・管理職	14名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	17名
管理部門	7名
強化・指導者	4名
選手	1名
合計	43名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
茨城県サッカー協会	2021年度より、IFAインクルーシブ委員会として知的障がい者サッカーのリーグ戦開催の方向。6、7、9、10月に1日2試合程度で実施予定。
日本障がい者サッカー連盟（JIFF）	2021年3月6日に「インクルーシブフットボールフェスタ茨城2020」を県協会主管、Jリーグクラブ、地元障がい者サッカーチームの協力を得て開催予定。
7競技団体の地域内での状況や展望の共有	
アンプティサッカー	・現在は北関東にチームがない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本リーグとして、関東を中心としたチームはリーグ戦を行っている。
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・北関東にチームがない。 ・栃木県に現役選手が2名、埼玉県など関東の他県のチームに通ってきている。 ・チームがない県についても、サッカー活動を希望する脳性麻痺の方たちが出てきたときに参加できる、サッカーができる環境（受け入れてもらえるチームや教室等）が整えられるよう連携や情報共有ができる体制をつくりたい。 ・2019年からソサイチ連盟と連携をして、ソサイチリーグを主軸にイベント、大会、試合、体験会を企画している。北関東にも会場となっている場所がある。
ソーシャルフットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県ではヴァンフォーレ甲府との協力関係が継続されており、ヴァンフォーレ甲府のサポート企業も協力してイベントを行っている（本年度は中止）。 ・群馬・栃木は1チーム、茨城県にはチームがない。今後チーム作りや連携を図るが、県協会や地元J・Fリーグクラブの協力を得て普及を進めたい。
知的障がい者サッカー 知的障がい者フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に2020年度第1回知的障がい者サッカー日本代表候補合宿を栃木県さくら市で開催した。
電動車椅子サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、北関東では茨城県に1チームある。 ・群馬県、栃木県、山梨県は、電動車椅子サッカー協会自体が現状ない。 ・現在は新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛中のため、活動再開後、連携をしていきたい。
ブラインドサッカー ロービジョンフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクサ×KPMG ブラインドサッカー2020カップ」の1stラウンドを10月に常総運動公園（茨城県守谷市）にて実施し、YouTube生配信した。
デフサッカー デフフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・チームは茨城県のみで学生が中心。 ・チームがない県にも活動が出来るよう人材発掘、デフサッカーの普及・発展の為に情報交換が出来る連携体制を作りたい。
グループディスカッション	
グループ1（茨城県）	
（1）状況・課題・要望の共有	
アンパティサッカー 日本協会	<ul style="list-style-type: none"> ■活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・現在は茨城県にチームがない。 ・普及の足掛かりも掴めていない状況。 ■今後に向けて、要望 <ul style="list-style-type: none"> ・関東を中心に4チームで「東日本リーグ」を開催しており、今後茨城県でも開催し普及に活用していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本協会として代表合宿、指導者養成、選手の研修会を定期的に行っているが、拠点の一つとして鹿島ハイツの利用を検討している。 ・県内イベントでの体験会実施や、他競技と合同での体験会など、ぜひお声がけいただきたい。 <p>JIFFより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくば市には義足を制作している幸和義肢研究所がある。JIFF主催「インクルーシブフットボールフェスタ茨城2020」へ協賛いただいております、選手もお世話になる等、繋がりはある。
<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨城県では過去に数名選手がいたものの、チームをつくり活動するところまで至らなかった。他県に通うと継続は難しい。 ・茨城県に限らずチームがない地方では、日本代表での活動など限定的な活動になってしまうケースが多い。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPのチームではなく、ほかの障がいや健常者と一緒のチームなどで、日常的に、定期的にサッカーができる場をつくりたい。そのためにも、協力体制をつくっていききたい。 ・広島県ではウォーキングサッカーなどの誰でも参加できる場に、CPのジュニアの選手が参加しているという情報があった。継続して参加できるインクルーシブな場をつくることで、少しずつ参加者が増え、チームや試合に発展していけると良い。
<p>ソーシャルフットボール 水戸メンタルクリニック</p>	<p>茨城県サッカー協会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内ではつくば市の病院や坂東市の病院でソーシャルフットボールのチームを立ち上げて活動しているという情報が入っているが、実際の活動状況まではまだ分からない状況。 <p>水戸メンタルクリニック)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は活動しておらず、日本協会にも未登録。 ・過去にクリニックで何回か精神障がい者のフットサルを実施していた。 ・一時期地域のソーシャルフットボールのチームがあり活動に参加していたが、2018年以降は活動停止。 ・今後どのように茨城県内で活動できるのか模索中。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（茨城県サッカー協会の話にあった）つくば市や坂東市のチームの存在を知らなかった。県内でソーシャルフットボールの中心になる団体、人物、組織がないことが、まとまらない要因になっていると思うので、協力していききたい。 ・クリニックと就労移行支援施設をそれぞれ3つずつ持っているの、県内であればある程度ソーシャルフットボールの人員を集められる。 ・水戸ホーリーホックや鹿島アントラーズに協力してもらえると、参加者も増えていくと思う。 ・月1回や3か月に1回でも、連携会議の機会を設けてもらえると横のつながりを保つことができると思う。

	<p>・茨城県サッカー協会に協力できることがあれば、連絡をしてほしい。</p>
<p>知的障がい者サッカー 茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会</p>	<p>茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会) ■活動状況 ・県内では茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会が中心となり大会等実施している。 ・週1回練習をしたり、色々な高校やジュニアユースチームなどとトレーニングマッチを実施。 ■連携 ・デフサッカーIDFC 3年ほど前、知的障がい者サッカーの茨城県選抜チームとIDFCで、トレーニングマッチを2回ほど実施。 ・ロービジョンフットサルFC SFIDA つくば 5、6年前には、知的障がい者サッカーの茨城県選抜チームがフットサルを実施。 ■課題 ・県内の障がい者サッカー情報の取得が困難。上記の連携もスタッフが個別にFacebook等で繋がり、試合を行った経緯がある。それぞれの担当者や中心になる方と繋がるのが、今後活動を継続していくなかで一番重要。</p>
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 日本協会 Avanzareつくば FC SFIDA つくば</p>	<p>■活動状況 ・茨城県守谷市で全国大会「アクサ×KPMG ブラインドサッカーカップ2020」の1stラウンドを開催。 Avanzareつくば／ブラインドサッカー) ・チームは筑波技術大学の大学生と卒業生を中心として活動している。 ・コロナ禍では大学生は課外活動が中止となり、卒業生を中心に何回か練習をして10月24日に守谷市で行われた「アクサ×KPMG ブラインドサッカーカップ2020」には参加できた。 ・試合後は集まっての練習ができずオンラインで活動中。 FC SFIDA つくば／ロービジョンフットサル) ・筑波技術大学の学生中心のロービジョンフットサルチーム ・フットサル競技自体が健常者や他の障がいのフットサルとも交流しやすいので、これまでも交流してきた経緯がある。 - 過去に聴覚障がいや知的障がいのチームと試合を実施。 - 県内ではないが、日本ブラインドサッカー協会のイベントで、CPサッカーとのエキシビジョンマッチを実施。 ・トレーニングマッチも気軽を気軽に実施できたり、色々な障がいを集めたワンデーの大会等が行えるよう横の繋がりを強固にしていきたい。 茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会より) ・2020年、鹿嶋市サッカー協会主催の「鹿嶋サッカーフェスティバル」（ジュニア年代、ジュニアユース、ユース、社会人、など鹿嶋市内のチームが対象）でブラインドサッカー体験会を実施。非常に盛り上がった。</p>

<p>デフサッカー IDFC 茨城県デフフットボールクラブ</p>	<p>IDFC 茨城県デフフットボールクラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、学生1人・社会人4人で活動しているが選手不足で困っている。 ・今後も連携の場を大切にしていきたい。 ・茨城県サッカー協会と連携し、JIFF主催の「インクルーシブフットボールフェスタ茨城2020」に協力している。
<p>Jリーグクラブ 鹿島アントラーズ 水戸ホーリーホック</p>	<p>鹿島アントラーズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームタウンの特別支援学校へのコーチ派遣の実施 ・茨城県サッカー協会の協力のもと、試合日にスタジアム場外で障がい者サッカーの体験ブースなどを予定していた (いずれも2020年度は新型コロナの影響で中止) <p>水戸ホーリーホック)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校を対象に巡回指導を実施(例年より回数は減らしたものの、コロナ禍でも感染対策のうえ実施)。 ・社内、クラブ内において障がい者スポーツがまだ浸透していない。 ・新規事業として4月に総合型スポーツクラブを立ち上げる予定。障がい者スポーツの観点から連携できる部分が多々あると考えている。
<p>都道府県サッカー協会 茨城県サッカー協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な活動は前述の共有事項の通り。 ・知的障がい者サッカーの活動が中心。(任意団体「茨城県知的障がい者サッカー連盟」から県サッカー協会のインクルーシブ委員会に移行した経緯も) ・県内のJFA指導者C級、D級コーチ講習会内で特別講義としてブラインドサッカーとアンプティサッカーの体験会を独自で実施(講義40分、実技40分)。おそらく全国の都道府県サッカー協会の中でも唯一の取り組み。 ・現時点で、インクルーシブ委員会の中では各障がい者サッカーの地域のチームとの連携や、集まって情報を共有する場はない。 ・人員不足もあり、旗振り役として県内の連携会議を運営するのは難しい状況。 <p>■Jクラブとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水戸ホーリーホックにグラウンド提供という形で協力を得て「ホーリーフェスタ」という子ども向けの交流戦形式の大会を実施。 ・鹿島アントラーズと協力し、「茨城フットボールデー」にブラインドサッカー体験会等を実施。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カテゴリーを超えたフェスティバルなどの実施により垣根をなくしていきたい。 ・最終的には、障がいの有無に関係なく一緒にサッカーできる環境をつくりたい。例えば、「インクルーシブフットボールフェスタ」で実施している「まぜこぜウォーキングサッカー」の大会など。 ・都道府県サッカー協会間で情報共有し、障がい者サッカーの活動を広げていく役割を担う必要があると感じている。

<p>その他関連団体 筑波技術大学</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学内にロービジョンフットサルサークル「FC SFIDAつくば」やブラインドサッカーサークル「Avanzareつくば」がある。 ・大学として、競技に関係なくスポーツをやりたい障がい者を対象に障がい者スポーツのイベントを年1回実施している。2021年で12年になる。今年（2021年）は1月にオンラインで実施予定。まずはスポーツを体験し、その後サッカーやバレーボールなど色々な道に進めれば良いと思う。 ・月1回スポーツ教室を実施。3年程前の「聞こえないサッカー体験」には東京からの参加者もいた。いずれは障がいの違うサッカーもイベントで取り上げたい。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の聴覚障がいのある学生は本学の障がい者スポーツイベントにほとんど参加がない状況。手話通訳の準備はあるものの、手話の問題が大きく、ほかの障がいの方と関わりを持ちにくい学生が多い印象。 <p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の隣の筑波大学に障がい者スポーツに熱心な研究室があり、国籍、年齢、性別、障がい、いろいろなものを超えて、一緒にサッカーを楽しもうという「なないろサッカー」を開催している。本学から聴覚障がいや視覚障がいのある学生が参加した。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無に関わらず同じ空間に集まれる機会がもっとあれば、障がい者サッカーも広がっていくのではないかな。 ・今後は知的障がい者サッカーだけでなく、様々な障がい者サッカーの関係者が一緒になって茨城県サッカー協会インクルーシブ委員会を盛り上げていけるよう、協力していきたい。 ・オンラインなら集まりやすいと思うので、定期的集まる場を継続できたら良いと思う。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県サッカー協会やJクラブ、各障がい者サッカーチームが活発に活動しており、既に情報共有されている部分も多かった。 ・特に茨城県サッカー協会を中心に、知的障がい者サッカーの活動が非常に多く行われている状況。その他の障がい者サッカーは、各クラブチームの活動や個人的な繋がりから連携が生まれている状況。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内で障がい者サッカーのディスカッションが行われる場はなかったが、障がい者サッカーチームの方々からも、月1回、あるいは3カ月に1回程度で集まる場を設けたいという声があった。 ・場づくりにあたり、関連団体や障がい者サッカーチームの方も協力するという話もあった。 ・今後情報共有をしたり、茨城県サッカー協会の方々から情報を集約してもらうことで活動が生まれる流れにしていきたい。

グループ2 (栃木県、群馬県、山梨県)

(1) 状況・課題・要望の共有

<p>アンプティサッカー 日本協会 埼玉県のチームが参加</p>	<p>日本アンプティサッカー協会) ■活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・現在は北関東にチームがない状態。 ・今後、北関東でもチームをつくりたい。 ・アンプティサッカー部門新設・チーム創設支援制度について <p>比較的費用の掛からない競技だが、クラッチの購入やチーム・大会への登録料などの初期費用を3年間免除するプランで設立のハードルを下げている。</p> <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手がいない地域ではチーム新設も難しいため、アンプティサッカーの認知向上の面で協力してもらいたい。 <p>例えば、千葉県ではACミランアカデミー千葉の協力を得て、地域のフットボールフェスタの場でユースの試合とアンプティサッカーの試合をする場があった。感染予防対策をしながら集客して試合を開催することは自分たちだけでは非常に難しい。前座等でコラボする形でフェスティバル等に参加できる機会を提供してもらえると有難い。</p> <p>FC ONE TOP／埼玉県のチーム) ■活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県深谷市を拠点に活動。 ・選手は群馬県に2名、宮城県に1名、埼玉県に3名。 ・会議の前の週に、チームスタッフから栃木SCへホームゲームでのイベントの相談をした。 ・群馬県に選手が2名いるため、2020年2月の前回の地域連携会議の後にザスパクサツ群馬に連絡をし伊勢崎市のグラウンドで練習や体験会、見学会等の実施計画をしていたが、現状日程が合わず進んでいない。 </p> </p>
<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・北関東にはチームがない。 ・脳性麻痺の子ども達は普通学校へ行く傾向もあり、学校のクラブ活動にはついていけない場合がある。 ・身近にごちゃ混ぜでサッカーができる場ができれば、キャッチアップする仕組みができると思う。 <p>■連携 <ul style="list-style-type: none"> ・栃木SCレディースの監督には、CPサッカー日本代表コーチとしても活動いただいている。 </p> </p>
<p>ソーシャルフットボール 日本協会 フライハイト栃木 アトムズ甲府 アレグラッソ甲州</p>	<p>フライハイト栃木) ■活動状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルフットボールチームの多くは病院などが母体となるが、自チームは完全に当事者でつくったチーム。 ・活動場所は宇都宮市が運営するわかくさアリーナ（障がい者団体には無料貸出）。 ・現状、資金面やスタッフ、指導者が不足。 </p>

・通常月2回練習。普段は栃木ダルク（依存症経験のある方たちの団体）と合同で練習している（コロナ禍では合同練習ができていない）。

・競技性よりも障がいを抱えながら生活の質を上げるエンジョイチームとして活動。

■今後に向けて、要望

・選手不足が課題でソーシャルフットボールチームがあることを県内に広くアピールできるような機会がほしい。

アトムズ甲府)

■活動状況

・選手数が非常に少ないため、アレグラッソ甲州や、拠点の住吉病院の職員も練習に参加し、ごちゃまぜでフットサルを楽しんでいる。

・山梨県サッカー協会内に障がい者サッカーの委員会設置の提案をするため、2019年に県内のソーシャルフットボール・知的障がい者サッカー・ブラインドサッカーのスタッフと意見交換を実施していた。すべてのチームで普及のための費用がないという課題を抱えているので、組織化によりクリアできたら。

■今後に向けて

・今回、山梨県サッカー協会内で2021年度に障がい者サッカーを組織化する話があったので、ぜひ協力していきたい。

アレグラッソ甲州)

■活動状況

・チームとしての課題は参加者の確保。

チーム設立から7、8年経過しているが、これまで4、5回キャプテンが変わり卒業している。嬉しい反面、その度に活動人員の確保に四苦八苦している状況。

→ソーシャルフットボールの医療的な効果が非常に高いという実感もある。

・卒業生やアトムズ甲府との連携等でフォローアップ体制はある。山梨県で一体となって活動できているので、活動の場を絶やささないよう継続していく。

・県内での組織化に関しては、ぜひお声がけいただきたい。

■ソーシャルフットボールとしての課題

・山梨県で定期的に活動できるソーシャルフットボールチームは2つだが、コロナ前は県内医療機関のチームと月に1回交流戦を実施していた。「感染症指定病院」になるとスタッフ派遣やチーム参加が難しくなる。

日本ソーシャルフットボール協会)

・コロナ禍で病院関係者が動くのは難しい状況で、人材確保のためには障がい者雇用のための就労移行施設などにもアプローチする必要がある。

・千葉県では各施設へ出張しボールを使ったスポーツ教室を企画している。当事者にも参加してもらい、体を動かしてス

	<p>スポーツの楽しさを伝えていく。それに伴い当事者へ謝金を出すようなコンテンツをつくっていかうと考えている。</p>
<p>知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル 日本連盟</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栃木県で2022年の世界大会を目指す日本代表の合宿を実施している。選手18名、スタッフ6名が十分な対策のもと参加。 ・関東の知的障がい者サッカー連盟には茨城県、栃木県が加盟しており、山梨県、群馬県はオブザーバーとして関わってもらっている状況。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県、群馬県にも関東の連盟に加盟してもらいたい。 ・知的障がい者サッカーでは女子委員会を立ち上げたばかり。2020年はコロナで中止したが、JFA「なでしこひろば」も開催しており、知的障がいに限らず色々な障がいのある方・健常の方も含め各地で開催できると考えている。 ・群馬県は国体を控えており、全国障がい者スポーツ大会では知的障がい者サッカーの大会が実施される。日本知的障がい者サッカー連盟の技術委員が開催地に伺い現地の指導者・選手に講習会を行っているため、今後アクションがある見込み。
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、北関東では茨城県で1チーム活動中。 ・群馬、栃木、山梨は、電動車椅子サッカー協会自体は各地域で設立中だが、今のところない状況。 ・障がいの子も達がサッカーをしたいと思ったときに、自分がどの競技に携われるのかを問い合わせる窓口がないことが予想される。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各都道府県サッカー協会へサッカーをやりたいという問い合わせがあったときに、日本電動車椅子サッカー協会へ問い合わせさせていただきたい。 ・必ずしもチームをつくってすぐに試合をするわけではなく、エンジョイの意味合いで1人、2人からでも楽しめる。連絡をいただけたら可能な限りサポートしていく。
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県では15年ほど活動がつづいている。 ・栃木県と群馬県にはチームがない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県では今後、より視覚障がい者が社会に混ざる場にサポートいただけると次のステージに行けると思う。 ・栃木県と群馬県は体験会等をきっかけとして発展していきたい。ブラインドサッカーはアイマスクとボールさえあれば体験できるので、ぜひ検討してもらいたい。
<p>デフサッカー／ デフフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北関東では茨城で1チームが活動中。 ・デフサッカー、デフフットサルは競技人口がとても少ない。 ・健聴の学校へ行っている子どもが圧倒的に多く、デフサッカー・フットサルの選手にはなる可能性のある子どもたちの情報を集めることも難しい状況。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な方面で交流を持ちながら情報交換し、イベントの回数を増やしていけば、情報収集もできていくのではないかと。

<p>Jリーグクラブ 栃木SC ザスパクサツ群馬 ヴァンフォーレ甲府</p>	<p>栃木SC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーと連携したイベントの活動はまだない。 ・毎年県内の聾学校に選手・スタッフを派遣しサッカー教室を開催。一緒に給食を食べるなどの交流もしている。 ・今日の会議に参加したことで、障がい者サッカーがたくさんあると知った。 ・今後、活動の場に足を運び、理解した上で、ホームゲームでのイベント開催等に繋げていきたい。 <p>ザスパクサツ群馬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状、障がい者サッカーとの接点がない。 ・年1回、アカデミーの指導者を特別支援学校へ派遣しサッカー教室を行っているのみ ・今後もっとアクションを起こしていきたい。 <p>ヴァンフォーレ甲府)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルフットボールについては、アトムズ甲府やアレグラソ甲州と完全に関係性を築けているので、継続していく。 ・現在イベントなどの単発の活動はできているので、どう次のステップに進めるかが課題。 <p>(例えば、自クラブがチームを持つことで選抜チームとなり、目指すものができる、違う可能性が見えるかもしれない。反面、注目されることで精神障がい当事者の方々の病状には良し悪しがあり、すべてを発信することも違うように感じる。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドサッカーとも良好な関係で、イベントを実施している。 ・自クラブが行政とブラインドサッカーチームの間に入り、派遣料を活動費につなげる等の活動はできている。 ・チーム化を検討する場合、仕事として当事者の方々をサポートできる座組みまで考えたい。 <ul style="list-style-type: none"> - 例えば、視覚障がい者には国家資格でマッサージ師になる方が一番多いので、ホームゲーム時にマッサージブースを出し1回500円の収入を得る仕組みなど。
<p>Jリーグ百年構想クラブ 栃木シティフットボールクラブ</p>	<p>栃木シティフットボールクラブ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブとして最近組織が変わったばかり ・現在は関東リーグ ・現状、障がい者サッカーに関わる機会がなかなかない。 ・今後このような機会に勉強し、関わりたい。 ・クラブのグラウンドなどの施設も整いつつあるので、利用してもらいながら関係性を築いていきたい。
<p>都道府県サッカー協会 栃木県サッカー協会 群馬県サッカー協会 山梨県サッカー協会</p>	<p>栃木県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーに関する組織的な動きは知的障がい者サッカーのみ。県サッカー協会から献金のような形で支援。 ・県内にソーシャルフットボールのチームもあるが、まだ連携が取れていない。今後連携して活動していきたい。 ・栃木SCと栃木シティとも連携していきたい。 <p>群馬県サッカー協会)</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい者のサッカーチームについては、特別支援学校関係のチームが5チームあり、県協会では毎年大会を開催（2020年度はコロナの影響で中止）。 ・障がい者サッカー関係の活動は、群馬県障がい者スポーツ協会と連携しているが、ほぼ把握できていない。 <ul style="list-style-type: none"> -（本会議内で）群馬県内にソーシャルフットボールチームが1チームあるとのことだったが、把握できていなかった。 →インテグラルというチームがあり、高崎・前橋付近で活動している。 ・2029年に群馬県で国体が開催されるのでそれに向けて活動していく。 <p>山梨県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十数年前から毎年、県サッカー協会主催のフェスティバルでブラインドサッカー体験会を実施。視覚障がいのある子ども、大人、シニアの方々が参加している。 ・障がい者サッカー関係大会への審判派遣を実施。 ・2021年度は、これまで長年障がい者サッカーに取り組んでいる県内の関係者を集め、県サッカー協会内に何らかの組織をつくりたい。様々な障がい者の活動の場を検討し、実際の事業に結び付けていきたい。
JIFF	<ul style="list-style-type: none"> ・JIFFのホームページに7つの障がい者サッカー紹介映像もあるので、ぜひ活用いただきたい。 ・JIFFにも障がい者サッカー相談窓口があるので、当事者からの問い合わせがあればぜひ連携させていただきたい。 ・アンプティサッカーやCPサッカー等は当事者人口も少なく、各カテゴリーだけで選手を集めるのは難しい。そのため「インクルーシブフットボールフェスタ」のようなまぜこぜのイベントを実施し、それを機にプレー希望者が競技に入れるような流れができると良い。
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県・群馬県では知的障がいサッカーが活発に活動されている。 ・山梨県では、Jクラブも含めて横の連携ができている状況。特にソーシャルフットボールは関係者同士の繋がりが強く単発のイベントは開催できているが、継続的な活動を目指すうえで人材不足や仕組みづくりが課題となっている。 ・知的障がい者サッカーやソーシャルフットボール以外のチームが少ない地域のため、新しい動きとして体験会や混ぜこぜの場などを少しずつつくっていく。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県サッカー協会は、障がい者サッカー関係の組織化をすすめる方向であり、本会議の参加者も含めて活動を広げていく。 ・各参加者にとって今後の活動に向けた気運醸成のきっかけになった。



③参加者の声

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 7名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までつながりがなかった団体とのつながりができた。 ・健常者サッカー、他の障がい者サッカーとの横のつながりの構築のきっかけになりそうだと感じ、今後楽しみになりました。 ・県内の障がい者サッカーの横のつながりが作れた。 ・今まで関わりのなかった方との交流ができることにより我々も活動の場が広がりますし情報共有をこれからしていけたらいいなと思います。 ・北関東については接点が少なかったため ・障がいサッカーの認識や理解が深まった。また現場の方々のリアルな声が聞け、今後の方針のイメージがついた。 ・障害者サッカーについて勉強になったのはもちろん、他クラブさんとのつながりも持てたので、今後活かしていきたい。 <p>■満足 12名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このような機会があることを知り、満足しました ・県内での横のつながりができたため ・他地域、未実施種目の状況把握が出来た。 ・グループディスカッション時の参加者（グルーピング）が多かったため、各団体（47FAとJリーグチーム）から課題を多く得られることが、少しであったため。 ・県単位の関係者とのつながりができた。 ・自分が知らなかった分野に目を向けられたいい時間となった。 ・茨城県に所属している方だけのディスカッションだったので、繋がりを作るには良い機会だったのではないのでしょうか ・各県サッカー協会ならびに、障がい者サッカー団体が情報共有できた。 ・地域の障がい者サッカーファミリーに繋がれたからです。 ・ポジティブな意見を聞いたため。 <p>■普通 3名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの意見や話が聴け顔をあわせられる貴重な場である。ただし人数が多く時間が限られ課題解決へのディスカッションまでは至らない部分もあり。 ・各県FAの役割についても検討していければ ・各団体・FAなどの現状及び課題等が聞くとが出来て参考になった。
---------------	---

感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県としてはこれほど多くの方に参加いただいたので良かったです。個別DMで名刺交換ができたのでよかったです。 ・普段交流できない方と交流ができ大変有意義でした ・非常に貴重な機会になりました。今後、県内での活動が活発になるようにしていきたいと考えています。 ・Q4の回答にも反映させていただきましたが、グルーピングの偏りが少なくなったほうがよろしいかと思われます。 ・私も含め、初参加の方が多かった為、本会議を共有できたことは良かったと思います。次への展開を進めていければと思っています。 ・選手、障害当事者が少ない？次回は是非！ ・時間がない中でしたのでしょうがないのですが各障がい者サッカーの映像などを使いながら説明をしていただければと理解しやすいと思いました。 ・地域により進捗度は違うので、当面毎年開催して活動の進み具合を確かめることが必要と感じました。 ・年一の会議ではなく、情報を共有する場などを設け、スムーズに協力し合える関係にできればと存じます。 ・障がいサッカーの認知を広めることをゴールとせず、競技者に寄り添った形で理解を深められる活動を考えて行きたい。 ・今回の北関東は人数も多かった事から、今後、横の繋がりを期待したい。 ・リモート会議は、現状では最適な選択だと思いますので、良かったと思います。準備等ありがとうございました。 ・今回はじめて参加させていただきたくさんの事を学びました。もっと知れるように勉強したいと思います。 ・山梨県は栃木、群馬、茨城と距離が遠く、連携は難しい。関東（南）に入れてもらうか、北信越でも良いのではと感じた。 ・各人の意見が聞けたことは良かったと思う。リモートでは難しいと思いますがあるテーマでの話し合いの場があっても良いかと思う。 ・ブレイクアウトルームの人数が少し多く、深堀りまでは到達できなかったこと ・次回や別の会では、課題に対し解決案やアイデア案を各自出しておき、事前に集約しておく等も良いのかなと考える ・各都県の報告等が多く各県FAの役割についても検討していきかけた。
来年の参加希望	<ul style="list-style-type: none"> ■参加したい 22名 ■参加したくない 0名 ■どちらでもない 0名
今後同様の会議を実施する場合の単位	<ul style="list-style-type: none"> ■実施単位 9地域ごと 6名 都道府県ごと 8名 9地域ごと・都道府県ごと両方 3名 その他 5名 ■「その他」の意見 ・北関東と南関東2都県ずつミックスでもいいかと思う。南の情報も知りたい。 ・全国ごちゃ混ぜでやりたい。 ・関東（北）のグループを、茨城+栃木/群馬+山梨であったり、グルーピングの複数回組み合わせを変えて、行われるとありがたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーとのつながりがある方との交流を行い参考にしたい ・都道府県ごと+協会の方でやりたい <p>■コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの地域ではまだチーム数が少ないので9地域の会議は継続したほうが良いと思います。 ・9地域毎が良いと思います。逆に都道府県会議については、都道府県が主催する方向が良いと思います。 ・まずは都道府県ごとで、県内のつながりを強くしていきたいです ・都道府県ごとであれば、もっと内容を掘り下げて話すことができるのではないかと思います。 ・近隣エリアごとの方が連携を図れる機会の可能性があるためエリアでの区分けになると思われるが、今回のように1県や2県などで分けてグループでの規模であればディスカッションもできやすいかも（運営側は回数を多くしなければならないので現実的ではないと思われるが）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグチームの今後の活動への展望を聞いたかった。 ・やりたいことが明確になりました。可能性しか感じない領域ですし、社会に必要なことが凝縮されている領域です。 ・3か月に1回オンライン。年1回対面（イベント時？）で開催 ・コロナ禍で活動できる事例共有などを展開いただけると幸いです。 ・今後の連携のサポート、障がい者サッカー7団体の連携強化、サッカーファミリー拡大のため環境整備（審判、指導者、選手の登録制度の整理等）、混ざり合うための様々な機会創出等。是非、引き続きよろしくお願い致します。

(5) 関東(南)

①会議概要

開催日時	2021年1月21日（木）会議 18:00～20:00
開催方法	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 15分 地域内の新規事例共有 7競技団体の地域内での状況や展望の共有 4. グループディスカッション 75分 5. ディスカッション概要共有、写真撮影 10分
参加人数（実数）*	84名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	4名
9地域サッカー協会	1名
都道府県サッカー協会	5名
Jリーグクラブ	20名
Jリーグ百年構想クラブ	1名
その他サッカー関連団体	2名
アンプティサッカー	4名
CPサッカー	6名
ソーシャルフットボール	10名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	6名
電動車椅子サッカー	8名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	9名
デフサッカー／ デフフットサル	2名
その他障がい者サッカー 関連団体	2名
JIFF	6名
合計	86名

部門別人数（重複あり）

役員・管理職	27名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	22名
管理部門	20名
強化・指導者	14名
選手	9名
合計	92名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
JFA	JFA有資格指導者向けリフレッシュ研修会障がい者サッカー指導コース実施を千葉県（JFA夢フィールド）で開催し、障がい者サッカー選手がオブザーバー参加。
JIFF&東京都のJリーグ、Fリーグ、なでしこリーグクラブ	12月20日「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2020」を在京Jリーグ、Fリーグ、なでしこリーグクラブと初めてオンラインで開催。
埼玉県サッカー協会&Jリーグクラブ&障がい者サッカー団体・チーム	2019年度の地域連携会議をきっかけとして、2020年8月より「埼玉県障がい者サッカーネットワーク会議」をZOOMにて定期開催（毎月）し、意見交換と事業計画を検討している。具体的な取組みはこれから。

	参加団体=7団体・8競技の関係者、浦和レッズ、大宮アルディージャ、埼玉県障がい者スポーツ協会、埼玉県サッカー協会
地域内での7競技団体の取り組み共有	
アンパティサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本リーグの開催（千葉県、東京都）。 ・日本選手権の代替大会として2021年2月に「セルジオチャレンジカップ」を神奈川県で開催予定。
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年は1チーム新チームが発足（埼玉） ・1/20北新横浜、2/15調布で「CPサッカー×ソサイチ関東リーグ」を開催（3月以降は中止） ・なでしこCPサッカークリニックの開催 ・CPサッカーフェスタ2020（コロナの影響で中止） ・活動場所が限られるのが課題の一つ。（施設：公共=予約がとり難い、民間=費用がかかる） ・2021年は、CPサッカー×ソサイチ関東リーグを中心に、既存チームの活動にプラスになるような場を作っていきたい。
ソーシャルフットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉、東京で感染防止対策を行い、規模を縮小して交流イベントを開催した。 ・今後Jクラブと協力しながらすそ野の拡大と強化育成を進める。 ・各都道府県単位で7団体+αの連携を進めるにあたり各サッカー協会の支援をお願いしたい。
知的障がい者サッカー 知的障がい者フットサル	11月、2020年度知的障がい者サッカーB級コーチ養成講習会（関東）を千葉県木更津市ローヴァーズ・ドリームフィールドにて開催。
電動車椅子サッカー	現在は新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛中のため、活動再開後、連携をしていきたい。
ブラインドサッカー ロービジョンフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・1月にロービジョンフットサル日本選手権を都内で開催（延期） ・アクサ×KPMG ブラインドサッカー2020カップを開催 1stラウンド=10月埼玉県、11月東京都品川区、準決勝=2月東京都墨田区、決勝=2月神奈川県川崎市（以上、関東南での実施地域）
デフサッカー デフフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・デフサッカー男子日本代表合宿を東京都内で実施。 ・各チームでデフキッズ教室を開催。 ・デフサッカーの人口が増えるよう人材発掘、普及・発展の為に情報交換ができる連携体制を作りたい。
グループディスカッション	
グループ1（埼玉県）	
（1）状況・課題・要望の共有	
各参加団体からの共有なし	2019年度地域連携会議をきっかけとして、2020年8月より「埼玉県障がい者サッカーネットワーク会議」をZOOMにて定期開催（毎月）しており、各参加団体の状況は既に共有されている前提でディスカッションを開始。
インクルーシブな場づくりへのアイデア等意見交換	<p>■障がい理解や競技普及の目的 埼玉ソーシャルフットボール協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技人口の拡大に向けては、埼玉県ではモデルとなる事例が既にある。 <ul style="list-style-type: none"> - 大宮アルディージャによる手話応援デー - 浦和レッズとのハートフルサッカー

・大きなイベントだけでなく、身近なところから、他の障がい者サッカーチームと交流していきたい。

日本アンプティサッカー協会)

・2020年千葉県の事例として、ACミランアカデミー千葉と県内の自治体のイベントの中で、アンプティサッカー東日本リーグの1節を開催。初めての方に見てもらえる機会になる。

・Jリーグの前座試合は難しいかもしれないが、例えば何かのイベント時に、いろいろな障がい者サッカーの公式戦を開催させてもらう。

→いろいろなサッカーの観戦や体験ができるので、障がい理解を進める場になる。

CA SOLUA葛飾：東京都のロービジョンフットサルチーム)

・選手不足や練習場所の問題が各障がい者サッカークラブに共通した課題であり、浦和レッズや大宮アルディージャのリソースを活用できないか。

・全員一緒にやるのが必ずしもインクルーシブではないと思うので、まず小さなところから始めてみるのはどうか。

浦和レッズ)

・障がいや競技自体を知ってもらうことについては、スタジアムで各種目を紹介する場をつくる等が考えられる。

大宮アルディージャ)

・例えば競技の質が似ているものを体験会で並べる等、テーマを設けるなど、運用の仕方は様々考えられる。

・コロナの状況にも影響されるが、ホームゲームの際にお声がけができればと思っている。

・県内での連携会議など現状の活動も、Facebookページをつくる等で発信していくのもよいのでは。

・多くの人に知ってもらう目的であれば、イベントをやったほうが良いと思う。浦和レッズと大宮アルディージャのチャネル力を活用し、イベントレポートをホームページに掲載し、SNSで拡散していく方法がある。

・映像のソースがあるとうまく活用できるのでは。

埼玉県サッカー協会)

・JFA有資格指導者向けのリフレッシュ研修会（障がい者サッカー指導コース）の開催は重要。

オンライン開催の場合も、講習会の中で例えば本会議の参加者（選手）に話をしてもらう。またはいろいろな映像を使い指導者に障がい者サッカーを広く知ってもらうことができるのでは。

・例えばJリーグの試合時にスタジアムのブースの中に障がい者サッカーのブースを設けて、その中でいろいろな映像を流したり、ちょっとした体験ができるとおもしろいのではないか。

・相互の理解と普及という意味で、各チームの活動を映像にして、県内の各学校にビデオ教材として配布をできるとよい。

JFA)

	<p>JFAで今使用している障がい者サッカーの映像がかなり以前のものなので、本来は2020年に映像の撮り直しを計画していた。2021年には取り組みたいと考えているので、完成したら活用してほしい。</p> <p>■障がい者サッカーチームの練習場所の問題 浦和レッズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブとしては、施設（レッズランド）を障がい者サッカーの活動場所として提供する等から始められるのではないかと。（コロナの状況が落ち着けばという前提になってしまう） <p>埼玉県障がい者スポーツ協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埼玉県の障害者交流センターを拠点にすることは可能。現状、車椅子バスケットボールチームの拠点になっており、電動車椅子サッカーの「コバトンカップ」も開催している。→電動車椅子サッカーチームBLACK HAMERSは、障害者交流センターも毎週利用はしたいが、通常練習ではバスケットボールコート半面の利用となるため、試合形式の練習では利用が難しい印象。現状は県立学校体育館しか利用できていない状況。 <p>大宮アルディージャ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮第二公園の指定管理の担当をおり、アスファルトの駐車場で西武ライオンズが車椅子ソフトボールの大会を実施しているので、活用できるかもしれない。 <p>■その他 CA SOLUA葛飾：東京都のロービジョンフットサルチーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずこのネットワークの皆さんで、浦和レッズや大宮アルディージャの試合を一緒に観戦してみるのはいかがでしょうか。スタジアムでの楽しさや、逆に障がい者側が見る上での難しさ等をJクラブに共有することで、今後のサービスの改善等のメリットに繋がるのではないかと。 ・この会議のメンバーでJクラブの施設を利用しフットサルやウォーキングサッカー等を一緒にやることから、自然な形で混ざり合っていくというのも一つできるのでは。
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの障がい者サッカーを広めるため、浦和レッズ、大宮アルディージャのホームゲーム時に障がい者サッカーブースを出したり、映像を流したりできないか検討した。 ・7つの障がい者サッカーのそれぞれの団体の活動を映像化し、小学校でその映像を副教材として使っていただくような活動に繋げていきたいという話もあった。 ・コロナ禍のためリアルな活動ができない中で、みんなが参加できるような活動やイベントを引き続き模索していく。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既に県内で実施している月1回の会議を継続していく。会議にはJFAやJIFFからもオブザーバーとして参加してもらおう。
グループ2（千葉県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	

<p>アンブティサッカー AC Milan BBee Chiba</p>	<p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前、ジェフユナイテッド市原・千葉の障がい者サッカーイベントに参加したことがある。 ・ACミランとの繋がり、ACミランのサッカースクール（社会人リーグ）の監督をAC Milan BBee Chibaの選手が務めていることがきっかけでお声がけいただいた。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだJクラブなどとは連携ができていないので、モデルケースとなるような連携をつくっていききたい。 ・埼玉県や神奈川県で障がい者専用施設での練習に参加したことがあり、千葉県にも同様の施設があると選手発掘もしやすいと感じた。 ・千葉県内でも日本選手権を開催できる場所等を模索中。
<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県にもチームがあったが現在は活動していない。 ・千葉県には障がい者施設やグラウンドが限られており、活動の継続が難しい。
<p>ソーシャルフットボール 日本協会 千葉『共に暮らす』フットボール協会（トモフト） FC VALOR</p>	<p>トモフト)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患を持っている方のチームやサークルが集う協議会。 ・競技志向の大会として、年1回ソーシャルフットボールチームの全国大会に繋がる予選会を開催。 ・月に1～2回、千葉市ポートアリーナで「トモフトフットサル」というフットサルイベント（個サル）を開催。 ・誰でも参加できるエンジョイ志向のイベントとしてオープンイベントという交流会も開催。当日に即席のチームをつくり、ルールから相談してみんなでフットサルを楽しむイベント。コロナ禍では2m以上近づかないなど特有のルールも設けた。高校生やCPの方も参加。 <p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県サッカー協会の協力団体として、助成金をもらいながら活動している。 ・年1回の千葉県サッカー協会の障がい者サッカーイベントにも参加。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジョイのオープンリーグも含めソーシャルフットボールの競技力が上がっており、初心者や未経験者が競技から離れ定着に繋がらない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は出張フットサル、出張スポーツ教室の実施を予定。デイケアや就労移行事業所など精神疾患を持っている方が居る場所でアウトリーチ活動を行い、人員拡大を図る。 ・会議ではなかなか実際の活動に繋がらないこともあるため、トモフトのフットサルにぜひ参加してもらい、連携を深めたい。 <p>FC VALOR)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームは今年で4年目。 ・健常者と精神疾患を持っている方が混ざって活動。

	<p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 治癒した後の環境の変化に対応できるよう、Fリーグクラブ、県リーグ、関東リーグの選手などに練習に参加してもらっている。 ・ 2019年度の地域連携会議の後にジェフユナイテッドスタジアム幕張から声がかかり、フットサルクリニックを実施することとなった。コロナによりまだ実施は2回。 <p>関東のソーシャルフットボール女子の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関東での女子の活動を本格的に始動。 ・ 日本知的障がい者サッカー連盟の女子委員会とも連携した活動予定がある。
<p>知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル 千葉県知的障がい者サッカー連盟</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 連盟自体は主に特別支援学校の教員らで構成。 ・ 普及活動として県内の知的障がい児向けにサッカー教室を年10～15回実施（2020年はコロナの影響で中止）。千葉県サッカー協会や柏レイソルやジェフユナイテッド市原・千葉が後援となっている。 ・ 強化面では、千葉県選抜チームの活動がある。他県に比べて千葉県は特別支援学校の生徒が多い印象で、選手も多い。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 千葉県内には社会人チームや、知的障がいでも定期的に活動しているチームは全くない状態で、特別支援学校を卒業後の活動環境がない。 <p>■ファシリテーターからの質問（知的障がい者サッカーに関わっている特別支援学校の教員を通じ、聴覚障がいなど他の競技の当事者となる人に向けた周知は可能か？）</p> <p>→特別支援学校の教員は、ろう学校や盲学校など様々な学校に勤務するため、他の障がい関係者との繋がりには広げられると思う。</p>
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チームは2つ（八千代市：クローバーズ、鎌ヶ谷市：ウイニング フェニックス）が活動。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学校でのPRもできておらず、認知度が低い。 ・ 千葉県は広く移動距離が長くなりがち。ウイニング フェニックス発足の経緯も、鎌ヶ谷市や船橋市周辺で活動していた選手が練習に通いづらくなったこと。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内での競技人口を増やしたいので、千葉県サッカー協会やJクラブのイベント等でデモンストレーションを実施させてほしい。県内のチームだけでなく、日本電動車椅子サッカー協会からの派遣も可能。
<p>ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 松戸市を拠点としたブラインドサッカーチームがあり、盲学校の生徒を中心としている。 ・ コロナのため練習拠点である学校が使えず練習ができていないため、大会にも参加できていない状況。
<p>その他の関連団体</p>	<p>Wings)</p>

<p>Wings (アミザーデ実行委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県で過去20回ほど開催してきた歴史ある大会「アミザーデ」(2泊3日で300人ほどの健常者と障がい者がごちゃ混ぜでサッカーを楽しむ)の実行委員長との関係があり、千葉県でも同大会を2020年に開催することになったが、コロナで中止。 7競技団体が自然と交流できる場になるため、状況が落ち着いたら開催に向けて動きたい。 アミザーデが連携や話し合いの場にもなっていければ、Jクラブの協力を得られたらより活動が広がっていくと思う。
<p>Jリーグクラブ 柏レイソル ジェフユナイテッド市原・千葉</p>	<p>柏レイソル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで障がい者サッカー関連の取り組みはできていない。 ・コロナ禍後には試合日のイベント開催などを検討したい。 ・連携や話し合いの場をつくることについても協力していきたい。 <p>ジェフユナイテッド市原・千葉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年10月に「ホームタウングループ」の名称を「社会連帯活動グループ」に変更。地域でのサッカー普及に加え、千葉エリアでの社会課題解決に貢献し一緒に地域の価値を高めていくことを目指している。 ・2021年秋から始まるWEリーグにレディースチームの参画が決まった。地域の活動としてコラボ等、新しい取り組みができるのではないかと。 ・地域活動として特別支援学校やろう学校を訪問する活動は長年継続している。 ・2020年度もクラブ選手のOBがいるということで、市原市の特別支援学校つるまい風の丘分校にクラブのレディース選手が訪問し、運動メインでサッカー教室を行った。 ・クラブとして障がい者サッカーにおいて指導をしたり競技会を行うことはできていないが、インクルーシブ社会を目指すことはクラブとして今後取り組んでいきたい。 ・クラブとしては発信力や集客力はあると思うので、課題解決に繋がる取り組みをしていきたい。
<p>都道府県サッカー協会 千葉県サッカー協会</p>	<p>■現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカー協会自体がボランティア集団のため、体制が整っておらず、組織だった応援態勢が取れていない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェフユナイテッド市原・千葉、柏レイソルは千葉県サッカー協会の登録団体なので、マッチングの協力ができる体制を取っていきたい。 ・千葉県や千葉市、教育委員会に働き掛ける点に関して、相談があれば連絡してほしい。 ・Wingsのアミザーデのようなごちゃ混ぜサッカー開催についてぜひ協力していきたい。 <p>■ファシリテーターからの質問</p> <p>(千葉県サッカー協会でも今後競技会などを組織することは可能か?)</p> <p>→サッカー協会内に障がい者サッカーの組織をつくるのであれば、理事会で協議の上、専門委員会的な役割になるのか、下部組織になるのか含め検討したい。</p>
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	

<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉県では、各団体個々では認知や周知が弱いので改善したいというのが共通点。Jクラブなどと連携して発信を強めていきたいという点でまとまった。 ・現在は共通の活動の場がないので、アミザーデを千葉県で実施する際には、Jクラブや各団体も協力していきたいと意見が揃った。まずはアミザーデの開催を協力することをきっかけに連携していく方向。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な形にはなっていないが、各競技間の連携やお互いがどんな活動をしているのか情報が共有ができる、また継続して議論ができる場をつくっていききたいということも検討した。
<p>グループ3（東京都）</p>	
<p>(1) 状況・課題・要望の共有</p>	
<p>アンプティサッカー 日本協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひJクラブと連携していきたい。 ・日本アンプティサッカー協会で新設した「アンプティサッカー部門新設・チーム創設支援制度」を活用し、健常者のチームでアンプティサッカー部門を創設できると良い。
<p>CPサッカー 日本協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京には2チームある。 ・場所の確保が課題。公共の施設は確保しづらく、民間だと費用がかかるため、練習は他県で行っている状況。障がい者スポーツセンターは2つあるが、サッカーができるグラウンドがない。 ・選手としては東京出身の選手が多いため、もっと東京の活動を広げたい。
<p>ソーシャルフットボール 日本協会 こころ리카バリーフットボール協会</p>	<p>こころ리카バリーフットボール協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年から現在の組織名で大会やイベントの運営をしている。 ・2020年度にはフウガドールすみだの監督との個人的な繋がりから一緒にイベントを開催した。今年度に関しては検討中。 <p>日本ソーシャルフットボール協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年8月にこころ리카バリーフットボール協会とも協力し、関東地域でサッカー交流イベントを開催し50名ほど集まった。 ・都内のチームで年末11～12月に行われた東京ヴェルディとヤンセンファーマ社の就労機会に3回参加。 ・現在発達障がいの方も混ざっている状況もあり、今後は精神障がい者だけを対象にせず、他団体との交流も進めていきたい。
<p>知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル 東京都知的障がい者サッカー連盟</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普及活動としてのサッカー教室や大会の開催、日本代表選手輩出などのための強化育成を中心に活動している。
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいチームをつくる動きが出てきている。 ・重度の障がいの方が多いため、なかなかイベントの実施は難しい状況。
<p>ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル パペレシアル品川 CA SOLUA葛飾</p>	<p>パペレシアル品川) ※ブラインドサッカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、チームとして練習はできていない。 ・品川区との連携で行っているオンライン体験会を実施している。

<p>CLUB VALER TOKYO</p>	<p>CA SOLUA葛飾) ※ロービジョンフットサル ・葛飾区との協働で多様性やダイバーシティー等の内容の講演や、区内の学校で普及活動を実施。</p> <p>CLUB VALER TOKYO) ※ロービジョンフットサル ・2020年1月に新しく発足。 ・健全者も混ざって活動している。 ・2020年はスフィード世田谷と一緒に体験会を行った。 ・東京都LINEグループでの情報はあがるが、継続的な会議体を持つてたら良いと思う。</p>
<p>デフサッカー/ デフフットサル レプロ東京</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ろう者と健全者が混ざって活動している。 ・東京都社会人サッカー連盟に加盟。 ・2021年は中学校から依頼があり、音のない世界の体験会を開催予定。 ・皆さんとコラボしてイベントや大会ができるとうい。
<p>Jリーグクラブ FC東京 東京ヴェルディ FC町田ゼルビア</p>	<p>FC東京) ・知的障がい、発達障がいの子どもを対象に、FC東京のサッカースクール「あおぞらスクール」を定期的に府中で開催。 ・月1回、スクール卒業生である知的障がい、発達障がいの中学生以上に対してもサッカー教室を実施。 ・「けやきの森」や調布の特別支援学校でサッカー教室を実施。 ・上井草スポーツセンターでは、知的障がい、発達障がいだけでなく1～6年生の小学生年代の子どもが誰でも参加可能で「スマイルサッカー」というものを企画。知的障がい、発達障がいのある子と健全児も混ざり、埼玉県から脳性まひのある子も参加している。 ・活動の課題としては、グラウンドとしてはパーク府中やFC東京の深川グラウンドはあるが、どうやって他団体の子どもたち、例えばCPやデフ、ブラインドの子どもたちに対して指導していくか手探りの状況。 ・クラブでは、フットサルコートやグラウンドを保有しているので、例えばあおぞらサッカースクールの子どもと健全のサッカースクールの子も、他障がいのある子どもたちを集めて、一緒にボールを蹴るインクルーシブな活動もしていきたい。 ・江東区、深川の天然芝でもインクルーシブなイベントは検討可能であり、各最寄りと一緒にできそうな方は声をかけてほしい。</p> <p>■情報共有や定期的なディスカッションの場について ・東京都LINEグループについてはこれまでクラブの活動をシェアできなかったため、今後地域の活動を共有して連携していきたい。 ・会議体についても定期的に話せる場があったら新しい取り組みもできそうなので賛成。</p> <p>東京ヴェルディ) ・ホームタウンの行政と連携し、障がい者スポーツ体験教室を年間を通じて実施している。2020年度は年間100日超の実績。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩桜の丘学園や都内のホームタウンの中の特別支援学校での指導も実施している。 ・知的障がい者サッカー連盟と一緒にサッカー教室を実施しており、指導者が一緒に訪問し活動を手伝っている。 ・他の競技、団体にも訪問指導などが可能なのでぜひ声をかけてもらいたい。 ・現在、クラブとして一番力を入れているのがオンライン活動。ほぼ毎日1日3～4本のオンラインイベントを実施している。これらの活動を通して、在京クラブがみんなで協力すれば東京の障がいがある方々、そしてない方々もみんなでスポーツできる場ができると思うので、みんなで連携していきたい。 ・東京都LINEグループでは、クラブの取り組みについてのお知らせ共有はできていた。他の方からもイベント情報を共有してもらっていた。今後、情報を共有するものはLINEなのか、もう少し分科会的にオンライン等で集まる場を設けるのか検討が必要。それぞれの競技やチームで目指すところは違うので、お互いのイメージが合うようにグルーピングやカテゴライズするところから始めたい。 <p>FC町田ゼルビア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町田市内中学校の特別支援学級を訪問し、サッカー教室やキャリア教育授業を行っている。 ・日本聾話学校を訪問してサッカー教室等の取り組みをしている。 ・サッカー以外では、市内の社会福祉法人の方や協会の方と一緒にボッチャの取り組みをしている。
百年構想クラブ 南葛FC	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年に百年構想クラブになったところで、まだ活動がほぼできていない。 ・クラブの代表が『キャプテン翼』を書いている高橋陽一先生であり、ブラインドサッカーの漫画を描いたり、大会のお手伝いをしている。 ・百年構想クラブになった直後に葛飾区と相談し、葛飾区は日本ブラインドサッカー協会と提携関係を結んでいる。クラブとしても日本ブラインドサッカー協会との連携を模索していたがコロナの進んでいない状況。
Fリーグクラブ ペスカドーラ町田	<ul style="list-style-type: none"> ・特に独自の活動はできていない。 ・声がけいただいたイベントにはできる限り参加している。 ・チームのスタッフも多くはないため、自チームだけで何かを企画するのは難しい。
地域および都道府県サッカー協会 関東サッカー協会 東京都サッカー協会	<p>関東サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協会では関わり方を模索している状況 ・関東以外の他地域サッカー協会での情報も全くないため手探り状態。 <p>東京都サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会としては独自でイベント等動いていることはない。 ・2020年3月にまぜこぜのウォーキングサッカーを企画していたが、中止になった。
JIFF	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の地域連携会議で東京都LINEグループを作成したものの、コロナ禍もありあまり活用できていない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後はより障がい者サッカーのチーム同士や、チームとJクラブの連携が進んでいけるとよいのではないかと。
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東京はそれぞれのクラブで非常に活動が盛んな状況。 ・ FC東京の「あおぞらサッカー教室」や東京ヴェルディの体験教室、オンラインプログラム等で連携できればという提案があった。 ・ 在京のクラブがそれぞれ持つリソースやエリアも異なるため、それぞれで活動していくことで全体が盛り上がっていくという話もあった。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年度の地域連携会議から東京都LINEグループで情報共有ができていたため、そこに皆さんが入ってもらおう。 ・ JIFFも入りながら、会議の場を定期的に作っていく点を皆さんに賛同してもらい、連携会議を開いていくことに決まった。 ・ 選手の発掘や、指導者養成、新チームの設立、女子の活動の活性化や地域貢献など、それぞれ課題を持っているところは異なるため、その会議の中で分科会のような形でグループ化していくことも含め検討していく。
グループ4（神奈川県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
JIFF	<p>■インクルーシブフットボールフェスタ開催の提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県はJクラブも多いが一緒になつてなにかを実施する機会は少ない。障がい者サッカーだからこそ、クラブ間の壁、障がい者自身の壁、健常者と障がい者の壁など様々な壁を一緒に取り除いていくイベントをつくっていききたい。 →神奈川県サッカー協会やJIFFも一緒になつて「インクルーシブフットボールフェスタ神奈川（仮称）」を実施するという点で、実行委員会のように定期的集まるのはどうか。
アンプティサッカー FCアウボラーダ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選手は茨城県から静岡県まで幅広い地域の方が集まって練習している。 ・ 以前、かもめパークで開催された神奈川県フットボールデーや、東京都での「インクルーシブフットボールフェスタ」には参加している。 ・ 神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタもぜひ参加したい。
CPサッカー エスペランサ	<ul style="list-style-type: none"> ・ かもめパークでの神奈川県フットボールデーや東京都での「インクルーシブフットボールフェスタ」はいつも楽しみにしているので、神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタもぜひ参加したい。
ソーシャルフットボール FC PORT	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で選手やチームの雰囲気は良くない。モチベーションの上げ方など工夫が必要。 ・ かもめパークでの神奈川県フットボールデーに参加し、とても楽しかった。選手から障がいについて話す時間をもらったので、また同様の形で実施できると良い。
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル 神奈川県知的障がい者サッカー連携	<p>神奈川県知的障がい者サッカー連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年は9月6日から活動を再開したが、12月からまた活動できていない。 ・ 神奈川はカテゴリーの枠を超えて大変仲がよいため、ぜひアイデアを出し合いながら連携していきたい。

<p>NPO法人アクティブスポーツ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LGBTQの方やうつ、依存症の方などもあるので、ぜひ垣根を越えて同じサッカーファミリーとして協力していきたい。 ・それぞれの立場を生かしてインクルーシブフットボールフェスタのような大きなものなど開催できると良い。 ・「なでしこひろば」も実施しているが、誰でも参加できる場を取り入れる等検討していきたい。 <p>NPO法人アクティブスポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2016年から知的障がい者サッカーチームとしてFC HORTENCIA ACTIVE (オルテンシアアクティブ) という名前で相模原市を中心に活動。 ・インクルーシブサッカースクールという形で健常者も混ざったサッカーを週1回実施。 ・インクルーシブサッカースクールを2016年に始めたときは、インクルーシブという言葉がまだ浸透しておらず、インクルーシブ教育というところからサッカースクールを開催した。 ・現在は、「インクルーシブ」という言葉の意味合いが変わってきていると思う。 ・現在の活動は、基本的にフルピッチを半分に分けて、一方で知的障がい者サッカーを行い、隣で健常者の活動を同時に行い、時々コートと一緒に準備したり、混ざってトレーニングマッチを行ったりしている。 ・派手なイベントは独自でできないため、自然にお互いが知っていくような活動を地道に続けている。 ・知的障がい者サッカーチームの選手(現在30人弱)も認知度を上げたいので、県内のJクラブに協力してもらいながら前座試合や、大きな大会に参加できると良い。
<p>電動車椅子サッカー 神奈川県電動車椅子サッカー協会 Yokohama Crackers</p>	<p>神奈川県電動車椅子サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では活動ができていない。 ・東京都での「インクルーシブフットボールフェスタ」にも参加したが、神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタは、競技のPRにも繋がるのでぜひ参加したい。 <p>Yokohama Crackers)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜F・マリノスと「マリノスカップ」という電動車椅子サッカーの大会を実施。 ・コロナ禍のため練習もしばらくできていない。選手の中には体力や筋力の衰えが心配な人もいる。 ・東京のインクルーシブフェスタにも参加したが、7つの障がい者サッカーと周りで支えてくださる方が一緒になってやるイベントは貴重。神奈川でのインクルーシブフェスタは、障がい者サッカーのPRにも繋がる。
<p>ブラインドサッカー buen cambio yokohama</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドサッカーは大会が行われていたので、リアルの練習とオンラインの練習を組み合わせながら大会に臨んだ。 ・コロナ禍では普段よりもSNSなどに力を入れている。
<p>Jリーグクラブ 横浜F・マリノス 川崎フロンターレ 湘南ベルマーレ SC相模原 Y.S.C.C. 横浜</p>	<p>横浜F・マリノス)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県サッカー協会とは連携できており、7つの障がい者サッカーと一緒にかもめパークでサッカーができた(神奈川県フットボールデー)。また一緒に取り組んでいきたい。 ・知的障がい者サッカーチーム「フトゥーロ」が活動している。毎年、ホームゲームの前座試合を実施。

- ・電動車椅子サッカーの大会を企画している。ホームゲームでの体験会も実施している。
- ・神奈川県は活動団体が多いため、インクルーシブフットボールフェスタのようなイベントができるのではないかと。
- ・Jクラブに場があるため、そこで一堂に会し、数年前に行ったフェスティバルをJクラブ主催・主導でやるというのも考えられる。
- ・一昨年、神奈川県は障がい者ともつながり、湘南ベルマーレとY.S.C.C. 横浜の協力を得て海のイベントを実施した。
- ・全員はなかなか難しいが、各Jクラブの前座として、障がい者サッカーをサポーターの方々に披露する場をつくれたらよい。
- ・知的障がい者サッカーや電動車椅子サッカー以外の障がい者サッカー競技とも連携していきたい。

川崎フロンターレ)

- ・富士通スタジアム川崎は、障がい者サッカー7団体中5団体の利用実績がある。2015年より障がい者サッカーに積極的に声かけをしてきた。
- ・CPサッカーチーム・エスペランサには平日週4回利用してもらっている。
- ・アンパティサッカーの大会も毎年全国大会を行っている。2019年度は数十万人の人が来場する市民祭りの中で日本選手権を実施。このような取り組みはこれからも続けていきたい。
- ・ブラインドサッカーはクラブ選手権を毎年行っている。
- ・デフサッカーも毎年大会を開催している。
- ・スタジアムとしては、大会を開くだけでなくいかに市民の方に見てもらえるか、体験してもらえるかを心掛けている。
- ・神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタ開催にはぜひ協力したい。
- ・雨には弱いですが、スタジアムもぜひ活用してもらいたい。

湘南ベルマーレ)

- ・クラブとしてはまだまだ障がい者サッカーの活動実績が少ないのが課題。
- ・クラブとしてはより力を入れていきたい。
- ・神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタ開催にはぜひ協力したい。
- ・海もあるので活用して、色々な人に参加してもらえたら。

横浜FC)

- ・これまで「ぼるとカップ」という名前で障がい者スポーツ、サッカー大会を開催してきた。2020年はコロナのため中止したが、落ち着いたらまた再開したい。
- ・神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタ開催にはぜひ協力したい。

SC相模原)

- ・今年はコロナで活動ができていない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタ開催にはぜひ協力したい。 ・Jクラブが多い地域なので広報力がある。 <p>Y. S. C. C. 横浜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型地域スポーツクラブとしては、緊急事態宣言のため子どもたちの活動も20時までに帰宅していることを考え午後の活動はできておらず、リモートの活動をしている。 ・神奈川県でのインクルーシブフットボールフェスタ開催にはぜひ協力したい。 ・懸念点としては、神奈川県では「やまゆり事件」後、共生社会という言葉をよく使っていること。この会議では「インクルーシブ」というのは「まぜこぜ」という意味だが、行政によってはインクルーシブの捉え方が「排除しない」とか「共生」とか、言い方が違う。そこは統一感を持つことが必要。まぜこぜという意味で考えると、障がいもまぜこぜだが、大人やシニア、国籍というところも踏まえてまぜこぜであるべき。神奈川県は外国籍の方も多いため本来のまぜこぜをもっと広げていけたら。
<p>都道府県サッカー協会 神奈川県サッカー協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は企画したものがすべて中止になってしまった。 ・県立スポーツセンターがオープンし、12月にパラスポーツフェスタが開催予定だったので、抱き合わせでの企画をしていたが、開催には至らなかった。 ・フットボールデーは縮小した形で、障がい者サッカー企画を進めていたがコロナのため断念。 ・神奈川県知的障がい者サッカー連盟が主催のフェスティバル大会の後援として、審判の派遣をした。 ・神奈川県障がい者スポーツ協会が新しくオープンした県立スポーツセンターの中の事務局が企画している「神奈川県ゆうあいピック大会」の後援として、審判派遣を行った。 ・2021年度に向けても、県立スポーツセンターのパラスポーツフェスタとフットボールデーに関しては現在事業計画を作成している。 ・協会として人員不足で、県内の活動の把握や組織だった動きは取れていない。今後改善する必要がある。
<p>その他の関連団体 桐蔭横浜大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川でのインクルーシブフェスタ開催の際にはぜひ若い力という点で、地域の大学生を呼んで、それを機に普段の練習の手伝いに来るといった機会になればと思う。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県はJのクラブも、障がい者のチームも多く活動も幅広いため、この力を結集したいという点で「インクルーシブフットボールフェスタ神奈川」の開催を検討した。Jリーグ6クラブからも障がい者サッカーチームからも賛同が得られ、全体の意思がまとまった。 ・2年前に神奈川県サッカー協会が主催したフットボールデーでまぜこぜで集まるフェスティバルを実施しているので、それを広げる形でJクラブにも入ってもらい、また障がいの種別、LGBTQや各マイノリティーの人も参加できるようなものにしていければという声もあった。

テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する

神奈川県サッカー協会やJIFFが動き出しに関わり、「インクルーシブフットボールフェスタ神奈川」を実現するために会議体を設け、実現に向けてこれから話し合っていく。



③参加者の声

会議の満足度

■とても満足 12名

- ・このように障害に関係なく、サッカーファミリーで集まった
- ・新しい連携ができた。課題が明確になった。
- ・各団体の課題の共有ができ、他団体との繋がりを作れたため
- ・大変満足でした。本日、社内会議で途中参加で残念でした。
- ・それぞれの参加団体の課題感などを一部でも聞くことができたこと
- ・いろいろな団体の現状を聞くことができたため。
- ・みんなとご一緒できて嬉しかったです！
- ・他の競技の方々の様々な意見が聞けて良かったです
- ・初参加で現状が良く理解できた為
- ・それぞれ参加者の意識が高かった。
- ・埼玉での月例MTGに加え、新たな情報入手や関係構築をすることができたため。
- ・各団体と現状と課題を共有できて大変有意義でした

■満足 28名

- ・各都道府県ごとにグループ分けをしてディスカッションを行なえたため。
- ・Jクラブ関係者や既存のライングループなど情報共有ができる場に入れていただけたこと。
- ・はじめの一步になったのではないかと思います
- ・たくさんの団体さんのお話が聞けたため
- ・なかなか情報共有は難しく感じました。100%の満足は求めていませんが、障がい者協会に質問や興味をもっていただきたかった。自分たちが呼び掛けたさいに、どのくらいの人たちが関心を持ってくれるのか不安。

	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの皆さんと関係ができた ・前回よりも前向きに進んだ内容を聞いた ・今後の動き出しのきっかけになったと感じました ・新たな出会い ・千葉に関し、去年より少しだけ進んだような気がします。 ・沢山のクラブ、団体が参加していてとても良かったです。 ・前回参加した会議の時にしようと思っていたことを思い出せたのでよかったです。 ・9地域会議後のアクションに結びつくようなネットワークが構築できたと感じる一方で、この会議の場自体をどのように活かせば良いのか難しく感じたので、評価を4にさせて頂きました。 ・障がい者サッカー7団体の現状が共有出来たこと。神奈川県との連携が深まる機会となったこと。 ・普段関わっている障がい以外の活動に関してしることが出来たことが大変参考になりました。 ・多くの連盟の方を知ることができた ・様々な方の意見が聞けたこと。 ・WEBでの良さ（参加者増）はあるが、個々の状況が把握しにくい。 ・多くの参加者の顔を見て、声を聞くことができたから ・情報共有できた事 ・障がい者サッカーの普及に向けて各担当者と情報交換やグループディスカッションができたから。 ・1年ぶりなので、昨年度の確認ができたこと ・県内Jクラブの関係者の方々の積極性を強く感じました。 ・皆の意見を聞けたこと ・埼玉県グループで久々にお会い出来たり、情報を知る事が出来てよかった。 ・コロナ禍により活動が出来なく厳しい状況ではありますが、連携会議で前向きな討議が聞け良かったです。有り難うございました。会議ではコロナ禍後の活動に明るさや希望を持てる話し合いが出来たと思います。 ・多くのサッカー関係者と現状を話し合い把握できた ・中身のある素晴らしい内容だったのですが、もう少し時間があればより深い議論につながったのではと感じました。 <p>■普通 12名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が多く、要望を伝えることが出来なかった ・オンライン会議は参加しやすいので様々な人が集まる良さがある一方で、中々具体的な連携に発展しにくい？ ・もう少し発言の時間が欲しかったです。 ・内容は充実していましたがもう少しディスカッション時間を設けてほしい ・ディスカッションパートの自己紹介の時間がどうしても長くなるので、議論にあまり時間を費やせなかったため。 ・すでに十分な連携ができている地域なので、他の地域とは違うアプローチがいいのでは？と思いました。 ・それぞれの団体の課題を共有するまでに時間を要するので、勉強になる貴重な場である一方で具体的な動き出しまで進めるには難しいと感じました。 ・それぞれの団体の課題を共有するまでに時間を要するので、勉強になる貴重な場である一方で具体的な動き出しまで進めるには難しいと感じました。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・7団体の発言時間が短かった ・地域FAの関わり方が、会議に出席しても正直分らない ・サポート体制が難しいなと感じました。 ・発言の機会が少なかったのと、他の方の話をなかなか聞けなかったのが残念でした。もっと話ができたら良かったです。 <p>■不満 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回会議とほぼ同じ内容・同じまとめになってしまったから。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の会議を機に、各団体とも地域連携をとっていきたいと思います。 ・もう少し時間があるといいと思う反面、長時間が大変な方もいらっしゃるのでは、良いのかなと思います ・様々な活動が知れたのは良かったです ・ファシリテーターのかたや事前資料のおかげでスムーズな進行でした。ありがとうございました。 ・多くの団体が集まっている中で、スムーズに進行されていて、よかったですと思います。 ・今回初めて参加致しました。色々と情報を得ることができました ・まだまだ障がい者サッカーの認知が低いようですので、Jチームが積極的に発信したいと思います。 ・それぞれに課題感がある中、こういった場を通じてマッチングや整理、新たな出会いが生まれることはクラブにとってもありがたいと感じました。 ・機運は年々少しずつ上がっており、あとはどう実践につなげていくかという感想です。 ・気軽に話せる雰囲気があると活発な意見がでると思います。 ・開いてくださりありがとうございます。年に一回だけでもあるとそれにより出来ることがあるので、とても良かったです。 ・オンライン開催ということもあってか、参加者の数も多く、新たなネットワークが構築できました。しかし大人数の良さがある一方で、これだけの人数で自己紹介の時間を取ってしまうと、中々本題に入れないという難しさを感じました。オンラインだと、会議後に歓談しながら自己紹介をしたり繋がりを作ったりすることができないので、如何に会議だけで終わらせない仕組みを作るかが、より重要なようにも感じました。しかしその点は、今後定期的に話し合う場を持てるよう、ファシリテーターの方が誘導してくださったことで、解決したように思います。コロナ禍ではありますが、ここで出来たネットワークを活かして具体的な活動に繋げていきたいと思います。 ・全体的に非常に勉強になりました。一点今後加えて頂きたいことは、どうしてもイベントごとの開催の議論が多かったのに対して障がい者目線の単発やワンデイではない各障がいに合わせて定期的なリーグ戦等の開催に関して少し意見交換が出来れば良かったのかなと思います。 ・主体となる団体がいると、議論も行動も進んでいくと感じました。 ・定期的にこのようなミーティングを実施してほしいと思います ・他の競技の方々の様々な意見が聞けて良かったです ・しっかりと話を聞くことができ、問題無く行えたと思います。 ・良く練られており、スムーズな進行だった。 ・それぞれの問題点を共有することが重要ではないか ・関わっている方の多さに驚きました。 ・グループディスカッションが良かった

	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、オンラインでの開催となりましたが、個人的には対面開催よりは参加しやすいと感じました。 ・オンラインなので仕方がないのですが、名簿だけでお話ができなかったのが残念でした。 ・全団体が発言していて、活気ある会だと思いました ・様々な立場のサッカー関係者が集まり話をすることができるのは良いと感じた。 ・これは自分自身の問題ですが、オンライン会議の参加が初めてだったので戸惑いました。コロナが終息し顔を合わせての会議が出来ると助かります。 ・大人数という制約はありますが、「県内でインクルーシブをやりたいか」の一問一答形式で、全体的に消化不良で終わってしまいました。 ・今回のような会議は何に数回企画し、全体で行う会議とは別に、細分化したグループで集まれる仕組みを作成した方が良いと感じました。人数が多いと発言機会が少ないですし、時間を有してしまう為です。東京だけでも多いので、エリア毎に区切ったらして、まずは近くのクラブ、団体が絡んでいけるような仕組みづくりが良いように感じました。 ・例えば定期的なMeetingが実現できている地域であれば、あえてこの場で同じ人たちを集めるよりも他の地域の成功事例の話とかが聞きたいのではないのでしょうか。（例：松本山雅がチーム設立のためにどのようなマネタイズの工夫をしたか、など掘り下げた話） ・県に分かれてお話し合いが出来たことが大変良かった。 ・グループディスカッションがほぼ、自己紹介で終わってしまったので、ここは検討するべき点ではないかと思います。 ・前は同じ会場で他都県の話も混ざってしまい、話が聞き取りにくいこともありましたが、今回のオンラインではグループだけの会議室で話に集中できました。 ・自己紹介に時間がかかりすぎているので、各団体の代表者のみで良いと思いました。 ・各団体の課題感はそれぞれ違うと思うので、事前にヒアリングしたうえで、ディスカッションで話し合うテーマなどをある程度細分化しておくとうまいかと感じました。 ・他県の人との交流ももう少し時間が取れば良かったなと思います。ただし参加人数が多いので、抑えられる範囲で参加人数を少なくしても良いかと思います。 ・継続した会議、情報共有等を持てるようあらかじめ日程を決めてほしい（3ヶ月に1回とか） ・やはり関東(南)は人数が多いので、深めるところまではいかないですが、各都県単位での深化が大切になると感じました。 ・時間が短かった。事前の参考資料がもう少し多くても良いと思いました。 ・オンラインなら、協会事務局員の参加を複数参加したらよかった ・フロントや事務スタッフだけでなく、スクールコーチなどの指導者が多かったように感じました。 ・アジェンダを少なくしてディベートする時間を少し長く設定した方が良かったかも。 ・先ずは初回と言うことで、ここまでかと思いますが、もう少し各団体のプレゼン時間が欲しいです。 ・昨年度の振り返りについては、事前に資料と動画で共有されていたのでもう少し短い時間でもよかったです。
--	--

<p>今後同様の会議を実施する場合の単位</p>	<p>■実施単位</p> <p>9地域ごと 10名 都道府県ごと 22名 どちらも 12名 その他 8名</p> <p>■「その他」の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域別や目的別でカテゴライズできるとより深いディスカッションができると感じました。 ・東京は団体が多かったので、東東京、西東京のようにもう少し地域を絞った単位での場も欲しいと思った ・今回第2回目でしたが、特に他で問題がなければ今の実施の仕方で良いかと思います。ただし、これ以上参加人数が増えると話し合いをまとめるのが大変になってしまうかとは思いました。 ・目的別によびかけて集合するのはどうか。 ・できれば全地域 <p>■コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のグループディスカッションは別として、前半のように報告会ベースであれば9地域でも良いと思います。 ・今後各都県内の連携が進むなら、各都県で集まり、年1回全体で共有というのもいいかもしれません。 ・地域によって異なると思いますが、関東南部は都県ごとが良いと思います。 ・今回と同様で良いのですが、もう少し県単位でも会話したいです。
--------------------------	---

(6) 北信越

①会議概要

開催日時	2020年11月9日（月）会議 18:00～20:00
開催場所	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 20分 地域内の新規事例共有 7競技団体の地域内での状況や展望の共有 4. グループディスカッション 65分 5. ディスカッション概要共有、写真撮影 10分
参加人数（実数）*	37名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

部門別人数

JFA	2名	役員・管理職	15名
9地域サッカー協会	0名	グラスルーツ・普及・ホームタウン	6名
都道府県サッカー協会	4名	管理部門	8名
Jリーグクラブ	6名	強化・指導者	7名
Jリーグ百年構想クラブ	0名	選手	1名
その他サッカー関連団体	0名	合計	37名
アンプティサッカー	3名		
CPサッカー	2名		
ソーシャルフットボール	4名		
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	1名		
電動車椅子サッカー	6名		
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	4名		
デフサッカー／ デフフットサル	2名		
その他障がい者サッカー 関連団体	0名		
JIFF	4名		
合計	39名		

②会議内容

地域内の新規事例共有	
松本山雅FC	<p>■ ブラインドサッカーの取り組み</p> <p>2015年、県内のブラインドサッカー体験会に松本山雅FCスタッフが参加したことをきっかけに、2016、2017年に山雅後援会主催のブラインドサッカー体験会を開催。2018年にホームゲームでブラインドサッカー体験会を開催。</p> <p>2019年には、クラブ主催でホームタウンを巡回する体験会を開催（toto助成を活用）。FC長野RAINBOWを前身とするブラインドサッカーチーム「松本山雅B.F.C.」を7月に設置。</p> <p>■ ソーシャルフットボールの取り組み</p>

	2019年度の9地域障がい者サッカー連携会議後、2020年2月より虹の村診療所はデイケア活動の一貫として、松本山雅FCより月に1度フットサルのコーチングを受けている。
7競技団体の地域内での状況や展望の共有	
アンプティサッカー	・北信越にはまだチームがないので、チーム新設制度を利用しチームをつくっていききたい。
CPサッカー	・約20年前には、新潟県や富山県に熱心な選手がいたが、なかなかCPサッカーのチームとしての活動には至らなかった。 ・サッカー活動を希望する脳性麻痺の方たちが出てきたときに、参加できる、サッカーができる環境（受け入れてもらえるチームや教室等）が整えられるよう連携や情報共有ができる体制をつくりたい。
ソーシャルフットボール	・虹の村診療所と松本山雅FCのフットサルや農業の交流（長野、前述の通り）。 ・各県のJクラブのホームゲーム前座イベントの開催や各地域での普及活動への協力をいただきたい。
知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル	知的障がいのチーム同士は距離が遠く、試合の機会が少ない状況。県内や近隣地域で障がいの有無や種別に関わらず、試合の機会をつくるなど連携をしたい。
電動車椅子サッカー	・松本山雅FCの協力を得ながら長野で大会を開く予定だったが、コロナの影響で実現できなかった。 ・日本電動車椅子サッカー協会主催の全国大会「パワーチェアーフットボール チャンピオンシップジャパン」を長野県のホワイトリングで開催予定だったが、コロナにより中止となった。
ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル	F.C.長野RAINBOWを前身とした「松本山雅B.F.C.」が設立した（前述の通り）。
デフサッカー／デフフットサル	新潟県に1チームのみのため、競技を知ってもらおう場作りのご協力をお願いしたい。
グループディスカッション	
グループ1（長野県）	
（1）状況・課題・要望の共有	
アンプティサッカー 日本協会	■状況と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・北信越にはまだチームがない。 ・おそらく県内ではまだ体験会を実施したことがない。 ・学校組織がないため、周知・選手発掘が困難。体験会等を行っても選手の対象となる人がこない。 ・義肢装具士学会の発表によると、義足を付けたサッカーやフットサルのプレーヤーは、全国で1000名ほどいると言われている。 ・まずはチームをつくるのが、選手発掘に繋がるのではないかなと考え、チームの創設・新設の制度をつくった背景がある。 ■今後に向けて、要望 <ul style="list-style-type: none"> ・体験会を実施させてもらいたい。例えば、ブラインドサッカーと一緒に体験会をできないか検討する。

<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況 ・地域での普及活動、大会実施や繋がりは全くない状態。</p> <p>■今後に向けて、要望 ・「ソサイチリーグ」と連携し前座的な交流試合や体験会などを各地域で開催予定。 ・ゼロからすべてつくるのは難しいため、既存の大会や試合などとコラボしたい。</p>
<p>ソーシャルフットボール 虹の村診療所</p>	<p>■Jクラブとの連携 ・2019年度の地域連携会議をきっかけとして、2020年2月より虹の村診療所はデイケア活動の一貫として、松本山雅FCより月1回フットサルの指導を受けている。 ・参加者は現状10名前後。 ・毎回多種多様な練習メニューが組まれており、ひと通り練習を終えた後はウォーキングサッカーを楽しんでいる。 ・プロのコーチングを受けるようになってから参加者の充実感や満足度が格段に上がり、成果を感じている。 ・今後どのように競技として発展させる事ができるのか検討中。</p>
<p>知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル 長野県サッカー協会より</p>	<p>長野県サッカー協会より) ・長野県サッカー協会では大会の運営協力等を行っている。 ・県選抜チームをつくり、将来的に全国障がい者スポーツ大会の予選を突破し、全国大会に出場することを目標に活動している。</p>
<p>電動車椅子サッカー 日本協会 長野県電動車椅子サッカー協会 FCクラッシュヤーズ バレッツ</p>	<p>■要望 ・まずは電動車椅子サッカーを知ってほしい。松本山雅FCやAC長野パルセイロの協力を得ながら、体験会などを実施していきたい。</p>
<p>ブラインドサッカー 日本協会 松本山雅B. F. C</p>	<p>松本山雅B. F. C) ・松本山雅FCとの連携の経緯は前述「地域内の新規事例共有」の通り。 ・県内で毎年体験会を実施している。</p>
<p>デフサッカー／ デフフットサル デフ鯨（愛知県）</p>	<p>■活動状況 ・長野県にはチームもなく、選手もいない。 ・長野県内にはろう学校は2校あるが、現在のところ情報がなく、競技者の把握ができていない状況。 ・デフサッカー希望者がいても受け皿がない。</p> <p>■今後に向けて、要望 ・体験会の場をつくっていきたい。 ・AC長野パルセイロなどと連携しながら、まずは県内のろう学校と交流できるとよい。</p>
<p>Jリーグクラブ 松本山雅FC AC長野パルセイロ</p>	<p>松本山雅FC) ・ブラインドサッカーとの連携は前述「地域内の新規事例共有」の通り。 ・毎年、長野県と連携しろう学校にサッカー教室を実施。ホームゲームで手話のマッチデー等を開催。 ・今後は誰もが参加できるウォーキングサッカーにも力を入れていきたい。</p>

	<p>AC長野パルセイロ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と連携しながら28年の長野国体に向けての選手発掘等を目指し、特別支援学校の巡回指導をしている。盲学校からも依頼を受けており、2020年度活動予定。 ・松本のろう学校では毎年1回はサッカー教室を開催している。今年はコロナで中止。 ・デフサッカーとも連携し一緒にできる機会を検討したい。
<p>都道府県サッカー協会 長野県サッカー協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラスルーツ委員会という名称に変更した約4年前に知的障がい者サッカーから力を入れ始めた。県協会でも知的障がい者のサッカーの大会運営協力等をして選抜チームをつくったりするなどしている。 ・協会としては、障がい者サッカー関係全体のとりまとめ等がまだできていない状態。 ・基本的には各団体での取り組みに対し、共催や後援という形で認知拡大を試みている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数競技団体と連携し、ごちゃ混ぜでウォーキングサッカーをやるなどもできたら良い。イベントをきっかけに連携したい。 ・(本会議で話にあった) アンプティサッカー体験会なども検討していきたい。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特にアンプティサッカー、CPサッカーが、現状県内にチームを持っていない状況のため、ごちゃ混ぜサッカーイベント等を企画したいという意向。 ・その際にアンプティサッカーやデフサッカー、電動車椅子サッカー等の体験コーナーを設置するなどできれば理想的。 ・Jクラブはいずれも障がい者サッカーの活動があり、相談等も歓迎している。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のないように始めるということで、長野サッカー協会の篠原さんを中心にメールで情報共有できるような体制をつくっていく。 ・それを機に今回のようなオンライン会議で横の連携をつくっていく。
<p style="text-align: center;">グループ2 (石川県)</p>	
<p>(1) 状況・課題・要望の共有</p>	
<p>アンプティサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北信越にはまだチームがない。 ・2016年に県サッカー協会、金沢星稜大学との協働で体験会を2回ほど実施。その後、未実施。 ・クラッチの購入が難しい場合や、体験会を実施する場合などのために、日本アンプティサッカー協会にて貸し出しが可能。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンプティサッカー紹介ポスターやチラシを送るので、県サッカー協会でもPR・周知してほしい。
<p>ソーシャルフットボール カラフル・金沢 岡部病院</p>	<p>カラフル・金沢)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年10月に発足。 ・毎週水曜日開催し、平均12人ぐらいが参加している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の4月から放課後とデイサービス（発達障がいや精神疾患を持っている児童の通所するサービス）の福祉事業で1団体ほど連携し、18歳以下の子どもにも活動の幅を広げている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も医療・介護系の方々やプロサッカーチームとも連携し、さまざまな活動を展開していきたい。 <p>岡部病院)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年ほど前からチームとして活動。 ・ツエーゲン金沢の厚意で、2019年は3カ月～4カ月に一度ほどコーチを派遣いただき、入院患者（精神疾患）にサッカー教室をしてもらった（コロナ禍では一度も実施できず）。 ・2019年は、ツエーゲン金沢の試合に患者20～30人を連れて行ったが、治療的な効果もとても高い印象。
<p>知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル 石川県サッカー協会より</p>	<p>石川県サッカー協会より)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川県の国体では2～3県で特別支援学校が連携してチームをつくり、もうひとつの高校選手権に2年連続で出場することができた。 ・日本知的障がい者サッカー連盟は指導者ライセンスの発行事業を2019年度からはじめており、実際に石川県からも参加してもらった。 <p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの連盟組織を置きたい。
<p>電動車椅子サッカー 石川県電動車椅子サッカー協会 金沢ベストブラザーズ</p>	<p>金沢ベストブラザーズ)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸、北信越地域の選手の受け皿になっている。 ・現状金沢の選手は4名、県外が4名の合計8名の選手が所属。 ・2020年は6月まで活動を自粛していたが、Zoomでのオンライン会議等を行い、現在はコロナ対策を行いながらほぼ普通に練習し、活動中。 ・他県との練習試合も行っている。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか地域に大会やイベントを呼べていない状況から、他競技団体とも連携がしづらい。
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル ツエーゲン金沢BFC</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ブラインドサッカー協会主催の地域リーダープログラムを通じて、北陸初の「ツエーゲン金沢BFC」が立ち上がった。 ・石川県にブラインドサッカーが立ち上がって2年経過。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内で公式戦を実施したい。その際に他県からチームを集めての公式戦に加え、県内にある障がい者サッカー、他団体と一緒にイベントを開催するのが理想的。進め方を相談したい。 ・コロナ禍でのチーム活動は9月ぐらいから月2回の練習を再開したが、福祉関係者が多いため参加人数は少ない。 ・イベントは8月1回、10月2回実施した。
<p>Jリーグクラブ ツエーゲン金沢</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートナー企業である岡部病院と連携し、入院・通院している精神疾患のある方向けに2018年から年4回スクールコーチが訪問しサッカー教室を開催。

	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の施設の体育館でサッカー教室をしているが、次は屋外でサッカー教室をできれば患者の気も紛れる効果も期待できるのではと話していたが、コロナの関係で実施できていない。 ・ホームゲームでは、試合前にツエーゲン金沢BFCの壮行セレモニーを行うなど、活動資金としての募金活動も行った。Jリーグの助成金の申請もし、広報・資金面での支援もしている。
都道府県サッカー協会 石川県サッカー協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度から「IFA障がい者サッカーミーティング」という形で、現存の障がい者サッカーチームの代表者、ツエーゲン金沢、石川県の障害福祉課を交えて、年に数回会合（オフライン）を開催。 ・2020年は4団体が集まってフェスティバルを開催（コロナ禍のため縮小開催）。2021年以降も交流が進むような、あるいは健全者の方も含めたフェスティバルを開催していきたい。 ・知的障がい者サッカーでは、特別支援学校の部活と連携しながら進めている（コロナ禍では部活動中止等）。健全者のチームとは時々交流試合を実施。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会ではグラウンド調整会議を実施しており、障がい者サッカー枠としてグラウンド確保に動くことも可能。 ・まだチームが立ち上がっていない障がい種別のサッカーに関しては、協会としてできる限りのサポートをしたい。 ・石川県内のスポーツに対する助成金などの紹介も可能。
(2) ディスカッションまとめ	
テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・認知度拡大に向け、コロナ禍においても一堂に会してフェスティバルを開催し、縮小しながらも実施ができたとのこと。 ・チームが立ち上がっていない団体に対しては、石川県内のスポーツに対する助成金の紹介が可能という話や、県内や北信越でブラインドサッカー・アンプティサッカー等の試合・リーグ戦を行っていきたくという意向もある。 ・それに併せて、具体的なグラウンドの確保方法など次につながる話が多く出た。
テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する	<p>石川県サッカー協会主導で「IFA障がい者サッカーミーティング」を、既に年に数回実施してる。そこでは県内4つの障がい者サッカー団体やJクラブが集い、既に連携が取れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい福祉課の方なども交えながらという話も出たので、障がい者サッカーやサッカーに限らず連携が取れている状況。
グループ3（新潟県、富山県、福井県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
アンプティサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北信越にはまだチームがなく、活動のきっかけもない状況。 ・4年ほど前には石川県で、石川県障害者スポーツ協会と金沢星稜大学と一緒に2度ほど体験会を実施。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織がないため、周知・選手発掘が困難。体験会等を行っても選手の対象となる人がいない。体験会よりも試合実施によりメディアを通じて見てもらえるほうが繋がる印象。 ・労災病院にあるリハビリセンターや、義肢装具士関係を巡回したがアンプティサッカーの選手たちは障がい者同士のつながりがほとんどなく、選手発掘には至らない。

	<p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各県にあるJクラブのホームゲームの際に、アンプティサッカーを見てもらえる機会を設けてほしい。
CPサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域での普及活動、大会実施や繋がりはない状態。 ・富山県では20年前ぐらいから毎年5月ごろに「アミザーデサッカー大会」が開催されていた。
ソーシャルフットボール 日本協会	<p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北信越地域はまだまだ受け皿が少ない状況。 ・全国大会でのブロック分けは甲信越・北陸ブロックになるが、現状、山梨と長野県の混成チーム、選抜チームという形。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各県にあるJクラブや県サッカー協会の協力をいただきたい。
電動車椅子サッカー 日本協会 フェニックス福井	<p>フェニックス福井)</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「金沢ベストブラザーズ」に所属している選手の中から、福井県でも普及のため同好会のような形で活動している状況。 ・選手は4人いるが、それ以上集まらないため、日本協会のチーム登録に至っていない。 ・関西のチームとも合同練習をしている。 <p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年ほど前から福井県サッカー協会と福井ユナイテッドと一緒に交流大会を開催。
ブラインドサッカー 新潟県ブラインドサッカー協会 新潟フェニックスファイヤーズ	<p>新潟フェニックスファイヤーズ)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、県内の一般小・中学校に、総合学習の授業の一環として体験授業等で体験会を実施（コロナ禍では中止）。 ・2020年は、JAPANサッカーカレッジ高等部から「共生」というテーマでブラインドサッカーを体験したいという新しいオファーがあった。 ・一昨年、アルビレックス新潟のホームゲームの中でスポーツ縁日ということで体験コーナーを設けてもらい、200名ほどに体験してもらった。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域リーグでは現状、北日本リーグ（北海道、仙台、新潟）に入っている。ツェーゲン金沢BFCが立ち上がったため「北信越リーグ」の立ち上げ条件（地域に3チーム存在すること）を満たし、北信越リーグを成立させたい。
デフサッカー／ デフフットサル 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新潟県で活動しているチームがある。 ・福井県にチームはないが、代表選手が活動している。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活上の都合で高校卒業後、地方から大都市へ出ていく若者が多く、競技人口が都市部に偏る傾向がある。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の社会福祉協議会に障害者基幹相談支援センターがあり、そこに障がい者の色々な相談が集まるため、連携することで選手発掘にも繋がれるのではないかと。

<p>Jリーグクラブ アルビレックス新潟 カタレ富山</p>	<p>アルビレックス新潟) ■活動状況 ・2019年度に行った新潟のパラサッカーフェスティバル開催1カ月ほど前には、デフの方や、知的障がいの方も来てもらい、一緒にウォーキングサッカーを実施した。同時に案内、チラシ配布も行った。 ■今後に向けて ・ホームゲームの前にイベントとしてフットボールパーク、誰でもサッカーができるスペースがあるため、そこでアンプティサッカーの体験会などを実施することは可能。</p> <p>カタレ富山) ■活動状況 ・県から委託を受けて、障がい者支援や児童福祉施設等からホームゲーム招待など行なっている。</p>
<p>都道府県サッカー協会 福井県サッカー協会 富山県サッカー協会 新潟県サッカー協会</p>	<p>福井県サッカー協会) ■活動状況 ・今年度、グラスルーツ委員会を立ち上げた。 県協会、電動車椅子、知的障がい者サッカー、デフフットサル元代表選手、しあわせ福井スポーツ協会と共に進めていく。 ・2020年度に一同に集まれるよう予算も含め計画したが、コロナの影響で断念。また春以降に進めていきたい。 ・2019年12月にツエーゲン金沢と協働でU-12対象のブラインドサッカー体験会を実施したところ、100名ぐらいの参加者が集まった。 ・2019年には電動車椅子サッカーチーム・フェニックス福井、県協会、社会人チーム・福井ユナイテッドと一緒に交流大会を実施した。 ・「スペシャルオリンピックス福井」も3年継続しているため、今後も連携していきたい。</p> <p>富山県サッカー協会) ■活動状況 ・体験会等のイベントがまったく開催できていない。 ■今後に向けて ・ウォーキングサッカーで裾野を広げられるよう進めていければと考えている。</p> <p>新潟県サッカー協会) ■活動状況 ・アルビレックス新潟、各障がい者サッカーチームの協力を得て、パラサッカーフェスティバルを開催している。 ・それに向け、毎月会議を開いている。2019年度は全日本U-12サッカー選手権大会と併催で行なった。</p>
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの県も総じてなかなか選手の発掘は難しい。競技自体が知られていないことが大きく、カテゴリーによっては体験会を開催しているが、なかなか当事者に行き着かない。 ・フェスティバルなどを開催しようという意向もあったが、コロナ禍で断念せざるを得なかった。 ・普及のため、特に影響力のあるJリーグクラブや都道府県サ

	<p>サッカー協会については、大会やイベントで、7つの競技や障がい者のサッカーについて発信をしてもらいたいという話が出た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手の発掘については、自治体の社会福祉協議会に障がい者基幹相談支援センターというのがあり、そこに障がい者の色々な相談が集まるため、連携するという提案もあった。 ・カテゴリーごとの場をつくっていくのは難しいので、ウォーキングフットボール等を活用し、まぜこぜの場の中で色々な競技を知ってもらうことで対象の人を巻き込んでいくような場づくりをしていきたい意向。 ・JFA指導者養成のリフレッシュ研修会の中で障がい者サッカー指導コースの開催を各県サッカー協会にお願いした。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福井県サッカー協会にはグラスルーツ委員会があり、富山県サッカー協会にも同様の委員会が新設されたため、各7競技団体からやる気のある人や関連する人を紹介し、横の連携を深め、今後定期的な話し合いの場が持てるように取り組んでいく。



③参加者の声

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回初めて参加させていただきました。他の競技の事例を共有していただき学びを得ることができました。 ・アンパティサッカーの発展につながるようなディスカッションができたため <p>■満足 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各県の普及の進捗状況が確認できたこと、今後の普及活動を頑張ろうという意識づけになったから。 ・各都道府県サッカー協会、障がい者7競技団体、Jクラブが意見交換できる場となり良かった。 ・今後の指針も見え、かなり有意義な時間であった。
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体や地域ごとの取り組みや課題を聞くことが出来て良かったです。 ・グループ・ディスカッションで手応えを感じた ・グループディスカッションで3グループに分かれた後、それぞれのグループ内で密な話し合いが持てた一方で、他のグループの方々との交流は限られたものだった為4とさせていただきます。 <p>■普通 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幣協会として開催地域での取り組みが不十分なため、活発な意見交換へと繋げられなかったのが今後の期待も含めました。 ・コロナ禍の中で、今年はほとんど前に進むことができていなくて、残念で申し訳ない。しかし、私以外にも2人参加してもらって、話を聞いてもらったことは良かった。 ・協会として参加させていただいたので、後半のディスカッションのパートで、他の県の状況も知りたかった。 ・オンライン会議に慣れていなくて半分は何を言ってるのか分からない部分があった。 <p>■不満 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の参加者が無くて残念でした。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・今回初めて参加させていただき、集まった皆さんの熱量、JIFFの皆さんのお仕事振りに深く尊敬の念を抱きました。本当にいつもありがとうございます。今回は各県の集まりのきっかけ作りとありましたが、石川県はすでに集まる機会を作り、すでに何度もミーティングを実施してまいりました。JIFFがねらっていたところと石川県の現状がもしかしたらマッチしなかったかもではありますが、改めてこのような機会を設けていただいたことで、石川県の現状をJIFFのみなさんに知っていただく機会になってよかったかなと思います。また石川県ではパラサッカーフェスティバルが開催されましたが、本当に「グラスルーツとはなにか?」「なぜ普及が必要なのか?」そういった根幹となる部分を考えるきっかけになりました。本当にありがとうございました。 ・皆さんの今の思いを聞いて良かったかな?と思います。 ・参加資格の部分で門戸が広いのは良いと思いますが、嫌々参加している人もいたようです。その辺もなんとかしたほうが良いのではないのでしょうか ・グループ討議も、エリアが広過ぎた感がありました。 ・zoomでの会議は始めてでしたが、ファシリテーターの方が会議を有意義な仕方で行われるように進行してくださったので有難かったです。 ・来年度は可能であれば、任意で他地域の会議も見学できたらいいなと思います。 ・できればオフラインで集合したいですね。 ・オンラインでの実施に対し、よく配慮して頂けていたと感じました。 ・Zoomでできることもいいことだが、まだ慣れていないということもあるのか、自由に会話して、いろいろな話を聞きたい気持ちがある。 ・松本山雅さんなどの事例を共有いただき、大変参考となりました。ありがとうございました。
来年の参加希望	<ul style="list-style-type: none"> ■参加したい 10名 ■参加したくない 0名 ■どちらでもない 3名

<p>今後同様の会議を実施する場合の単位</p>	<p>■実施単位 9地域ごと 8名 都道府県ごと 2名 どちらも 3名</p> <p>■どちらも</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の地域の単位で問題ないと思います。もし可能ならばですが、同じような境遇にある団体等のミーティング等もあったらいいなと思います。 ・今回はあまり活動できていない県で集まったが、活発に活動できている中にヒントもあるかもしれないので、そういう事例も聞きたい。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・FA関係者もいらっしゃるので仕方ないが、本業を抱えているので18：00スタートは少々厳しい。19：30などもうすこし遅い時間のスタートを希望します。 ・①時間がなく、お話しできませんでしたが、障がい者サッカー指導者講習会などぜひありましたら参加したいです。この件についてもっと詳しく知りたいなと思いました。 ・選手や地域の声を一度、JIFFの方に相談する機会を可能ならば設けていただきたい。 ・上記の通り、他県の様子が分かればより良かった。 ・グループ構成が整理されており非常に良かった ・JIFFとして、もっと都道府県協会へ働きかけをして頂きたいです。

(7) 東海

①会議概要

開催日時	2020年12月7日(月) 会議 18:00~20:00
開催方法	オンライン (Zoom)
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 20分 地域内の新規事例共有 7競技団体の地域内での状況や展望の共有 4. グループディスカッション 65分 5. ディスカッション概要共有、写真撮影 10分
参加人数(実数)*	39名

*参加者属性：

組織別人数(重複あり)

JFA	2名
9地域サッカー協会	1名
都道府県サッカー協会	4名
Jリーグクラブ	8名
Jリーグ百年構想クラブ	1名
その他サッカー関連団体	1名
アンプティサッカー	2名
CPサッカー	4名
ソーシャルフットボール	2名
知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル	2名
電動車椅子サッカー	5名
ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル	2名
デフサッカー/ デフフットサル	2名
その他障がい者サッカー 関連団体	1名
JIFF	4名
合計	41名

部門別人数

役員・管理職	15名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	9名
管理部門	7名
強化・指導者	5名
選手	3名
合計	39名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
静岡県サッカー協会	パラフットボールフェスティバルをJクラブ(清水エスパルス、ジュビロ磐田、アスクラロ沼津、藤枝MYFC)と共催、運営。
ジュビロ磐田	特別支援学校定期リーグ戦の開催協力(今年度中止)。
アスクラロ沼津	11月、12月にCPサッカー体験会の開催。
藤枝MYFC	パラフットボール体験会の開催(2020年2月)
愛知県サッカー協会	■連絡会議を開催 昨年度に引き続き愛知県内の障がい者サッカー団体・チームと連絡会議を開催。(コロナの影響で開始時期が遅れてしまった)

	<p>が、8月末に今年度第1回目を現地・オンライン併用にて開催。)</p> <p>■「だれでもサッカー広場」を開催（10月）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 「ウォーキングサッカー」体験会 - ボールパーク（キックスピード測定会、フットゴルフ等） - 「障害者サッカー」ふれあい広場 - 体験会（ブラインドサッカー、CPサッカー） - 交流試合（聴覚障害、精神障害、シニア、シニアジュニア、女子） - 紹介、交流ゾーン（デフ・ソーシャル・義足アスリートとの懇談会） - トークセッション「スポーツで広がる！他者への理解」 <div style="text-align: center;">  </div>
--	--

7競技団体の地域内での状況や展望の共有	
アンプティサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健常者チームのアンプティサッカー部門新設支援。 ・ 静岡での東日本リーグ戦の実施（2020年度は中止）。 ・ 日本選手権の代替大会として「セルジオカップチャレンジマッチ（仮）」を関東で開催。静岡のチームも参加予定。
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岐阜県で毎年秋に全日本選手権大会を開催（2020年度は中止） ・ サッカー活動を希望する脳性麻痺の方たちが出てきたときに、参加できる、サッカーができる環境（受け入れてもらえるチームや教室等）が整えられるよう連携や情報共有ができる体制をつくりたい。
ソーシャルフットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東海大会（兼全国大会予選）を全国大会にあわせて実施。（今年度は未実施。静岡・愛知・三重・岐阜で東海大会を行い、一巡。地域選抜大会などを含めて東海地区での繋がりもできてきている） ・ 大会運営のサポート（会場確保、大会広報、審判団の派遣等）をお願いしたい。
知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年静岡県藤枝市で「もうひとつの高校選手権」開催 ・ 東海リーグ戦実施 ・ 東海トレセン実施（2020年は未実施） ・ 女子サッカートレセン（練習会）実施（2020年は未実施）
電動車椅子サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年度に日本電動車椅子サッカー選手権（MAX10/車椅子制限速度10km/h）を東海地域内で計画中

	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛中のため、活動再開後、連携をしていきたい。
ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル	2021年度に静岡県浜松市と連携し、大会実施の可能性がある。
デフサッカー／デフフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・安城市 市民リーグへの参加。 ・地元地域の健聴者で構成されるフットボールクラブ（羅針盤倶楽部NAGOYA）との連携。 ・県内実施の指導者養成講習会及び、審判員認定講習会における手話通訳者の配置についてご検討いただきたい。
グループディスカッション	
グループ1（静岡県）	
（1）状況・課題・要望の共有	
アンパティサッカー ガネーシャ静岡AFC	<p>ガネーシャ静岡AFC)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手はフィールドが13名、キーパーが3～4名ほど在籍。 ・アグレミーナ浜松とのウォーキングサッカー開催や、愛知県のテラスポ鶴舞での「だれでもサッカー広場」に参加している。 <p>静岡県サッカー協会より)</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年、エコパスタジアムで決勝を行う「2020年度NTT西日本グループカップ第53回静岡県U-12サッカー大会 静岡県大会」ではガネーシャ静岡AFCが15分ハーフの前座試合を行う。これを年に1、2回他のチームでも継続して実施していきたい。
CPサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状、県内にチームはない。 ・新規でアスクラロ沼津で立ち上がったスクールが活動中。 ・選手数は少なく、活動場所が限られているため新規の選手発掘が難しい。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPの選手だけでチームを組むのは難しく、他の障がい者サッカーチーム等でも受け入れ環境があるとよい。 ・障がい特性として障がいの程度が幅広いことがネックになっている。2019年より神奈川県のエスペランサではフレームフットボールを始めた。貸し出しも可能なので、活用していくのも良いのでは。
ソーシャルフットボール 静岡県サッカー協会より	<p>静岡県サッカー協会より)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内で浜松が拠点に2チームが活動中。 ・清水エスパルスが全国のチームを対象に開催している「ハートフルカップ」というフェスティバルには全国の病院関係のチームが集う。 <p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールはフットサルと大きく変わらず体育館で練習や大会を行っているため、アグレミーナ浜松には協力いただきたい。 ・県内東部ではソーシャルフットボールの動きがまだないので、アスクラロ沼津でも検討してもらいたい。
知的障がい者サッカー／	静岡県サッカー協会より)

<p>知的障がい者フットサル 静岡県サッカー協会より</p>	<p>■活動状況 ・知的障がい者サッカーのチームは比較的多いが、小学生年代はほとんどない（鈴岡、富士、沼津のみ）。</p> <p>■今後に向けて ・他の障がいも一緒にプレーできる場を整えていくために連携を進めていきたい。 ・体験会はできていないが、知的障がいの放課後デイサービスは多い。 ・現在知的障がい者サッカーで常時活動している競技者が600名ほどいるため卒業生が指導者として出向くのが良さそう。</p>
<p>電動車椅子サッカー SFCデルティーズ</p>	<p>SFCデルティーズ) ■活動状況 ・選手は6～7人在籍。 ・基本的に毎週土日のどちらかで静岡市・浜松市・袋井市の3カ所で練習を実施。</p>
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 静岡県サッカー協会より</p>	<p>静岡県サッカー協会より) ■活動状況 ・静岡県サッカー協会（静岡県知的障がい者サッカー連盟）を中心としてブラインドサッカーチーム「FCコレチーボ静岡」が立ち上がった。</p>
<p>デフサッカー／ デフフットサル 静岡県サッカー協会より （チームなし）</p>	<p>静岡県サッカー協会より) ■活動状況 ・県内にチームはないが、元日本代表選手や現在女子日本代表選手に静岡県出身者がいる。 ■今後に向けて ・選手には講演会などは受けてもらえる状況なので、希望があれば可能。</p>
<p>Jリーグクラブ 清水エスパルス ジュビロ磐田 アスルクラロ沼津 藤枝MYFC</p>	<p>清水エスパルス) ■活動状況 ・2007年より知的障がい者サッカーチームにコーチを派遣している。4月以降は実施できていなかったが、静岡は9月から月2回コーチの派遣再開。9月から富士でも実施している。ソーシャルがメインでクラブの施設に来てもらっているが、スタッフが医療従事者のためキャンセルしている。 ・静岡県サッカー協会と連携しながら、放課後デイサービスでの活動もしている。 ■今後に向けて ・県内の連携会議については、例年行っているフェスティバルの後に反省会を兼ねて集まる形が良いのでは。</p> <p>ジュビロ磐田) ■活動状況 ・特別支援学校の巡回指導を実施しているが、コロナ禍ではほぼできていない。 ■今後に向けて ・ホームゲーム時のPRなどは協力していきたい。 ・障がい者サッカーチームで行っているオンライン会議にはぜひ参加していきたい。</p> <p>アスルクラロ沼津) ■活動状況</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・2003年より発達障がい、自閉症サッカースクールを立ち上げた。 ・新しくCPサッカースクールも立ち上げることになり、2021年1月から月2回実施予定。 <ul style="list-style-type: none"> - 立ち上げにあたり、エスペランサ（神奈川県ของทีม）へ視察に行った。 - 立ち上げについて新聞に取り上げられたことで、大人のニーズがあることもわかった。今後中学生以上のチームを立ち上げ、日本CPサッカー協会の登録まで進めていきたい。 - 2019年より県内東部の特別支援学校での巡回指導を行っており、そこで選手の発掘もできている。 - 今度車椅子が必要な子どもが参加するので方法について検討中。 ・3～4年前にスクールの子どもの対象にアンプティサッカーの体験会を実施。 →子どもたちにとってとても良い経験になったことを実感したため、他のクラブでも同様の活動ができると良いのでは。 <p>藤枝MYFC) ■活動状況 ・2020年2月に初めて障がい者サッカーフェスティバルを実施できた。 ■今後に向けて ・クラブとして地域のニーズに応える方法を模索中。今年から育成や普及のスタッフが少しずつ増え始めたため、今後積極的に動いていきたい。 ・ホームゲーム時のPRなどは協力していきたい。</p>
Fリーグクラブ アグレミーナ浜松	アグレミーナ浜松) ■活動状況 ・2か月に1回、まぜこぜウォーキングサッカーをSFCデルティーズ、ガネーシャ静岡AFCと一緒に開催している。健常の方も子どもから大人まで、親子参加などで集まっている。メイン拠点は浜松アリーナ。 ・指導役として、コーチや選手の派遣要望があれば可能。 ・県内の会議に関しては、ぜひ積極的に参加していきたい。 ・ハブとなるプラットフォームのようなものがあれば、情報共有や依頼、質問等がスムーズに行えると思う。 ■課題 ・まぜこぜウォーキングサッカーはここ2年続けているが、参加者が固定されてきているため、今後の広がりが課題。
都道府県サッカー協会 静岡県サッカー協会 兼静岡県知的障がい者サッカー連盟	■活動状況 ・静岡では各地でJクラブの協力を得て障がい者サッカーフェスティバルを開催している。 ・2019年度は藤枝MYFCと知的障がい者サッカーの「もうひとつの高校選手権」を開催したが、2020年度は中止。 ・県内の学校やサッカーチームでアンプティサッカーやブラインドサッカー、電動車椅子サッカーの体験会を各チームと実施している。今後は静岡県サッカー協会でもJクラブを回り体験会など実施していきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・アスルクラロ沼津では、3年前にガネーシャ静岡が試合前にPRをさせてもらえたり、清水エスパルスでは電動車椅子サッカーが試合前にパフォーマンスをやらせてもらった。 ■今後に向けて、要望 ・今後、ジュビロ磐田や藤枝MYFC、アグレミーナ浜松でもパフォーマンス等検討してもらいたい。 ・静岡県では障がい者サッカーチームの間でオンライン会議を行っている。今後は、Jクラブなどにも参加してもらいたい。 ・（本会議での）清水エスパルスからの提案通り、各地区で大きなイベントや障がい者サッカー教室などがある際に情報交換の場を設けていきたい。
JFA	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年11月に、J-STEPでJFA有資格指導者向けリフレッシュ研修会障がい者サッカー指導コースを開催した。清水エスパルス、ガネーシャ静岡AFCの協力を得た。
(2) ディスカッションまとめ	
テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・普及において体験会や講演会はとても有効なので広げていきたい。今後は学校や自治体だけでなく各クラブの巡回も実施していく予定。 ・新しくCPサッカーが沼津でも始まったが、他地域での受け入れ環境は整えられていない。既存の他の障がい者サッカーチームでも受け入れながら活動していけないか検討した。 ・以前アスルクラロ沼津にアンプティサッカーのPRで協力してもらったように、今後各クラブで試合前のPRなどを検討してもらおう。
テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと障がい者サッカーチーム同士のネットワークがありZoomで会議を行っている。 ・今後はよりオープンな場にしてJクラブや関係者に入ってもらいいただくことも可能。 ・例年実施しているフェスティバルでは各競技オリジナルのことを実施しているためその場を視察し、その後Jクラブが集まって実際に顔を合わせて話をすることを検討した。 ・新しい試みとして、来年から年1回ほど現場を回りながら年ごとにメインのクラブを変える形で話し合いの場を設けていきたい。
グループ2（愛知県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ■活動状況 ・愛知県にチームがなく、岐阜県にあるチームに1時間以上かけて通っている。 ・普及活動、広報活動など行なっているが、なかなか選手発掘に繋がらない。
ソーシャルフットボール 愛知県精神障害者スポーツ連盟	<ul style="list-style-type: none"> ■活動状況 ・県内では11チームが活動。 ・名古屋オーシャンズの協力を得て大会を開催しており、今年で8年目。 ・年間を通じてリーグ戦も実施している。 ・チームには医療従事者が多いが、会場確保も含めてどのチームも活動再開できている。
知的障がい者サッカー／	<ul style="list-style-type: none"> ■活動状況

<p>知的障がい者フットサル 日本知的障がい者サッカー連盟 愛知県知的障がい者サッカー連盟</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東海リーグ戦、各県の選抜のリーグ戦は中止。 ・東海トレセン、女子サッカートレセンも中止。 ・毎年、8月に静岡で全国のクラブチームの交流大会が開催されているが今年は中止。 ・岐阜県で地域リーグのチャンピオンチーム同士が争うチャンピオンシップ大会来年3月に開催予定だが、現在検討中。
<p>電動車椅子サッカー 愛知県電動車椅子サッカー協会 DKFBCディスカバリー</p>	<p>愛知県電動車椅子サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県内にあるのは、1チームのみ。 ・愛知県電動車椅子サッカー協会では相手チームをつくることを目標に活動しており、高額な電動車椅子を貸し出せるよう準備中。 ・地元の大学と連携し健常者によるチーム設立をはたらきかけている。 <p>DKFBCディスカバリー)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが6月以降月2回程度練習はできている。石川県で3チーム対抗の試合も行なった。 ・他のスポーツも活動が再開し、体育館の確保が難しくなっている。
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル Mix Sense 名古屋</p>	<p>Mix Sense 名古屋)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本ブラインドサッカー協会主催の大会2020カップは、人数が集まらず出場ができなかった。 ・チームとしては9月から活動を再開し月2回程度練習をしているが、集まるのは2～3名。 ・地元大学生向けに普及活動を行い、選手とスタッフ獲得の取り組みを行なっている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度、静岡県浜松市と連携した大会実施の可能性がある。浜松市はパラリンピックで5人制サッカーブラジル代表のホストタウンとなっている。
<p>デフサッカー／ デフフットサル DEAF鯨</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元地域の健聴者で構成される羅針盤倶楽部NAGOYAと連携し活動を行なっている。 ・安城市の市民リーグへ参加をしている。
<p>Jリーグクラブ 名古屋グランパス</p>	<p>名古屋グランパス)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「誰でもサッカー広場」では「愛知フットボールフレンズ」として協力した。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーの活動には単発で終わらないよう、ぜひ協力していきたい。 ・ホームゲームでの周知・PR、練習会場の確保等、可能な範囲で協力していきたい。 ・必要なことがあればぜひ連絡をいただきたい。
<p>関連団体 リコプエンテ</p>	<p>■活動状況</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・健常者向け、障がい児（主に知的障がい）向けのスクール運営などを行っており、元アスリートを雇用しセカンドキャリア支援も行なっている。 ・既に県内の障がい者サッカーチームとも連携できている。 ・運営するフットサルコートではブラインドサッカーチームが活動するなどしている。スタッフもボランティアとして現場での活動をしている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障がいのキッズで運動能力が高くない子どもたちを対象とするスクールなども今後検討していく。
都道府県サッカー協会 愛知県サッカー協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は県内の障がい者サッカーチームが集まり連絡会議を定期的に行なっている。 ・将来的には障がい者サッカー委員会へ昇格をさせていきたいと考えているが、まずは仲間づくりが大切と考えており、今のかたちを継続していく。
(2) ディスカッションまとめ	
テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・既に連絡会議という形で、障がい者サッカー関係者が集まって会議を実施している。最初は情報・課題の共有から始まり、現在は毎年行っている「だれでもサッカー広場」での連携などの話もするようになった。 ・愛知県サッカー協会や障がい者サッカーチーム、名古屋グランパスともイベントで既に連携している。名古屋グランパスには今後連携会議への参加を検討してもらった。
テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する	<p>連絡会議自体は現在は一会議体だが、今後は愛知県サッカー協会の中で障がい者サッカー委員会への昇格（組織化）も検討している。</p>
グループ3（三重県、岐阜県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
アンパティサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海では静岡に1チームのみ。 <p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの地域にチームがなくても体験会を実施することは可能なため、ご連絡いただきたい。
CPサッカー 日本協会 FCプログレッソ	<p>日本協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県に1チーム。 ・三重県の選手2名が大阪府のチームに所属し活動している。 <p>FCプログレッソ)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県サッカー協会とタイアップしてやっているのがここ2、3年続いている内容です。 ・チーム独自のイベントとして、毎年2月にミックスサッカーフェスティバルを開催している。 <ul style="list-style-type: none"> - 2019年度は2月に実施し、2020年度は3月に予定している。 - 従来はゲーム中心で岐阜地区の1カ所開催だった。 - 2020年度は啓蒙のため体験会に軸足を置き、西濃、岐阜、東濃の3カ所での開催を模索中。

	<ul style="list-style-type: none"> ・現在チームには小学生からも問い合わせがきている。
<p>ソーシャルフットボール 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県、岐阜県で1チームずつ活動中。 ・岐阜県のチームは愛知県と近いので交流があり、活動を継続できている。 ・県サッカー協会には大会時の審判派遣等で協力を得ている。 <p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年頃からアリーナを借りるのが難しくなっており、Fリーグクラブにも協力が得られると活動しやすいのではないかと。
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県と岐阜県に1チームずつある。 ・コロナ禍で活動ができていない状況。 ・2021年には愛知県か静岡県で大会が開催できないか検討中。 <p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FC岐阜県にはこれまで12回ぐらいWingsと交流会を開催いただいた。コロナ禍では現場に直接参加できない選手もいるので、Zoomなど活用しリモートで参加できるようにしてほしい。
<p>ブラインドサッカー/ ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県に「ミカーレ岐阜」というチームが立ち上がっているが現状協会には未登録。 ミカーレ岐阜は選手やスタッフの人材確保に難航している。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県ではまだ活動やチームがないが、ミカーレ岐阜やMix Sense 名古屋に依頼すれば体験会は行えるので声をかけてほしい。
<p>デフサッカー/ デフフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国を各4地域に分けブロック協会が設置されており、三重県や岐阜県は西日本ろう者サッカー協会が管轄している。 ・西日本ろう者サッカー協会が主催し、例年フットサル大会やイベントを実施してきたが、昨今の人手・資金不足により数年前から運営が滞っている。 ・開催されていた頃はFリーグ名古屋オーシャンズのサテライトチームにも参加してもらったり、デフサッカー日本代表チームと交流戦を行うなど盛んに活動していた。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技人口は少ないが健常者のチームに混ざって県リーグのレベルでプレーしている個人選手が三重県、岐阜県にもいる。周りにデフの選手や情報があれば連絡してほしい。
<p>Jリーグクラブ FC岐阜</p>	<p>FC岐阜)</p> <p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動車椅子サッカーチームWingsとの交流を12年続けている。今年は13年目だったが、コロナで中止。 ・2017年頃からは、CPサッカーからお声がけいただき「障がい者サッカーフェスティバル」で協働している。より多くの人を集めて様々な障がいのある人がスポーツをできる場にしていきたい。 ・ブラインドサッカーチームのミカーレ岐阜ともショッピングセンター等で「福祉×スポーツ」の文脈でコラボイベントを実

	<p>施。ホームゲームの際は、ブラインドサッカー体験コーナーを芝生広場で開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校やスポンサーと協力しサッカークリニックを開催している。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場をつくるなど、Jクラブを使ってもらおうというのはJリーグ全体で進めている社会連携活動にあたる。 ・広報の面では、連携することでメディアに取り上げてもらう機会になるので、ぜひ声がけしてほしい。 ・電動車椅子サッカーの交流や、ブラインドサッカーの人材確保などの課題点もぜひ相談してもらいたい。
<p>Jリーグ百年構想クラブ ヴィアティン三重</p>	<p>ヴィアティン三重)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百年構想クラブの承認を受けてから今後地域に対してどう貢献をしていくかを検討している段階。 ・選手OBでアカデミー外部コーチと特別支援学校の教員を兼務している者がおり、2018年よりクラブの選手・スタッフがサッカー教室を実施する取り組みをしている。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県サッカー協会が主導権を握った上で、Jリーグ、百年構想クラブ等とのタイアップをしていけば、人、場所、資金が潤いチームになってくるのではないかと。
<p>地域および都道府県サッカー協会 東海サッカー協会 三重県サッカー協会 岐阜県サッカー協会</p>	<p>東海サッカー協会)</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報における連携については、協会としても取り組んでいかなければならないと捉えている。テレビ局や新聞社に情報提供はできると思うので情報をまとめていきたい。 ・ホームページで障がい者サッカーのページをつくる、バナーを貼る、ニュースを掲載するなどから始めていきたい。 <p>三重県サッカー協会／三重県ハンディキャップサッカー連盟)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットボールデーはキッズも含め、知的障がい者サッカーを実施している。2020年はコロナのため開催できなかった。 ・外で試合ができるようになったタイミングで講師を招き、他県の知的障がい者サッカーチームを招待してクリニックを行い、交流試合も開催した。 ・三重県ハンディキャップサッカー連盟は県サッカー協会内の委員会としてではなく、外づきの団体という形で活動している。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーという括りでの会議体はまだないので、県の障がい者スポーツ協会を巻き込みながら進めていきたい。 <p>岐阜県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会内に障がい者サッカー等の委員会がまだ確立されていないため、事業委員会の一部として進めている。 ・障がい者サッカーに関する情報や理解が足りていない。 ・審判委員会は毎年CPサッカーの全日本選手権のサポートをしている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・主な活動としては2017年から日本CPサッカー協会、FCプログレッションを中心に連携を図り、サッカークリニックの体験会や交流戦を進めている。 ・2018年度からはFC岐阜の協力を得ながら、サッカークリニックなどを実施している。今年度の開催については検討中。
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーチームも少なく、継続的な活動に結びついていけないのが課題であることがわかった。 ・特に三重県サッカー協会や岐阜県サッカー協会については、まだまだあまり活動ができていない状況。 ・まずは各障がい者サッカーチームやJクラブが繋がり、協力して情報発信することから始める。 ・フェスティバルやフットボールデーでは、今日のメンバーが中心となりプラスアルファの活動を検討していく。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県サッカー協会の中で担当者だけではなかなか進まない部分は、7競技団体から人材を推薦してもらったり、チームの関係者に関わってもらうなど外部の人材をうまく巻き込んでいくことで活動につなげていくことができるのではないかという話になった。



③参加者の声

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 7名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他クラブのさまざまな情報をうかがうことができた。 ・様々な新しい話を聞くことができた。 ・各地域、各団体の活動が知れただけでなく、課題への取り組みの参考にもなった。 ・いろいろな活動や取り組みなど共有でき、自分なりに今後のめどが見えてきたため ・関連のある方達とのつながり ・普段交流を図れていない方たちと出会う場にもなったため。 ・様々な意見が飛び交い、現在の状態や今後についての話し合いが出来ました。 <p>■満足 13名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繋がりが大きい ・初めての参加ではありましたが、皆様からのお話で障がい者サッカーの現状を勉強することができました。 ・現地FAの方とのコミュニケーションをとるきっかけができたため。 ・各団体の生の声を聞いたのが良かったです。 ・具体的な議論までには至れないものの、昨年度よりも多くの方々とお会いできたことは何よりも良かったことだと感じております。
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんのお話は、興味深い。 ・今回は、初参加でした。私は電動車椅子サッカーをしておりますが、他の障害者サッカー団体との関わりがなかったので、皆さんからのお話がとても新鮮でした。電動車椅子サッカーは他の障害者サッカーとは違い、体育館の中で、電動車椅子に乗って競技を行いますので、抱える課題が異なるのでは？と考えておりました。しかし、人員不足や場所の確保が困難な点など共通する課題が多いということが分かりました。競技が違えど、今回のような会議から発展していき、横のつながりを創出しつつ、お互いをサポートしあえる環境が整っていくと良いと思いました。 ・初めて参加しました。いろいろな方々と連携できると思います。 ・障がい者サッカーの活動を知る事が出来た ・参加された方々の実情や様々な取り組み、また、抱えている問題点を共有することができたため。 ・参加者の皆さんの活躍・ご苦勞、実態を知ることができた。 ・いろんなことを知ることができた ・現在の、地域における状況を知ることが出来た。 <p>■普通 10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見発表ができたから ・障がい者サッカー、色々な活動をインプットすることが出来た。 ・各都道府県協会やJクラブの関係者と顔合わせができたことはよかった。 ・zoomでは話す人が限られてしまう。 ・初参加で、現状を知る良いきっかけとなった ・ディスカッションでもう少し、時間が欲しかったかなあ？と思います。 ・愛知県事例発表に関してはよかったと思います。もう少し突っ込んだ議論がしたかった。 ・グループでの話し合いでも内容が濃く、ついていくので精一杯だったが進行役のかたが上手くまとめてくれました。 ・情報共有・課題認識の度合いがまちまちなので、何かの解決に向けた話し合いにたどり着くまでに終わってしまう。しかし、積み重ねは必要なのでそのきっかけにはなる。 ・現在の活動状況だったり、何に困っているか等聞くことができたので協力できることはしていきたいなと思いました。オンラインで交流を深めたりできることは沢山あるのかなと思いました。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの進行によりスムーズな会議でした ・このような会を企画していただき、繋がりができて連携しやすくなりました ・コロナの影響含め様々な課題がある中で、このような会議で情報共有や施策を共有できることは有意義だと感じました。 ・あらためて、各県でのコミュニケーションの連携が必要と感じました。 ・障がい者サッカーそれぞれの協会についてよくわかった。 ・普段なかなか意見交換する機会が得られないので貴重な機会になりました。 ・良い刺激になりました。有意義な時間でした。 ・この会議を通して、次、どう展開していくのが気になりました。 ・今回初めて参加をさせていただきましたが、せっかくの各都道府県FAやJクラブとの顔合わせの機会であったため、具体的な案としてJFAの要望を整理しておくべきであったと反省しております。また会議全体とし

	<p>ては、今後各障がい者サッカー団体とそれぞれの地域やJクラブがコネク トしやすい仕組みづくりを考えていく必要があると感じました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県だけでなく、他県の取り組みを知れてよかったです。具体的に何をするかまで落とし込めませんでしたでしたがせつかく、会議でつないで いただいたので同じ県で活動している方と協力して盛り上げていきたい なと思いました。ありがとうございました！ ・他協議の活動を知る事が出来ました。 ・Web会議でのメリットとデメリットを感じました。 ・リモートではあったが円滑だったと思います。会議時間もちょうどよ い長さだった。 ・各クラブ、地域の活動に比べ静岡県西部地域は出遅れてる感があつ た。同じ西部地域にあるアグレミーナさんは積極的に進めているので参 加させていただき連携を深めていきたい。 ・実情を聞いていきますと何かしら行動を起こさなければと思ってしま います。現状、「行動しろ」と「手が回らない」との葛藤・苦しみがは じまります。 ・リモートが初めてで戸惑いました ・グループディスカッションの時間がもう少し欲しかったです、各団 体やFAの現状を知ることができ有意義な時間でした。 ・公務の関係で、遅れての参加になり申し訳ありませんでした。今度、 障がい者サッカーをどのようにすすめていけば良いのかを、あらためて 考えさせていただきました。他のカテゴリーの方々を含め、一般の方々 との接点並びに交流をどのようにすすめていくのか考えて、実行にうつ すことの大切さを感じました。 ・貴重な会議に参加できたことを嬉しく思います。また地域（都道府 県）事にも行うことで、詳細なども傾聴できると思います。 ・今後も障がい者サッカーの普及を、お互いに協力していきたい前向き な気持ちをもってくださっていると感じ、うれしく思いました。 ・ディスカッションの時間を多く取っていただきたい。 ・時間配分は良かったと思った ・Zoomで行うことで、都合がつきやすく、参加しやすかったと思いま す。 ・少し時間的にタイトな感じがしました。 ・手話通訳者を見たり、字幕を見たり、忙しくてオンライン会議が難し かった ・会議のファシリテーションはよかったと思います。ご参加される方の 背景が分からないまま始まるのは、少しやりにくいと感じました。プロ フィール、というよりも、「なぜ障がい者サッカーに関わろうとしたの か、関わることになったきっかけ」といった情報が事前に共有されると よいかと思いました。あるいはその共有のための茶話会的なものを、 この機会に企画するのもよいかと思いました。 ・進行やところどころでの配慮など、会を追うごとに進化を遂げている と感じます。 ・全国、東海、県と分けて情報がほしい。
来年の参加希望	<ul style="list-style-type: none"> ■参加したい 27名 ■参加したくない 0名 ■どちらでもない 3名
今後同様の会議を 実施する場合の 単位	<ul style="list-style-type: none"> ■実施単位 9地域ごと 9名 都道府県ごと 8名 9地域ごと・都道府県ごと両方 10名

	<p>その他 3名</p> <p>■「その他」の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の様子は、知りたい。 ・地域外との交流があってもいいですね。 ・百年構想クラブで実施するのもいいかと思ひます <p>■コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県の状況を知りたいので地域ごとが良いのではないかと思ひます。 ・今回と同じ形で東海地域から都道府県ごとで話ししていくのがいいと思ひます。 ・都道府県で集まるのがよりリアルに活動を進めていけそう。 ・都道府県ごとのつながりの強化をしたいので、都道府県単位での集まりが定期的に行ければと思ひました。 ・都道府県毎を年4～6回程度(2～3ヵ月に1回)、9地区ごとを年2回(半年に1回) ・9地域ごともしくは、規模感が似ている他の都道府県と集まりたい ・全国の様子は、知りたい。 ・百年構想クラブで実施するのもいいかと思ひます
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・各FAや各Jチームから各競技団体に関して、些細な事でも構わないので、各競技の日本協会に問い合わせを頂ければ幸いです。 ・今回のように、広く門戸を開けてもらえると、一極だけに偏らず、みんなが集まって共に創り上げる土台となって良いと思ひます！ ・できればもう少し早い時間帯で実施していただければと思ひます。 ・会議終了後、当協会HPにJIFFのバナーを貼り出しました。 ・要望ではないですけど、一言を言わせてください。パラリンピックやスペシャルオリンピックがあると申してましたけど、デフリンピックもある事を知って欲しいです。認知されていなくてスゴい悲しかったです。

(8) 関西

①会議概要

開催日時	2020年11月26日（木）会議 18:00～20:00		
開催方法	オンライン（Zoom）		
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について	5分	
	2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り	15分	
	3. 7競技団体の地域内での状況や展望の共有	15分	
	4. ディスカッション	75分	
	5. ディスカッション概要共有、写真撮影	10分	
参加人数（実数）*	46名		

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	2名
9地域サッカー協会	1名
都道府県サッカー協会	9名
Jリーグクラブ	4名
Jリーグ百年構想クラブ	3名
その他サッカー関連団体	0名
アンプティサッカー	4名
CPサッカー	4名
ソーシャルフットボール	6名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	1名
電動車椅子サッカー	4名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	2名
デフサッカー／ デフフットサル	2名
その他障がい者サッカー 関連団体	1名
JIFF	4名
合計	47名

部門別人数（重複あり）

役員・管理職	20名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	10名
管理部門	11名
強化・指導者	5名
選手	1名
合計	47名

②会議内容

7競技団体の地域内での状況や展望の共有	
アンプティサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健常者チームのアンプティサッカー部門新設支援を開始。 ・ 例年大阪府で全国大会「レオピン杯」を開催（2020年度は中止） ・ 2021年9月12日に和歌山県串本町にてトルコからアンプティサッカーチームを招待しての町おこしイベントを開催予定。
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2020年1月から関西のソサイチリーグ（京都・大阪・兵庫の各地域）と連携して、CPサッカーのPR活動を行う予定だったが1回のみで中断。2021年度に継続して実施予定。 ・ チームがない府県についても、サッカー活動を希望する脳性麻痺の方たちが出てきたときに参加できる、サッカーができる

	環境（受け入れてもらえるチームや教室等）が整えられるよう連携や情報共有ができる体制をつくりたい。
ソーシャルフットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・「ガンバ大阪スカンビオカップ」開催（2020年度は中止） ・ネットワーク整備・連携強化：関西のスタッフで10月にオンラインミーティングを実施。今後継続予定。 ・普及啓発：各都道府県で体験会・交流会・講習会等を広く開催／競技レベルに応じた大会の開催／他団体交流を通じて幅広いニーズに応じ認知度を高める。 ・インクルーシブの取り組み：一般・学生・他障がい等、様々な壁を乗り越えるイベントの実施・継続。
知的障がい者サッカー 知的障がい者フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・関西トレセン活動 ・もうひとつの高校選手権関西大会（芦屋市総合公園） ・関西6府県による関西リーグ（兵庫県三木防災公園） ・みんなのサッカースクール（未就学児～中学生対象/初/J-GREEN堺） ・JFFID指導者研修事業（J-GREEN堺） ・関西8人制チャンピオンカップ（芦屋市総合公園） ・フットサル日本代表強化合宿開催予定 等 <p>→大阪府サッカー協会のご協力により取り組みができています。</p> <p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jクラブとの交流や前座試合 ・障がい者サッカー紹介映像 <p>→Jリーグの試合前やハーフタイムのスタジアムで流す等検討いただきたい。</p>
電動車椅子サッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動自粛中。再開後、連携をしたい。 ・2021年に大阪府枚方市で日本電動車椅子サッカー選手権大会（パワフル6：電動車椅子制限速度6km/h対象）を計画中。
ブラインドサッカー ロービジョンフットサル	<p>ブラインドサッカー2020カップ1stラウンドをJ-GREEN堺にて実施（10月4日）。</p> <p>同大会準決勝ラウンド（1月下旬）においても、再度J-GREEN堺にて実施の可能性あり。</p>
デフサッカー デフフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・近畿ろうあ者体育大会（2020年は中止） ・全国ろうあ者体育大会（2020年は中止） ・人材発掘、普及及び発展のため、複数の他団体と協力して講演やキッズ向けのサッカー教室の活動を行っている。
グループディスカッション	
グループ1（大阪府）	
（1）状況・課題・要望の共有	
アンパティサッカー 関西Sete Estrelas	<p>関西Sete Estrelas)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年は6月から講演会やイベント参加も徐々に再開している状況。
CPサッカー 大坂PAZ	<p>大坂PAZ)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他府県在住のメンバーも多い。 ・2020年3月に大会を開催予定だったが中止となった。 ・神戸のチームなど他のチームが主催してくれた大会には参加している。
ソーシャルフットボール YARIMASSE大阪	<p>YARIMASSE大阪)</p> <p>■活動状況</p>

<p>クリニカルスポーツ+α</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動は月に5～8回しているが、選手の集まりは良くない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健常者の方にも参加してもらいながら活動を広げていきたい。 <p>クリニカルスポーツ+α)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に精神科の医療機関のデイケアや、精神障がい者の就労継続支援事業所などのメンバーで集まり試合等を行っている。 ・自チームは、広い意味でリハビリや治療など福祉的な意味合いでサッカーを使っていくことがターゲット。 ・試合等も行うがエンジョイ層のニーズに応えている。
<p>デフサッカー／ デフフットサル 大阪アジアントールFC</p>	<p>大阪アジアントールFC)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在籍選手は30名ほど。 ・高校生以上が対象で、20～30代が中心となっている。 ・基本的に区営の公園グラウンドを借りて活動。 ・近畿にはデフサッカーチームが1チームのみのため、近隣の府県から参加するメンバーが多い。 ・練習日程や場所の調整が難しく、交通費等の負担も大きい。 ・最近では人材発掘やデフサッカーの普及、発展のために、複数の団体と協力して講演やキッズ向けのサッカー教室等の活動をしている。
<p>Jリーグクラブ ガンバ大阪 セレッソ大阪</p>	<p>ガンバ大阪)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障がい者のフットサル大会（ガンバ大阪スカンビオカップ）を13年間継続している。最近では台風やコロナで中止。 ・Jリーグのクラブや百年構想のクラブは「ホームタウン制」という形を取っており、ガンバ大阪は吹田、茨木、高槻、豊屋嘉、摂津、美濃、池田という7市を中心に活動している。昨年はそこで170～200回くらいのホームタウン活動をしていたが、今年はコロナで活動できていない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲームでの障がい者サッカー紹介動画放映は、ホームタウンの7市の行政や府協会とも協力しているという形であれば、検討可能ではないか。 <p>セレッソ大阪)</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲームでの障がい者サッカー紹介動画放映は、すべてのホームゲームでは難しい。府協会の依頼という形で、指定をせず可能な範囲であればできそう。 ・現在関西Jクラブの4チームで行っている「負けへんで関西」を利用し、各団体の選手とクラブの選手とで別録りしたものを組み合わせた動画をつくるなどは可能。（試合の際は権利問題が厳しいため練習であれば撮影可能）
<p>Jリーグ百年構想クラブ FC大阪</p>	<p>FC大阪)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年、知的障がい者のサッカーチームをリーグ戦に招待しスタッフとの交流試合などを実施。 ・その後はコロナのため連携できていない。

	<p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームタウンである東大阪市の花園中央公園に、新しく完成予定のウィルチェアスポーツコートも有効活用しながら協力していきたい。 ・障がい者サッカーの紹介動画を流す件について、各団体・クラブと協力してみんなでパスを繋ぐような一つの動画を作成してはどうか。
都道府県サッカー協会 大阪府サッカー協会	<p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府サッカー協会がハブになりながら、Jクラブ、障がい者サッカーチーム、団体を結びつけていけたら。
JFA	<ul style="list-style-type: none"> ・JFA有資格指導者向けのリフレッシュ研修会障がい者サッカー指導コースを大阪府でも実施したが、また開催していきたい。
(2) ディスカッションまとめ	
テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・広く認知してもらう機会をつくるという点で、Jクラブの協力を得ながらJIFFの7つの障がい者サッカー紹介動画等を放映できないか検討した。 ・2021年度は各種障がい者サッカー競技団体と協力しながら、まぜこぜサッカーの開催を検討する。
テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・元々大阪府内での横のつながりはある方なので、継続して連携していく。
グループ2（兵庫県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
アンパティサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県内での活動は、コロナ禍ではすべてのイベントや体験会が自粛になった。 ・2021年3月開催予定の兵庫県障がい者サッカーフェスティバルは、協力したい。 <p>■他競技との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CP神戸や大阪PAZの選手と合同で一緒に楽しくボールを蹴ろうという計画をしていたが、コロナの影響で実現できなかった。
CPサッカー CP神戸	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は健常者と一緒に練習していたが今はしていない。 ・主な拠点は、兵庫県の障がい者スポーツ交流館と神戸市生涯学習支援センター「コムスタこうべ」。 ・練習は、月に2～3回程度。 ・10月24日に西日本という名前で大分県・大阪府のチームと一緒に交流試合を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> - 大分県のチームとは年2～3回行き来する形で長く交流している。 ・2021年3月開催予定の兵庫県での障がい者サッカーフェスティバルは、個人参加でよければ参加したい。 <p>指導者の中でサッカー協会ライセンスを持っている者はいない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの特性上、スタッフは理学療法士や作業療法士が多い。サッカー経験者も多いが、JFAの指導者ライセンスを持っている者はいない。
ソーシャルフットボール	兵庫県メンタルケアフットサル連盟)

<p>兵庫県メンタルケアフットサル連盟</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催の県大会はコロナで中止。 ・スタッフは医療従事者や介護関係者のためコロナ禍では練習もしづらく、選手も移動を不安に感じている。 ・コロナ前は県の障がい者スポーツ交流館が主な拠点。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年3月開催予定の兵庫県障がい者サッカーフェスティバルは、感染症対策も整っている場所であれば選手たちも安心して参加できると思うので、ぜひ参加したい。
<p>電動車椅子サッカー 兵庫県電動車椅子サッカー協会</p>	<p>兵庫県電動車椅子サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍では活動ができていない。 ・2020年8月に予定していた大会もコロナで中止。来年は7月に実施予定だが未定。 ・場所の確保が難しいこともあり、定期的に練習できているチームもあれば全然できていないチームもある状況。
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年3月の障がい者サッカーフェスティバルは、一般のお客さんをたくさん呼べない代わりに障がい者サッカー団体同士で理解を深め合う場として良い機会だと思う。
<p>関連団体 あかしユニバーサルフット ボール連盟</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごちゃ混ぜサッカーのイベントを予定していたがコロナで軒並み中止になり、10/31に今年初めて開催できた。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年3月開催予定の兵庫県の障がい者サッカーフェスティバルでは、現在明石で実施しているようなごちゃ混ぜ形式でできると良いのではないかな。 ・これまで他の競技団体のスタッフ・選手たちとの交流が少ないため、この機会に相互理解が深まってほしい。 <ul style="list-style-type: none"> - 例えば、知的障がい者サッカーの試合の隣でアンプティサッカーやCPサッカーが試合をするなど、同じ大会名称にして3～4カテゴリーの障がいサッカーの大会を同時に開催できたら良いのではないかな。 - 普段特定の競技しか観戦しない層に他の競技を認知してもらえる機会になる。 - スタッフ同士の理解も深まるのではないかな。
<p>Jリーグクラブ ヴィッセル神戸</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催しているフェスピック（極東・南太平洋身体障害者スポーツ大会）も中止になり、来年度は未定。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合前イベントでJIFFの障がい各種団体の紹介映像を流すなどのPRは検討可能。 ・ブースを出す形での普及活動については、コロナ禍では難しい。 ・兵庫県内の定期的な連携会議への参加については可能。
<p>都道府県サッカー協会 兵庫県サッカー協会</p>	<p>■連携状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の地域連携会議以降、兵庫県内でもミーティングが数か月に1回行われるようになり、団体ごとの情報共有がしやすくなった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、兵庫県の障がい者サッカーフェスティバルを開催している。 <ul style="list-style-type: none"> - 次回は2021年3月に播磨コートサッカー場で実施予定。 - 各種団体の試合や体験会を計画している。 - 電動車椅子サッカーの映画『蹴る』の中村和彦監督を招待し、上映したあとに電動車椅子サッカーの体験会や試合を見てもらうという案がある。 ■今後に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・姫路に「エストパーク」という場所があり、第3土曜日に「エストパワーズ」という知的障がい者サッカーチーム（特別支援学校の卒業生が発足したチーム）が活動している。 <ul style="list-style-type: none"> - チームには弱視の女子、聴覚障がい、切断障がい、発達障がいの子どもたちも参加している。 - 多いときは70名程で活動している。 - ウォーミングアップ等は一緒に行い、その後年齢やレベルに応じて練習や試合を繰り返している。 <p>→こういった場所が増え、活動頻度が増えれば、障がい者が1人でも参加できる環境をつくれるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各障がい者サッカー体験会を同時に同じ場所で開催できないか。 ・県内の連携会議については、オンラインでの実施を継続しつつ、コロナが落ち着いたら年1回は会議兼懇親会を開催したい。
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例年3月に兵庫県サッカー協会が開催している障がい者サッカーフェスティバルを拠点として、団体同士の相互理解を深めていく。 ・ごちゃ混ぜの試合を行うだけでなく、各種競技の試合を健常者を巻き込みながら同会場・同時時間帯に実施することで複数の競技を認知してもらう場にしていく。 ・普段の活動場所確保なども情報共有するなかで協力していく。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体とLINEグループやメーリングリスト等をつくり、兵庫県サッカー協会を中心に情報の共有を行っていく。 ・これまで県内の会議に参加できていなかったヴィッセル神戸にも参加してもらう。
グループ3（京都府）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都にチームはなく、選手は1人もいない。 ・広報的なものでサポートいただけるとうれしい。 ・日本ソサイチ連盟が開催しているソサイチリーグと連携したイベント・体験会・試合の会場に京都も入っていた。今年はコロナで中止となったが来年は継続して実施予定。 <p>→実施の際は、広報の面でサポートいただきたい。</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPに限らず障がいがある子どもたちのサッカー教室などを実施するなど、インクルーシブな教室や交流をしながら選手を発掘できると良い。

<p>知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル Reve</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京田辺を中心に活動している。 ・京田辺で年1回、全2日で「レーヴチャレンジカップ」を主催している。 <ul style="list-style-type: none"> - 知的障がい者フットサル大会と地域交流カップ、サッカー教室の3つの要素で構成している。 - 関西2府4県に声がけ。 - 地域交流カップには地域の健常のチーム、近隣の特別支援学校にも声がけしている。 - JFLのFCティアモ（大阪）の選手が参加し子ども向けサッカー教室を開催している。 - 今後はソーシャルのサッカーチームやフットサルチームにも声がけ予定。 <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内は競技人口が少なく、11人制の大会などは参加者を集めるのに苦労する。 ・兵庫・大阪には特別支援学校にクラブがあるが、京都では皆無。軽度の障がいがある場合、中学まではチーム（健常または知的障がい者チーム）でプレーするが、高校で支援学校に進学するとプレーする場所がなくなる。日常からサッカーがなくなり、非行などに走ってしまうケースもある。 ・特別支援学校では非接触型のスポーツが好まれているためサッカーは普及が進まない状況。
<p>電動車椅子サッカー 京都府電動車椅子サッカー協会</p>	<p>京都府電動車椅子サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内には1チーム（JPDソニック～京都電動蹴球団）。 ・選手8名で週1回活動。 ・2019年は小学校で選手の講演や、電動車椅子を使った体験会を実施。 ・京都市障害者スポーツセンターに寄付いただいた引退した選手の電動車椅子2台を体験会に活用可能。 ・京都サンガF.C.の協力を得て大会を開催している。 ・2020年11月15日に非公式大会という形で例年実施している「フレンドリーサンガ杯」を開催した。
<p>デフサッカー／ デフフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去には府内にチームがあったが、今は全くない。 <ul style="list-style-type: none"> - 過去に近畿大会があり、大阪、和歌山、京都、奈良のチームが集まったが、今は大阪しか活動がない。 ・京都にもデフの選手はいるが、大阪のチームに通っている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県で実施しているようなまぜこぜのフェスティバルなどがあると良い。 ・京都府サッカー協会にも協力いただきたい。
<p>Jリーグクラブ 京都サンガF.C.</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動車椅子サッカーの大会協賛を行なっている。 <p>2019年11月に大会を開催し、トップチームの選手も参加して交流した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スペシャルオリンピックス日本・京都のチームに練習場として月1回クラブの人工芝のグラウンドを貸している。 ・電動車椅子サッカーチーム、スペシャルオリンピックス日本・京都の方々をホームゲームに招待し、電動車椅子サッカー

	選手には試合前ウォーミングアップに出てくる選手の花道をつくってもらするなど協力を得ている。
都道府県サッカー協会 京都府サッカー協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な担当者が特別支援学校関係者。 ・7競技団体の動きは現状把握ができていないため、協力体制や連携が取れていない。 <p>■障がい者サッカーの活動場所の問題に対して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人工芝グラウンドでは吉祥院と下鳥羽があり、年間調整が2月にある。そこで一つ大会を、7つの障がい者サッカーをすべて1カ所でやるのは難しいが、例えば午前1カテゴリー、午後は別のカテゴリー、あるいは1時間で時間交代などできるのではないか。 ・来年度の予算計画では最低場所代だけでも組み込みたい。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在は協会内の障がい者サッカー担当が1名のため手が回らないことも多い。逆に7競技団体からどんどん状況や要望を伝えてほしい。 ・組織として、体制強化も検討していく。
(2) ディスカッションまとめ	
テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・府内の情報共有がうまくいっておらず、京都府サッカー協会としてもフットボールデーや様々な施設の年間調整の中に障がい者サッカーを組み込むなど、予算と相談しながら進めていく。
テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の参加者同士でメールアドレスを共有し、連絡がとり合えるようにしていく。 ・情報があれば京都府サッカー協会に共有することでより活発に動けることが増えそう。
グループ4（滋賀県、奈良県、和歌山県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
アンプティサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県と奈良県は、まだ選手がいない。 ・和歌山県新宮市で自治体と共同で体験会イベントを実施。 ・今後は小学校のスポーツ少年団等に、講演会とセットでアンプティサッカー体験教室を開くなど様々併せて打ち出していきたい。 <p>■和歌山県串本町でのイベント計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県串本町で友好都市のトルコ側からオファーがあり、2021年9月に和歌山県串本町にてトルコからアンプティサッカーチームを招待しての町おこしイベントを開催予定（コロナ禍のため未確定な部分がある）。 <p>行政や自治体、協賛企業、町の商店、地元事業者等と一緒に町おこしをするという形で、障がい者スポーツをはめていきモデルケースを和歌山でつくれば、他地域でも応用できるのではないか。</p>
CPサッカー 日本協会	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県の選手が1名、大阪のチームで活動している。 ・CPのみでチームをつくっていくのは難しく、他の障がいや健常者のチームも含め受け皿をつくっていけたら。
ソーシャルフットボール	■活動状況

<p>日本協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関西では大阪2チーム、京都1チーム、滋賀1チームが活動中。 ・医療機関のデイケアのチームも含めると、常時20～30チームが活動している。 ・奈良は2019年度活動を休止していたが再開した。 ・和歌山はスタッフ・選手ともに様々な地域から集まっている、かつまだ立ち上がって間もない状況のため、現在は大阪からスタッフが派遣されている。 ・ソーシャルフットボールは精神科病院や福祉施設が母体となっているチームが多く、コロナ禍ではスタッフ都合やチーム状況によって、活動を休止せざるを得ない。 ・関西のスタッフで月に1回程度ミーティングを行っている。
<p>電動車椅子サッカー 日本協会 奈良クラブビクトリーロード</p>	<p>奈良クラブビクトリーロード)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年前から活動中止。(呼吸器系、筋肉系の障がいを持っている選手が多く暑さや寒さに弱かったり、進行性のためドクターストップがかかっている選手が多いため) <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良クラブと一緒にやっている以上、いつでも再開できるように選手を募集していきたい。
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関西では、兵庫、大阪でチームが活動している。 ・日本ブラインドサッカー協会による「地域リーダープログラム」のもと奈良県で「ディア奈良」という組織が発足した。選手獲得などはこれから。 ・奈良、和歌山では日本ブラインドサッカー協会での大会の開催実績もない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず地域社会と結びつきながらブラインドサッカーの試合の実施や、他の障がい者サッカーと共同して試合を実施する等が少しずつできていけばエリアとして盛り上がっていくのではないかな。
<p>Jリーグ百年構想クラブ 奈良クラブ</p>	<p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーは4種活動している。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 電動車椅子サッカー「ビクトリーロード」 (2) 知的障がい者サッカー「バモス」 トップチームのホームゲームではゴールパーソンや担架などの運営補助に入ってもらっている。 (3) ブラインドサッカー チームは持っていないが、アカデミーのコーチが奈良市内の小学校・中学校（小学校の高学年～中学生が対象）の巡回で体験会を実施している。 (4) デフサッカー チームはないが県内のろう学校と連携し例年サッカー教室を開催。今後はトップチームの選手も含めサッカー教室を実施したり、ホームゲームの試合に招待したい。 ・奈良県の県立学校は幼稚舎～中学校までのエスカレーター式になっており、毎年幼稚舎には巡回に行き、小学校はホームゲームへの招待や健常者と交えたミックスのサッカー教室を実施している（2020年はコロナで中止）。

	<p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校やチームは閉塞的なため、クラブが繋ぐ役割や周知を担うことで広がり期待できるのではないか。
<p>地域および都道府県サッカー協会</p> <p>関西サッカー協会 滋賀県サッカー協会 和歌山県サッカー協会 奈良県サッカー協会</p>	<p>関西サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年4月に知的障がい者近畿地区予選会でサッカー教室を開催している。2020度はコロナのため中止。 ・2020年度から関西サッカー協会の事務局機能が充実してきたため、今後は協会が障がい者サッカーのハブとなって情報を取りまとめ発信していきたい。 ・全国障害者スポーツ大会の関西予選の際、Jリーグクラブに協力を得ながら、サッカー教室を実施している。 <p>滋賀県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットボールデーに障がい者サッカーに関わる方を招いてなにかできないか検討していたが実現していない（コロナのため2020年度の協会主導の事業は何もできていない）。 ・ソーシャルフットボールの滋賀ラウンドドッグスの大会に審判を派遣予定だったが大会が中止になった。 ・知的障がい者サッカーの県選抜チームを結成した。 <ul style="list-style-type: none"> - 県内に3チームあり、2020年までは年に1回交流戦を行いながら選手選考をして、選抜チームを結成。 - 練習や試合にはJFLの「MIOびわこ滋賀」から監督を派遣してもらった。 <p>和歌山県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい者サッカーの大会（紀の国チャレンジカップ）をここ10年毎年開催している。 ・3年前から県内の特別支援学校体育連盟と連携を図り、年1回のサッカー大会に審判派遣や協賛をしている。 ・裾野を広げるため特別支援学校のリーグ戦や単発のイベントを開催する準備をしている。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年に計画されているアンプティサッカーのトルコとの交流イベントを機に、和歌山で記念大会等を継続していきたい。 ・関西サッカー協会のHPに関西の各連盟や障がい者サッカーの各カテゴリーのチーム情報などを検索できるような機能をつくり、情報共有できるようになると良い。 <p>奈良県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい者サッカーのトレセン活動とそれに係る審判派遣を行っている。 ・全国障害者スポーツ大会の予選等々のサポートを場所提供で協力している。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は大会主催などもできたらと思っている。 ・チームの選手発掘等に向け、協会のHPにバナーを掲載するなど協力していきたい。

(2) ディスカッションまとめ	
テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・各県サッカー協会等で6府県の情報をとりまとめて情報発信していくために、当事者間だけではなく関西サッカー協会がハブとなっていく。 ・地域内にあるチームや団体が検索できるような情報のとりまとめができないか検討した。 ・各県サッカー協会では、チームや選手発掘に関する情報をHP上でバナー等を貼り情報発信していく。
テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する	<ul style="list-style-type: none"> ・この3県では、新しいチームの発足や国際大会の開催予定、フェスティバル等の障がい者サッカーの活動予定があり、連携が加速していきそうな状況。



③参加者の声

会議の満足度	<p>■とても満足 10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握できたことと今後の展望が見えてきたこと ・一障害者サッカー団体ではなしえない普及啓発のアイデアや実践を聴くことができた ・各団体の現状を知ることが出来、新たな展開が期待できる会議となり、大変良かったです。 ・普段なかなか直接聞くことが出来ない意見をzoomでお聞きすることが出来、貴重な経験になりました。 ・普段聞けない実情や意見を聞いた ・同じ地域で障がい者サッカーに関わる様々な立場の方々の状況や意見を知ることができたため。 ・情報共有が出来たこと。 ・初参加でした。顔を知れたことが良かったです。 ・普段繋がることのできない方との交流ができたから ・グループディスカッションで改めてコミュニケーションが取れた。今後の活動に対して横のつながりをより強固なものにし発展していけるようにしていきたい。 <p>■満足 13名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔と名前も一致しましたし、zoom開催ならではの良さがありました。 ・手話通訳の手配をしてくださったこと、発言順を最後に回していただいたこと。 ・みんなで意見の交換が出来たのが良かったが、もう少しかおを合わせたかった。 ・色々な人の意見や展望を聞いて良かったです ・様々な情報を共有することができたため。 ・各団体の情報を知ることができた。(県内のチーム事情)
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらの電波の関係ですが聞こえにくい部分や画面が切断してしまう場面があった ・長くコンタクトの取れていなかった、活動休止しているチームの現在の環境／状況が知り得ることができたため。 ・関西圏の状況を理解できました。 ・初めて参加した事によって知り合う事ができた、情報をえる事ができたから。 ・他の障害者サッカー団体がどのような活動をしているのかがわかり、今後に向けての話が具体的にできたから ・他障がいの方のお話を直接聞ける機会となったため ・オンラインで参加しやすかった <p>■普通 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のサッカー関係者の皆さんとの顔合わせができ、これから関係を築けるのではないかと思います。 ・着地点が前回と同じだったように思います。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・報告は頂けるみたいだが、大阪・兵庫・京都の情報も知りたかった。 ・情報の共有ができ、良かった。 ・現在、チームの活動休止をせざるを得ない環境（コロナ禍であったり、元来から所持している疾患の進行が早まっている事由）の中で、「競技普及をどのように行っていくか、また各競技の紹介／知るきっかけが必要」と感じました。 ・今回このような会議に初めて参加させて頂きましたが、普段お話を伺いする機会がない方から様々なご意見をお伺いすることが出来たのでとても貴重な時間となりました。今後もこのような機会があれば是非参加させて頂きたいです。 ・次は、もっと発言できるようにして行きたいと思います。また、協会の方でも話し合いをして行きたいと思います。 ・次回はもう少し具体的な内容でもよいと思った。 ・Jクラブやサッカー協会のご協力を後押しする意味でも行政のニーズを知りたいと感じました。 ・交流の時間がもっと欲しいと感じました。 ・大人数ですと聞くだけになりますので、今回のように少人数のグループで話せたことはすごくよかったです。その小グループの話し合いを25分×2回と、違うグループでとテーマを変えて話せるともっと多くの方とお話できた方がもっとよくなるのではと思います。 ・今後につながるディスカッションが出来たと思います。今後もよろしくお願い致します。 ・ブレイクアウトセッションと全体会議の時間配分は少し気になりました ・平日の夕方開催は、本業との調整が難しい方が多いのかなと感じました。 ・全員で案を探っていくのは中々進みにくいのかなと思います。協会様でいくつかの草案があり、それに対しての議論という形をとれば具体的なことも決まっていきやすいのかなと感じます。 ・事務局に事前準備して頂く負荷を軽くして、頻度を年2～4回に上げてみてもいいのではないかと思います。 ・曜日と時間についてできれば土日にしていただくか、平日ならもう少し遅い時間にしていただきたいです。 ・グループセッションにもう少し時間があれば情報共有が出来た

来年の参加希望	<ul style="list-style-type: none"> ■参加したい 24名 ■参加したくない 0名 ■どちらでもない 1名
今後同様の会議を実施する場合の単位	<ul style="list-style-type: none"> ■実施単位 <ul style="list-style-type: none"> 9地域ごと 13名 都道府県ごと 6名 9地域ごと・都道府県ごと両方 2名 その他 4名 ■「その他」の意見 <ul style="list-style-type: none"> ・関西ばかりではなく、他の地域の話も聞いてみたいです。 ・選手、スタッフ、コーチ、広報などチームでの立場ごとのディスカッション ・年に1回程度、都道府県別と地域別 ・リモートだったら、移動もないのでやりたいです。 ■コメント <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には地域ごとでの会議が主体で、都道府県ごとでは全体が足並みを揃えて検討が必要な時で集まることが出来ればと思います。 ・グループワークを行った地域ごとがいいのではないかと思います。 ・当チームの選手がいろんな府県から参加してるため、9地域ごとに集まりながらも、今回のようにグループディスカッションは都道府県ごとでできたらいいのではと思います。 ・WEBであれば都道府県それぞれやってもいいと思う。9地域だと地域差が出ることもあり、JIFFとしてもより地域に即して把握できると思います。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ZOOMでの会議もいいと思いますがコロナが落ち着きましたら実際にお会いして会議が開催できればいいと思います。 ・開始時刻をもう30分か1時間遅くしてもらえると仕事後に余裕を持って参加できるので、検討して頂けると幸いです。 ・広報などを各障害者サッカー団体がそれぞれに行いながらもサッカー界全体としてそれをサポートしていただけると嬉しいです、その相互理解のためにこの会議が今後も継続してもらえたら嬉しいです。 ・個人的にはオンライン会議の方が参加しやすいと思います

(9) 中国

①会議概要

開催日時	2020年10月29日（木）会議 18:00～20:00
開催場所	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 20分 地域内の新規事例共有 7競技団体の地域内での状況や展望の共有 4. グループディスカッション 65分 5. ディスカッション概要共有、写真撮影 6分
参加人数（実数）*	39名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	4名
9地域サッカー協会	1名
都道府県サッカー協会	7名
Jリーグクラブ	7名
Jリーグ百年構想クラブ	0名
その他サッカー関連団体	0名
アンプティサッカー	2名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	3名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	1名
電動車椅子サッカー	1名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	3名
デフサッカー／ デフフットサル	1名
その他障がい者サッカー 関連団体	7名
JIFF	4名
合計	43名

部門別人数（重複あり）

役員・管理職	23名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	11名
管理部門	3名
強化・指導者	3名
選手	1名
合計	41名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
鳥取県サッカー協会	本協会の技術委員会の中に「普及部会」を設置し、障がい者サッカーに関連する事業を技術委員会として活動することとなった。普及部会の会議で、障がい者サッカーの取り組みを共有したり、協働していく話し合いを行った。ソーシャルフットボールの現役選手も会議に出席し、現状の課題や楽しさを共有した。
広島県インクルーシブフットボール連盟	■連携会議 広島県の7種目の委員会委員長と連携会議を開き、広島県での各種目の現状等を共有した。 ■イベント開催

	西日本アダプテッドフットボールフェスティバル（前身の団体・2016年～）内でアンプティサッカーブラインドサッカー、電動車椅子サッカーの大会、映画「蹴る」上映会、各種体験会等を実施。サンフレッチェ広島、行政、大学と連携。JIFFが主催するインクルーシブフットボールフェスタ広島を主管。
山口県サッカー協会	2020年度から山口県サッカー協会にインクルーシブ委員会が設立された。 インクルーシブ委員会は、県内の障がいサッカーの窓口となり、障害サッカーの普及・振興のために活動する事を目的としている。現在活動中の障がい者サッカー団体のコアメンバーが、定期的集まり活動状況や情報共有を行いながら、障害の種別を超えて、お互いに協力し活動できるように連携していく。また活動のない団体については、選手・スタッフを発掘する活動や団体設立へ向けて協力していきたい。
7競技団体の地域内での状況や展望の共有	
アンプティサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・西日本アンプティサッカーリーグ(2020年9月予定→中止) ・2021年度西日本リーグ（開催地は九州予定）計画中。 ・健常者チームのアンプティサッカー部門新設支援を開始。
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ・中国地域にはチームがない。 ・サッカー活動を希望する脳性麻痺の方たちが出てきたときに、参加できる、サッカーができる環境（受け入れてもらえるチームや教室等）が整えられるよう連携や情報共有ができる体制をつくりたい。
ソーシャルフットボール	<ul style="list-style-type: none"> ・中国大会（兼全国大会予選）を岡山県，鳥取県，広島県の参加で年1回実施。（今年度は中止→来年からの中国大会再開に向け協議中） ・大会運営のサポート（会場確保、大会広報、審判団の派遣等）をお願いしたい。 ・チーム活動や普及へのサポート（指導者派遣、広報支援、普及イベント等）をお願いしたい。
知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・全国障がい者スポーツ大会（今年度中止） ・中四国地区リーグ戦（今年度中止） ・中四国地区トレセン（今年度中止）
電動車椅子サッカー	新型コロナウイルス感染症の影響で活動自粛中。 活動再開後、連携をしたい。
ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル	<ul style="list-style-type: none"> ・新クラブチーム誕生（ゲートウェイ山口） ・アクサ×KPMG ブラインドサッカー2020カップ（10/17 PIVOX広島にて実施し、YouTube生配信） ・岡山DEVIL BUSTERSが新規スポンサーを獲得し、メディアリリースの際、JBFAより理事長コメントを記載。
デフサッカー／デフフットサル	競技を知ってもらおう場作りのご協力をお願いしたい。
グループディスカッション	
グループ1（岡山県）	
（1）状況・課題・要望の共有	

<p>アンブティサッカー 日本協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県内にチームはない。 ・なかなか新しい選手を発掘できていない。 ・この連携会議を機に新たな方策を見つけていきたい。
<p>ソーシャルフットボール 岡山SUN' S. Jr/岡山県ソーシャルフットボール協議会</p>	<p>岡山SUN' S. Jr)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で2月から練習会がストップ。 ・借りている会場が病院の体育館のため感染対策がシビア。 ・病院以外の会場は確保できても選手の集まりが悪い。健常者のチームから受け入れ歓迎の連絡があっても選手は一人では参加しづらいこともある。 ・チームとしての練習はできていないが、選手と支援者がLINEグループで繋がっておりアクティブな状態が続いている。 ・月に1回オンラインで「協議会」の実施を継続できている。 ・これまで岡山県で実施した大会では、県サッカー協会から審判派遣の協力を得ている。今後もこういった支援があると良い。
<p>知的障がい者サッカー/ 知的障がい者フットサル</p>	<p>岡山県サッカー協会より)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビクトリー岡山というチームがある。 ・コロナ禍でも感染対策のうえ継続して活動している。ただ、感染対策である手洗いや消毒の理解が難しいこともあるため常にサポートが入っている。 ・練習は、肢体不自由者施設のグラウンドを使用。
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山にチームはなく、中国地域での活動は広島県に集中している。 ・岡山・山口・島根なども恐らくチームや選手が潜在的に存在しているようなので確認中。 ・岡山では電動車椅子サッカー審判員が過去に1人在籍していたが、既に辞めてしまった。 ・4年前に岡山県に岡山電動車椅子サッカー協会を開設する予定もあったが、審判員の退会もあり実現できていない。 ・現在は岡山でどのように選手発掘するか模索中。
<p>Jリーグクラブ ファジアーノ岡山</p>	<p>ファジアーノ岡山)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の年中～小学校6年生を対象者としたサッカースクールで、スクールの体験や活動に発達障がいの子たちを受け入れている。 ・地域の特別支援学校では、スポーツ体験教室を実施している。ソーシャルフットボールとの連携は継続できている。 ・県スポーツ協会のトップアスリート派遣事業として、県内の指導者を活動団体に派遣してスポーツを振興していく活動があり、それを介して昨年12月に一度ビクトリーへ伺った。今年度は未定。 <p>→指導者の派遣は県内各所で可能なため声をかけてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲームが21試合あるので広報や連携の場として活用してほしい。7競技団体すべてとのコラボは難しいが、障がい者サッカー全般の理解や普及など共通テーマを見い出せれば可能性がある。

<p>都道府県サッカー協会 岡山県サッカー協会</p>	<p>岡山県サッカー協会) ■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年デフサッカー女子日本代表合宿を美作に招致。 <ul style="list-style-type: none"> - 県内の女子サッカーチームを対戦相手に選び、交流会も含めた普及活動をしている。 - 2019年12月の合宿ではろう学校で出会ったサッカー好きの生徒を連れて参加するなど、選手発掘も合わせて行っている。 ・2021年度は中国四国地域の知的障がい者サッカーの大会が美作で開催予定。 ・2018年JFAの「ユニクロサッカーキッズ」にてデフサッカー体験会を実施した。CPの学生もいた。 ・ファジアーノ岡山が使用しているグラウンドで一緒に運動するイベントをしている。選手にも参加いただき、運動したくない子どもたちもクラブのファンになるほど楽しんでもらった。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なディスカッションの場として1か月または2か月に1回ほどの頻度でオンライン会議を開催していきたい。 ・2019年度、協会内スポーツ医科学委員会にスポーツトレーナー部会を発足した。大半は理学療法士で、他は大学生などが参加しておりそこで選手発掘の参考になる情報が引き出せそう。 ・特別支援学校の巡回を続け、選手発掘に努めたい。 ・グラウンドを一つ借りて、各競技の紹介や体験等ができるイベントのような場を毎年1回開催できるようにしたい。現在JFAのグラスルーツに申請している障がい者サッカーの普及・発信の事業に肉付けする形で継続できる仕組みをつくっていききたい。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県サッカー協会主催で年1回、7つの障がい者サッカーの紹介&体験のイベントを開催し、ファジアーノ岡山と県内の障がい者サッカーチーム+チームのない競技は協会として協力を募る。 ・岡山県サッカー協会と岡山県障がい者スポーツ協会を兼務しているスタッフがいるので、特別支援学校などに声掛けをしてもらうというのが理想的。 ・岡山県サッカー協会内医学委員会のトレーナー部会の理学療法士やトレーナーの方々を通じて選手発掘やヒアリングをしていくことも可能。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は岡山県サッカー協会の技術委員会の中に障がい者サッカー担当者がいるが、今後は障がい者サッカーは別枠の組織にしていく予定（ただし形になるまでは時間がかかる）。 ・それまでは1～2か月に1回、定期的な話し合いの場を持っていくことを先導してもらえることになった。
<p>グループ2（広島県）</p>	
<p>(1) 状況・課題・要望の共有</p>	
<p>アンプティサッカー</p>	<p>■活動状況</p>

A-pfeile広島AFC	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより活動は減っている。 ・選手発掘が課題。
CPサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国地域にはチームはなく、選手2名（岡山に1名、広島に日本代表選手1名）のみ。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームがなくともプレーヤー希望者を受け入れられる連携を取っていききたい。 ・イベント等でCPの選手が参加していたらぜひ情報共有してほしい。
ソーシャルフットボール ジェネローズ広島FC	<p>ジェネローズ広島FC)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フットサルができる人数にはなったが、まだまだ選手不足でギリギリ大会に参加できる状態。 ・2年前から中国大会の予選には参加している。 ・月に1回ほど練習会を設けているが、コロナの影響で参加できないメンバーが多い。 ・HIFF主催のウォーキングサッカーでみんなだまぜこぜになってトレーニングをしている。 ・最近では、エンジョイでやりたい人、競技としてやりたい人の両方を受け入れられるような体制になってきている。
知的障がい者サッカー	<p>HIFFより)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中四国トレセンの対戦相手を探して試合を運営。 ・地元「ゆうあい」というチームがある。 ・ゆうあいと地元のサッカーチームを対戦相手としてマッチメイクしている。
ブラインドサッカー A-pfeile広島BFC	<p>A-pfeile広島BFC)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言後からは通常どおり週1回の練習を実施。 ・活動している中で大きな課題は感じていない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドサッカーでもウォーキングサッカーをやっているとあるので、今後はHIFFが開催しているウォーキングサッカーにも参加していきたい。
その他障がい者サッカー団体 広島県インクルーシブフットボール連盟（HIFF）	<p>HIFF)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブフットボール委員会を設けておりサッカーの多様性などを発掘し普及させていく目的で取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> - 各競技団体代表者に委員会の委員長を務めてもらう形で連携を取っている（登録や加盟ではない） ・普及の一環で月1～2回ウォーキングサッカーを実施。 ・これまでの活動では、CPサッカー以外の競技は取り組んでいる。 ・例年「西日本アダプテッドフットボールフェスティバル」を開催（2020年はコロナで中止）。 <ul style="list-style-type: none"> - ブラインドサッカー、アンプティサッカー、電動車椅子サッカーの3種目

	<ul style="list-style-type: none"> - 西日本または全国から集まって試合や体験会を実施 ・日本発達支援サッカー協会ともイベントや子どもたちの大会を開催。 ・JIFFと「インクルーシブフットボールフェスタ広島」を11月に開催予定だったが延期となり、現在検討中。 <p>■連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンフレッチェ広島と情報交換はできている。 ・広島県サッカー協会とは全国障がい者スポーツ大会の運営で協力し、尾道備後で2日間協働した。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A-pfeileのようにウォーキングサッカーチームが広島県で増えると、障がい者サッカー全体の入り口が広がってよいのではないか。 ・CPサッカーの普及が課題。他競技団体でイベントや体験会を実施する際に肢体不自由や脳性麻痺も募集対象に加えてほしい。 <p>日本発達支援サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいのある子どもたちの特性に合わせた独自のプログラムであるサッカー療育を提供している。 ・広島県内では、3カ所でサッカーアカデミーを実施中。 ・放課後等デイサービス（福祉事業所）には、現在15カ所に専属の認定コーチを派遣している。 ・サッカー療育を受講した子どもたちは既に600名を超えている。 ・発達障がいの子どもたちに対する理解や認知を広げるという意味で初級の認定講座を実施している。コロナ禍でZoom開催したところ、北海道や新潟など全国から受講してもらえるようになった。 ・例年4月2日～8日は発達障がいの啓発週間で、広島県では4月3日にジーニアスカップという発達障がいのある子どもたちだけのサッカー大会を企画している。 <p>→JIFF、HIFF、サンフレッチェ広島の協力を得たい。</p>
<p>Jリーグクラブ サンフレッチェ広島</p>	<p>サンフレッチェ広島)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブフットボールフェスタ広島に協力している。 ・数年前2～3回エディオンスタジアムにA-pfeileを招待し、試合の1時間ぐらい前に10分間ほどのデモンストレーションを行い活動紹介した。 ・ここ数年は、連携した活動ができていない。 ・2019年のファン感謝デーでは、練習場のある吉田サッカー公園で監督や現役選手とファンがブラインドサッカーを実施した。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き活動の紹介など協力していきたい。
<p>都道府県サッカー協会</p>	<p>広島県サッカー協会)</p>

<p>広島県サッカー協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響で県内の障がい者サッカー関係イベントが実施できていない。 ・総務委員会のサッカーファミリーという括りの中で、障がい者サッカー担当がいる。 ・現在は協会の障がい者サッカー担当者がつなぎ役としてHIFFの理事を努めている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の協会内でどのように組織として障がい者サッカーを発展させていくのが課題。 ・ウォーキングサッカーはより多くの方に門戸を広げられるのもっと各競技の普及の場として活用したい。 ・現在、HIFFが直接サンフレッチェ広島やFリーグクラブ、女子サッカー等と協力しているが、広島県サッカー協会がつなぎ役として機能するべき。
<p>JFA</p>	<p>■提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、障がい者サッカー関係者は個人的な繋がりが強いようだが、広島県は県内に障がい者サッカー組織あり、もう少し広島県サッカー協会やサンフレッチェ広島と連携していくことでワンステップ上げられるのではないか。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<p>県内に広島県障がい者インクルーシブフットボール連盟（HIFF）があり、CPサッカーを除くほかの障がい者サッカー種目に関してはチームがあり、インクルーシブな活動もある。</p>
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<p>今はまだ個人のつながりで活動が成り立っているため、今後はより組織や県サッカー協会・Jクラブとの連携の体制が取れるようにしていく。</p>
<p>グループ3（鳥取県、島根県、山口県）</p>	
<p>(1) 状況・課題・要望の共有</p>	
<p>ソーシャルフットボール 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県は活動が進んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> - チーム関係者と鳥取県サッカー協会とガイナレ鳥取とでいろいろ連携している。 - 早くからチームが立ち上がって活動しており、いまも全国大会に行くような状態。 ・山口県、島根県には現状チームがない。個別に病院単位などで活動している話は聞くが、十分に情報収集ができていない状況。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県と鳥取県では大会を開催したことがある。例えば大会をチームがない県でイベント的に行い、病院の人たちにも見に来てもらうことで普及にもつながるのではないか。開催のノウハウもないので、連携させてほしい。
<p>知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国地区では、全国大会の大きな全スポの大会以外に、中四国地区でのリーグ戦勝者がチャンピオンシップに進める形の全国大会がある。

	<p>・もうひとつの高校選手権には、中国・四国地区だけ参加できていない。特別支援学校のサッカー部が少なくなったことが要因と思われる。</p> <p>■課題</p> <p>・全国の障がい者スポーツ大会には鳥取県を除く全ての県が参加しているが、リーグ戦には広島県・山口県・島根県しか参加できていない。経済的に選手の遠征が困難なことが理由であり、各県で資金繰りが厳しい状況。</p>
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>・2019年に、山口県で「ゲートウェイやまぐち」、島根県で「オロチビート浜田」というチームが発足。</p> <p>・Facebookページの更新や体験会などを地道にやっている。</p> <p>・まだ公式戦には出たことがないため、出場する場合はサポートのスタッフが必要（指導者、サポートスタッフなど） →人員不足のため、他団体にも協力してもらいたい。</p> <p>ゲートウェイやまぐち)</p> <p>・山口県サッカー協会インクルーシブ委員会と連携が取れている。現在はブラインドサッカーのみだが、今後ソーシャルとデフサッカーのチームを立ち上げる予定。</p> <p>・日本ブラインドサッカー協会の地域リーダープログラムで発足。</p> <p>・最初はまず健常者（8人：NPO関係者中心）で環境をつくっていった。</p> <p>■選手発掘について</p> <p>・山口県は特に人口が少ないため、各地域のサッカーチームまたはサッカースクールと手を組んでブラインドサッカーの体験会を開催し、そこから選手が集まった。 →まずは各地域のサッカーが好きな人たちをどう巻き込むかということがポイント。</p> <p>・その後は地域の放課後等デイサービスなどのNPO法人や学校と連携し人脈をたどる中で選手発掘を行っている。 →その結果、ブラインドサッカーだけではなくソーシャルフットボールやデフサッカーの選手も出てきた。ぜひ各日本協会と連携したい。</p>
<p>デフサッカー／ デフフットサル 日本協会</p>	<p>・チームはない。</p> <p>・山口県で1～2か月に1回ほど手話でフットサルをやっている方がいる。地域の主婦などを5～10人集めて手話を教えながらフットサルも一緒に教える取り組み。</p> <p>・島根県には日本代表選手が1名いる。ただ県内にチームや活動の場がないため現在は東京のチームで活動中。</p> <p>・単発のイベントは開催しているが、継続性がない。</p> <p>■今後に向けて</p> <p>・ごちゃまぜサッカーなどを定期的に行うイベントやチームがあると良い。</p>
<p>Jリーグクラブ ガイナレ鳥取 レノファ山口</p>	<p>ガイナレ鳥取)</p> <p>・障がい者サッカーとの関わりは約5、6年前がスタート。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県のソーシャルフットボール協会からフットサル交流会の声かけがあり、毎年1回スタッフがサッカー教室を開催し一緒にサッカーを楽しんでいる。 ・当初から参加していた人たちが現在では全国大会に参加できるまでになった。 ・ユニファイドスポーツは、今年コロナ禍で実施できていないが、過去3年ほど例年9月のフットボールデーのタイミングで県中部にて知的障がい者サッカーメインで交流活動を行っている。 ・スタジアムの近くの障がい者の就労支援組織から声をかけてもらい、草取りや芝生の管理作業を依頼している（今年で3年目）。 <ul style="list-style-type: none"> - クラブに芝生生産のノウハウがあり、鳥取県サッカー協会から依頼を受けて芝生を生産し始めて5年目。 - 生産した芝生を境港にある保育園に納めてもらった。 - 地域の特別支援学校の農業実習として、簡単な芝生生産の体験をしてもらっている。 <p>レノファ山口)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブが持つリソース（選手や試合会場、行政とのコネクションなど）を活用してもらいたい。 ・スポンサーの巻き込みも可能性あり。 ・クラブとしてもこれまでと違う形でファンを獲得できるというメリットがあると感じている。
<p>都道府県サッカー協会 中国サッカー協会 鳥取県サッカー協会 山口県サッカー協会 島根県サッカー協会</p>	<p>中国サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各県協会内に委員会および理事の方等が位置付けられているため、5県がそろえば中国協会としても組織を編成していかないといけない。 <p>鳥取県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術委員会の中に「普及部会」を設置し、その中で「キッズ、女子サッカー、フェスティバル、障がい者サッカー」の活動を実施していく方向。 ・ガイナレ鳥取と共に学校巡回指導を展開し、特別支援学校、ろう学校、盲学校等々のつながりもできた。その繋がりを生かし今後選手やチームの普及に繋げたい。 ・2020年8月に1回目の普及部会を開催し、各担当者が集まった。ガイナレ鳥取、ソーシャルフットボールの鳥取県チーム、現役の選手も一緒に会議に参加してくれた。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会の中に障がい者サッカー部門を組織化し、県内で障がい者サッカー関係者に集ってもらい、情報交換や新たな活動の創出などをしていければよい。 ・大会運営に関しては協会にノウハウがあるため、障がい者支援の専門家に入ってもらうことでこれまで障がい者サッカー大会運営の経験がない県でも開催可能と捉えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は医療法人等による現場実習や現場支援を受けられるよう連携していきたい。 ・ 指導者を増やしてくというのも中国地域としての取り組みとして良さそう。 <p>→障がい者サッカー指導者講習会を新しくできたチームの拠点（山口県、島根県）で1回実施し活動を知ってもらうなど。</p> <p>山口県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度からインクルーシブ委員会というものをサッカー協会の中に設置した。まずは現状調査に努める。 ・ 4月にはブラインドサッカーの受け入れ団体ができた。 ・ 10月24日には、知的障がい者サッカーや電動車椅子サッカーのスタッフの協力を得ながらイベントを実施した。 ・ 現在（10月時点）は月に1回ほど電動車椅子サッカー、ブラインドサッカー、知的障がい者サッカーのコアメンバーが集まり情報交換を行っている。 ・ 県内にはチームのない競技があるため、対象者がプレーを希望した場合の受け入れなどの対応をどうしていくか話し合っている。 ・ 昨年レノファ山口とのコラボ企画があり、インクルーシブのウォーキングサッカー「100人サッカー」をレノファのホームゲーム前に行った。今後もJリーグクラブと一緒にできれば、普及につながる。 <p>島根県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年から協会内に障がい者サッカー委員会を立ち上げた。 ・ 各競技のチームと協会の連携がまだない。 ・ 特別支援学校の教員ボランティアに頼りながらチームを運営している状況がある。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は各障がい者サッカー団体と協会を繋いでいきたい。 ・ 7競技団体の情報があまり入ってこないのが課題。各競技協会から情報を共有してもらえれば動きやすい。
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動としては、一つのカテゴリーでチームをつくることは難しいため、まぜこぜのサッカーやインクルーシブな場で色々な障がいを持った人が楽しめる場をつくっていき、普及と選手発掘に繋げていく。 ・ 連携としては、県協会の中でキッズリーダーは親和性が高いため、キッズの学校巡回指導を養護学級や特別支援学校などでも取り組んでいくことで普及と選手発掘に繋げる。 ・ Jリーグクラブは、これまであまり活動できていないクラブもあり、情報発信やホームゲームでの前座イベント、「シャレン！」等の活動に障がい者サッカー関係者が入って新しいアクションをつくっていけたら良い。 ・ JFA指導者リフレッシュ研修会障がい者サッカー指導コースを実施し、その中で障がい者サッカーに関わる人を増やしていくこと、マインドを広げていくこと等を各県で取り組んでいく。

<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各県の状況は違うが、それぞれインクルーシブ委員会が設立されている。ただし、まだ連携は薄く、各カテゴリーについて地域内の情報が掴みづらい状況。7競技の統括団体には、各県の委員会に人の推薦や情報の提供をしてもらうことで、横のつながりをつくっていくことが大切。 ・中国サッカー協会でも各委員会担当者を集めた組織を編成していく。
---	--



④参加者の声

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 5名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年には特にコロナ禍で情報が途絶えていた分、今回をきっかけに情報共有できたため ・コロナ禍の中での取り組みや御苦勞を共有できた。 ・改めて皆さまと繋がることができまして今後の活動に力をいただきました。あっという間に終わりました。 <p>■満足 10名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告の時間をいただけたことに感謝いたします。 ・積極的なディスカッションに参加できた ・様々な地域、分野の方と意見交換ができた。 ・各県の現状を知ることができた。 ・リモート会議でしたが、事前資料の充実と、スムーズな当日進行で有意義な内容だったから。 ・広島県内の状況をJFAやJIFFの方達から客観的に指摘していただいた点は良かったのではないかと思います。 ・普段接触の無い方の話が聞けた ・新しい方との出会いがあった為 ・岡山県内で活動されている方々と繋がることのできた。ファシリテーターの方がおられたので、とても参加しやすかった。 ・状況報告の時間をいただけたことに感謝致します。 <p>■普通 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな情報を得ることができたが、オンラインである程度の人数だと双方向性の感じが少ない。 ・ウェブ会議で大人数だったので、情報共有の場としては問題ないがコミュニケーションを深めたり議論が出来ないのが残念だった。障がい者サッカーこそ思いの部分も含めもっとみんなで話できるような場が適切だと思った。
---------------	---

感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・企画構成が良く考えられていたと思います。 ・よい会議でした ・昨年度の会議以降、各県とも動き出していることが確認できた。各県に独自性があり、地域に密着しているように感じた。 ・同じ中国地域でも県よっての進行度合いが異なるのでその差を埋めたいと思うが、なかなか埋まらないのが現状にある。 ・他県の状況もわかり参考になりました。 ・諸々とリモートでの進行に御配慮くださり、ありがとうございました。 ・グループワークだと色々と相談も出来るので良かった。 ・ファシリテーターの存在は大きかったです。各競技や地域ごとの活動を知れたので、参考になりました。ありがとうございました。 ・ファシリテーターが上手く話を進行されていました。 ・ウェブ会議なので仕方ないが、深堀が出来ないので今後もウェブ会議だけになるのは寂しい気がする。 ・広島県内では日頃からコミュニケーションを取る事があるため、他県ともっとコミュニケーションが取れたら良かったと感じました。 ・自己紹介以外発言の機会がない方もいらっしゃいましたのでもう少し参加者全員の発言の時間があれば良いと思いました。
来年の参加希望	<ul style="list-style-type: none"> ■参加したい 14名 ■参加したくない 0名 ■どちらでもない 1名
今後同様の会議を実施する場合の単位	<ul style="list-style-type: none"> ■実施単位 9地域ごと 9名 都道府県ごと 2名 どちらも 2名 その他 2名 ■「その他」の意見 ・全国 ・今回のように9地域もありです。他に発達障がいに関わる団体があれば是非その団体とも連携を取りたいです。 ■コメント ・県内では情報収集可能なので、9地域がよろしいかと思います。 ・現行通りで良いと思います。各都道府県単位での集りはそれぞれの単位で頑張れば良いと思います。 ・地域が大きくなればなるほど、細かい部分までの対応策が出来ないので例えば各都道府県のみで実施するのは各地域の問題が明らかになる分、活動普及の増進にもつながると考えます。 ・他県との情報交換、交流もできれば嬉しいです。
その他要望	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、他地域で発達障がいに関わっている団体とか有れば知りたいです。 ・各県の組織に違いがあり、地域FAとしてどのような組織づくりがいいのか・・・他地域の現状をお聞きしたい。 ・アフターコロナになっても、会場費や交通費の節約等を踏まえると、毎回とは言わなくてもリモート会議は有効かと感じました。 ・コロナ収束の際には集まって会議する場を作って欲しい ・発達障がいの情報があればこちらからも提供しますが、教えていただけると有り難いです。

(10) 四国

①会議概要

開催日時	2020年9月24日（木）会議 18:00～20:00
開催場所	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 7分 - 休憩 10分 - 4. ディスカッション 80分 5. 写真撮影 3分
参加人数（実数）*	33名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	4名
9地域サッカー協会	1名
都道府県サッカー協会	6名
Jリーグクラブ	7名
Jリーグ百年構想クラブ	0名
その他サッカー関連団体	0名
アンプティサッカー	1名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	2名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	1名
電動車椅子サッカー	4名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	1名
デフサッカー／ デフフットサル	1名
その他障がい者サッカー 関連団体	0名
JIFF	4名
合計	34名

部門別人数

役員・管理職	10名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	12名
管理部門	8名
強化・指導者	2名
選手	1名
合計	33名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
四国サッカー協会	四国サッカー協会および各県サッカー協会の担当者が集まり、会議や障がい者サッカー大会・イベント等の視察を行っている。2020年よりまずは4年間、県サッカー協会の持ち回りでインクルーシブイベントを開催することとなった。2020年度は愛媛県にて開催予定。
全体ディスカッション	
アンプティサッカー 日本協会	■活動状況 ・2019年度、西日本交流戦を開催した。 ・2020年度に関してはコロナの影響で、四国地域での普及の目途は立っていない。

<p>CPサッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国で活動しているチームはない。 ・FC今治の岡田武史氏が日本CPサッカー協会のアンバサダーを務めているため、イベント開催予定だった（コロナのため断念）。ホームゲームではイベントを実施した。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPのみで各県に1チームというのは難しい。四国として1チームできるような取り組みをしていきたい。 ・2021年にかけて四国の中で普及イベントを開催したい。
<p>ソーシャルフットボール 日本協会 愛媛オレンジスピリッツ</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国4県全てにチームがあり活動している。 ・各チームの選手数が少ないため、全国大会出場の際は選抜チームを作って出場している。 ・2021年は全国大会を徳島県で行う（四国では初開催）。 <p>■Jリーグクラブとの連携</p> <p>愛媛FC：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛オレンジスピリッツの活動 <p>徳島ヴォルティス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月練習会を実施。 ・ホームゲーム時に、前座試合を実施。 ・徳島県選抜メンバーの練習会に徳島ヴォルティスのコーチを派遣いただき、実践的な練習をすることができた。 <p>■県サッカー協会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徳島県サッカー協会には、大会開催の際の会場の予約から、学生・審判の調整等を依頼している。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会開催時などに県サッカー協会やJリーグクラブの協力を得られる体制を今後も継続していきたい。 <p>愛媛オレンジスピリッツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛FC立ち上げの際から13年間ソーシャルフットボールの活動を行っている。 ・月2回、練習はほぼ愛媛FCさんをお願いをして実施している。 ・コロナ禍では活動休止だったが、現在は通常通り活動している。 ・選手は入れ替わりもあるが人数も増えてきた。 ・チーム運営スタッフの確保が課題。 <p>→今後練習等は技術面は愛媛FCにすべてお願いする予定。</p>
<p>知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル よさこい高知FC</p>	<p>よさこい高知FC)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人チームで中学生から参加できる。 ・15名弱で活動している。 ・2019年のフットボールデーで日本知的障がい者サッカー連盟の女子委員長に来てもらい、体験会を開催した。 <p>→小学生が多く選手獲得には繋がらなかった。</p> <p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技レベルに差があるため、方向性を決めかねている。 <p>その他)</p> <p>■普及活動</p>

	<p>・愛媛県では練習計画を各市町村教育委員会、施設作業所等に練習会の予定を送って情報発信している。</p>
<p>電動車椅子サッカー 日本協会 高知県電動車椅子サッカー協会 愛媛県内特別支援学校チーム</p>	<p>■活動状況</p> <p>・クラブチームとしては香川県と高知県で1チームずつ活動している。</p> <p>高知県電動車椅子サッカー協会)</p> <p>・コロナの影響もあり活動は滞っている。 ・以前はチームとして電動車椅子を3台ほど所有していたが、チームがほぼ解散状態のため、2年ほど個人で預かってもらっている。 →県のスポーツセンターに譲渡し、普及につなげてもらいたいと動いている。</p> <p>愛媛県内特別支援学校チーム)</p> <p>・コロナ禍で練習を休止し、再開の目途がたっていない。</p>
<p>ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>・四国で活動しているチームはない。 ・盲学校などとのリレーションが築けてはいない状況。 ・ブラインドサッカーチームを立ち上げるような具体的な動きもまだない。</p>
<p>デフサッカー／デフフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <p>・四国で活動しているチームはない。 ・選手や希望者がいないわけではなく、U-23日本代表選手もいる。</p> <p>■今後に向けて</p> <p>・イベントや学校訪問等、ろう学校に行ってサッカーに触れる機会をつくりたい。 ・都道府県サッカー協会を經由して、登録者、登録チームに対し聴覚障がい者がプレーしているか確認できるのでは（アンケート等)</p>
<p>Jリーグクラブ 徳島ヴォルティス 愛媛FC FC今治 カマタマーレ讃岐</p>	<p>徳島ヴォルティス)</p> <p>■活動状況</p> <p>・2012年ごろから徳島県の精神科病院協会、精神保健福祉協会と一緒に交流会を始め、全国大会まで行けるような体制で活動している。 ・月に1回、徳島ヴォルティスの練習場で練習会をしている。 ・ホームタウン推進部の普及コーチが8名おり、様々なコーチと共にサッカーを通じて自信を持たせたり、社会復帰を目指すような活動をしている。 ・ホームゲームでは、前座として精神障がい者や発達障がいの子どもたちも一緒に合同イベントなどを開催している。 ・ヴォルティスの前身である大塚製薬サッカー部時代は、電動車椅子サッカーにも選手が出向いていた。現在は行えていないが、今後7団体一緒に顔合わせなどからしていきたい。</p> <p>愛媛FC)</p> <p>■活動状況</p> <p>・ソーシャルフットボールの活動が、今年で13年目となる。 ・コロナの影響で中断したが、現在は通常通り月に2回、練習会を実施している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数も少し増えてきた。 ・今週末のホームゲームで、知的障がい者チームとスクールの大人コースで試合を組んで実施予定。 <p>FC今治)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、夏に主催している「BARI CUP」にCPサッカーのエスペランサを招待し、少年団の子どもたちとのフレンドリーマッチを例実施している。(2020年度はコロナで大会中止) ・愛媛県サッカー協会が取り組んでいる知的障がい者サッカーの練習会にスタッフが参加。7月から3回程度子どもたちと一緒に練習している。 ・今夏、発達障がいおよび知的障がいのある児童を対象にしたサッカー教室を主催した。 <p>ノウハウがないため、今治にある特別支援学校や四国サッカー協会インクルーシブ委員会、障がい者サッカーチームの方にも手伝ってもらった。</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今治にも障がいのある子どもたちを対象にした放課後デイサービスがあるため、今後はそこで子どもたちを対象にした出張サッカー教室を実施したり、ホーム戦の前座イベントで、インクルーシブのウォーキングサッカーや、ブラインドサッカー体験会も実施していきたい。 <p>カマタマーレ讃岐)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでクラブとしては障がい者サッカーの関連の実績がない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後実績もつくっていききたいが、まずは担当者個人がイベントや大会を視察することから始め、ゆくゆくは共催や開催をしていきたい。
<p>地域および都道府県サッカー協会</p> <p>四国サッカー協会 香川県サッカー協会 徳島県サッカー協会 愛媛県サッカー協会 高知県サッカー協会</p>	<p>四国サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年の愛媛国体の際に、愛媛県でインクルーシブ委員会を立ち上げ、知的障がい者サッカーを協会でサポートすることになった。 ・2018年より四国サッカー協会のほうで、活動予算を10万円確保している。 ・四国インクルーシブ委員会では、競技力の向上よりも、グラスルーツの活動にしっかり取り組んでいく方向で動いている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後4年間は、各県からの視察費を10万円の中に必ず組み込み、残りの予算を各県で行うイベントの補助にする意向。 ・情報量の少なさが課題。 <p>→四国全域でインクルーシブ委員会担当者が5名しかいないため、7団体から要望等を積極的に声がけしてほしい。</p> <p>香川県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p>

・電動車椅子サッカー、ソーシャルフットボールのチームが1つずつ活動中。それ以外の活動や動きについては、把握できていない。

・毎年、JFAの障がい者サッカー活動関連として支援を受け、これまでブラインドサッカー体験会や、アンプティサッカー大会の支援、ソーシャルフットボールの大会支援などを行ってきた。

■今後に向けて

・2020年11月7日にフットボールデーを構想しているため、体験会などを一緒に開催してくれる団体を探している。

・それ以外の大会やキャンプ、合宿等も歓迎。できる限りの協力をしたい。

・このミーティングに各地域・各県の養護学校、盲学校、ろう学校等、学校関係者にも参加してもらえるとニーズや要望を拾い上げられるだけでなく、選手発掘にも繋がるのではないかと。

徳島県サッカー協会)

■活動状況

・2020年2月、四国で初めてデフサッカーU-23日本代表合宿を徳島で開催した。その後、徳島ヴォルティスの開幕戦を選手と一緒に見学させてもらった。ハーフタイムでは、スタジアム内でデフサッカーの選手を紹介する機会も作ってもらった。

→その後、観客が合宿の様子を見に来てくれた。

■今後に向けて

・今後も合宿の招致は積極的にしていきたい。

・今後ろう学校でのサッカー教室などの普及活動も継続していきたい。

・障がい者サッカーの知識がある審判の養成が課題。

・もっと病院、学校の先生、地域の大学生、特に養護教育を学んでいる大学生などを巻き込んでいきたい。イベントの運営で手伝ってもらうこと、現場を見てもらうことが一番の普及・教育になる。

愛媛県サッカー協会)

■活動状況

・毎週土日に障がい者を対象とした練習会を主催している。今年度はコロナのため中断したが、7月から再開している。

・今年度は、FC今治のスタッフも視察に来て、一緒に練習もしている。

・月に最大4回ほど地域のスポーツ少年団やクラブチームとも、合同練習を実施している。

障がい者のチーム単体では人数が少ないため、合同練習をすることで指導者のスキルアップや選手のレベルアップが図れている。

・2020年12月に電動車椅子サッカーの体験会とウォーキングサッカーを実施予定。

→しげのぶ特別支援学校から電動車椅子を借りたり、地域の少年団、高校生などにも声がけしていきたい。

高知県サッカー協会)

■活動状況

	<ul style="list-style-type: none"> ・協会としての障がい者サッカーの活動は全くできていない。 ・フットボールデーを6月に実施予定だったが、コロナで延期となった。
--	---



③参加者の声

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 4名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて参加させて頂きましたが、障がい者サッカーについて実際の経験に基づいた現場の話をお聞きすることが出来たことはとても大きな意味があったと感じています。 ・各県の現状や成果、課題を聞くことにより、本県で今後推進していく課題や目標を見つける参考になった。 ・四国インクルーシブ委員会として、7団体と交流を持てたことは今後につながる。 ・崇高な志を具体化していく努力に感めいした。 ・各地の活動報告が聞けてよかった。コロナ禍でどこの方も苦勞してる中工夫しようとしており励みになった。 <p>■満足 11名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて参加させていただき、7団体の現状や今後に向けての課題が見えたことが良かった。 ・お会いする機会の少ない団体の方々と交流が出来た為 ・個人や地元では、聞くことのできない状況や取り組みを聞くことが出来て、有意義だった。 ・各県の取組の状況を知ることができた。特に徳島県の、協会が各団体と協力して行っている取り組み方は参考にしたいと思う。 ・サッカーを通じての共生社会の実現が期待されるから ・少しずつでも進捗があったように思うため。 ・会議によって各県の問題点や課題が分かりました。みなさん前向きなご意見で今後の発展にも期待出来ると感じました。 ・各県や各競技の現状が分かったことと、今後、取り組むべきことが見えてきたため。 ・初めての参加でしたが、各地域での活動を知ることができました。 ・他団体の取り組みが聞けたことが良かった。 ・各県や団体ごとの活動がしれた。 <p>■普通 1名</p>
---------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグだけでなく障害種別毎の先進事例の情報を知りたかった <p>■不満 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繋がりのお機会についてさらに具体的なやり取りが必要だと思います。単なる活動の実情についての焦点化はこの連携会議の場においては疑義を呈するところです。特にディスカッションでは地域内での話の共有のみに終着せず、地域から「7団体の中央」に向けて具体的な連携の手がかりとなる発信がキーポイントとなるように思います。また、7団体の中央の各リーダーからも該当地域に根差した独自の展望例の提示は必要不可欠と感じ、わたし自身も反省しております。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いているとソーシャルフットボールやブラインドサッカー、デフサッカーのイベントや認知度が高いと思った。 ・各地域や組織の現状を知ることが出来て、参加してよかったと感じました。同時に弊クラブの障がい者サッカーに対しての取り組みはゼロに等しく、地域を代表するプロクラブとしてもっと真剣に取り組むべきと感じた。 ・現状としては今の体制が望ましいと思うが、四国独自に出来るようになるのが理想だと思う。 ・全国会議から9地域会議にすべて参加させていただいていますが、少しずつ方向性が出てきていると感じる。各県や各Jクラブともインクルーシブサッカーの認知はできたと思う。これからは、どのように活動していくかの具体的な内容を進めていきたい。 ・まだ情報収集段階なのだと思いますが、活動ができていない県に具体的に提案ができたり、近県との協力体制をJIFFから提案できるようなシステムを作ってもらいたい ・FAも各競技団体も、既に障がい者サッカーをやっている選手の外にいるまだやっていない障がい者の方との接点が少ないように感じられました。暗中模索で苦しんでいる状態かと。 ・9地域だけでなく、都道府県ごとにもこのような会議があれば、もっと踏み込んだ話し合いができるのではないかと思います。 ・対象となる人数の差があるので仕方がないと思うが障がい者の種別による各県のサポートに温度差がある。主となる部署を設置して偏りがないような配慮も必要かと感じた。 ・全体の報告とテーマを絞ったディスカッションがあれば良いと思います。 ・四国4県の年間の事業予定などが分かるようであれば、データで見せてもらえれば、質問や視察が行いやすい。 ・各団体が発言するスタイルだと挨拶だけで結構時間を取られてしまうのが残念でした。 ・回線も問題なく情報交換ができ良かったです ・初めてオンラインでの実施だったが、特にやりにくさはなかった。顔を合わせて行う良さもあるが、移動に伴う時間等を考えるとオンラインで行なう方が負担は少ない。 ・多くの方が参加されており、いろいろな活動を聞いて勉強になりました。 ・他団体の取り組みが聞けたことが良かった。
来年の参加希望	<ul style="list-style-type: none"> ■参加したい 16名 ■参加したくない 0名 ■どちらでもない 1名

<p>今後同様の会議を実施する場合の単位</p>	<p>■実施単位</p> <table border="0"> <tr> <td>9地域ごと</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td>都道府県ごと</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>どちらも</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1名</td> </tr> </table> <p>■「その他」の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JIFF、Jリーグ、サッカー協会、ソーシャルフットボールの9地域代表冷静に俯瞰視するためにもクールダウン期は必要かと思います。ただしなんらかの活動はすべきだとも思います。フットボールカンファレンスの障がい者サッカー版の機会構築に期待しております。ぜひパラフットボール先進国の先進的事例についてみなで知見を深め、日本版モデルの構築など共有できれば良いのではないのでしょうか。 <p>■コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四国の場合は、地域が望ましいと思う。 ・ 現在のままで当面は良いと思う。 ・ 都道府県では3回/年位 ・ 9地域で集まり、そこでの課題をもう一度各県で共有できるようにしたい。 	9地域ごと	8名	都道府県ごと	2名	どちらも	5名	その他	1名
9地域ごと	8名								
都道府県ごと	2名								
どちらも	5名								
その他	1名								
<p>その他要望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グルーピングしてディスカッションするスタイルも良いかなと感じました。 ・ 国内の障がい者サッカー事業の好事例を会議の時だけでなく、日常から伝えていただければ幸いです。 ・ それぞれの県に、それぞれの障がいを持った方が何人いるのかすらわからない状態です。学校や自治体の協力・連携が必要だと感じています。 ・ 会議の中でも挙がりましたが、各団体の選手発掘には個々では限界があり（支援学校との関わりや繋がりが少ない等）県単位では人数も少なくカバーしきれていない。地域（例えば四国サッカー協会内に）ごとにJIFFの支部的な組織を立ち上げ、専属の普及員を配置することで各県の支援学校やJリーグ、県サッカー協会を同レベルで廻ることで普及や選手発掘に繋がるのではと考えます。 ※現状は各地域の委員の大半は別の仕事をしているので、ボランティアでの関りとなっていますので活動にどうしても制限があり、動きが鈍くなっています。 また、地方であるほど県や市町村の公的機関によるサポートを頂けるような環境が必要でないのでしょうか。 ・ 四国グループだけでの話などがもしなかったら実施検討頂きたいです。 ・ 潤沢な予算（助成基金）がついているかと思いますが、連携会議において「魅せ方・作り方（音楽・造形表現も含む）」について外部の精通した者へ外注することも必要ではないのでしょうか。わたしの至らなさもありますが、いまいちお金をかけている点があまり感じ取れません。ただ毎度あげていただく資料は非常に見やすいです。 								

(11) 九州

①会議概要

開催日時	2020年10月22日（水）会議 18:00～20:00
開催場所	オンライン（Zoom）
スケジュール	1. ご挨拶・本会議について 5分 2. 2019年度「9地域障がい者サッカー連携会議」振り返り 15分 3. 取り組み事例の共有 20分 地域内の新規事例共有 7競技団体の地域内での状況や展望の共有 4. グループディスカッション 65分 5. ディスカッション概要共有、写真撮影 15分
参加人数（実数）*	55名

*参加者属性：

組織別人数（重複あり）

JFA	2名
9地域サッカー協会	1名
都道府県サッカー協会	14名
Jリーグクラブ	15名
Jリーグ百年構想クラブ	1名
その他サッカー関連団体	0名
アンパティサッカー	3名
CPサッカー	2名
ソーシャルフットボール	3名
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	4名
電動車椅子サッカー	3名
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル	3名
デフサッカー／ デフフットサル	1名
その他障がい者サッカー 関連団体	0名
JIFF	4名
合計	56名

部門別人数

役員・管理職	19名
グラスルーツ・普及・ホームタウン	20名
管理部門	10名
強化・指導者	5名
選手	1名
合計	55名

②会議内容

地域内の新規事例共有	
大分県サッカー協会	大分トリニータとの共催で全障がい種参加の「第一回ごちゃ混ぜサッカー大会」を開催した。大分で初めての健常者と障がい者のウォーキングサッカーだったのでいろいろハプニングがあったが楽しくできた。感染対策などいろいろ大変だったが、J1のゲーム観戦も楽しむことが出来て盛況のうちに実施することができた。
宮崎県サッカー協会	第3回ユニファイドスポーツフェスティバル、県協会主催パラフットスクールの開始。県サッカー協会主催にて強化の意味合いを持つスクールをスタートした。指導者はサッカー協会の有資格者を主体とする。

アビスパ福岡	アビスパ福岡サッカースクールの家族とアビスパ福岡がサポートしているブラインドサッカーチーム：ラッキーストライカーズ福岡の合同キャンプを企画。（コロナの影響により中止）
ギラヴァンツ北九州	2020年12月に福岡県直方市にてアンプティサッカー体験&ギラヴァンツサッカー教室を開催予定。
7競技団体の地域内での状況や展望の共有	
アンプティサッカー	<ul style="list-style-type: none"> 九州初の公式戦・西日本アンプティサッカーリーグ(2020年9月予定→中止) 2021年度西日本リーグ九州地域開催の共催/コラボレーション 健全者チームのアンプティサッカー部門新設支援 FC九州バイラオール九州地域での取組(大分/宮崎/福岡/長崎)
CPサッカー	<ul style="list-style-type: none"> ソサイチ九州リーグとのコラボレーションで、試合や体験会等の普及イベントを実施予定（本年度は中止） 時々、九州在住の方から問い合わせがあるが、現状受け皿がない。CP選手がサッカーができる環境（受け入れてもらえるチーム）をつくるための連携がとれる体制が欲しい。
ソーシャルフットボール	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャルフットボール九州大会2020（2020年6月→中止） 第13回九州・四国スカンビオカップ（ふれあいスポーツフェスタ in福岡大学）（2020年12月予定→中止）
知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル	<ul style="list-style-type: none"> 知的障がい者女子のトレセン（本年度中止） フットサル九州地区トレセン
電動車椅子サッカー	<ul style="list-style-type: none"> 2020年鹿児島国体のオープン競技にて、電動車椅子サッカー都道府県選抜対抗全国大会を開催予定していた。（全国障害者スポーツ大会自体が2023年に延期）
ブラインドサッカー／ロービジョンフットサル	<ul style="list-style-type: none"> 西日本リーグ2019を行橋市にて、西日本リーグ2018を福岡大学で実施(直近予定している取り組み無し) どう、障がい者サッカーと連携すると、47FAやJクラブへのメリットが生まれるのか。支援もそうだがそこまで議論できるとよいと思うので、所感があれば伺いたい。
デフサッカー／デフフットサル	<ul style="list-style-type: none"> 11月1日V・ファーレン長崎 vs 水戸ホーリーホック戦でデフサッカー体験教室・デフサッカー選手講演会を実施。 活動を知ってもらおうきっかけ作りのご協力をお願いしたい。
グループディスカッション	
グループ1（福岡県）	
（1）状況・課題・要望の共有	
アンプティサッカー FC九州バイラオール	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> アンプティサッカーの九州の唯一のチーム。 本拠地は大分だが所属選手は長崎県以外の全県に所属している。 長崎にもスタッフがいるので、九州全域にスタッフおよび選手がいる状況。 <p>■定期的なディスカッションについての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインで定期的なミーティングであれば3か月に1回、第3火曜日とか、そういった時間や曜日を決めてやれば、定期的に情報交換やイベントのミーティングの共有等ができるのではないか。

知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル 福岡県知的障がい者サッ カー連盟	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の知的障がい者サッカー連盟自体はかなり前から存在している。 ・3、4年前に一度組織を整理すると同時に福岡県選抜チームを立ち上げた。 ・知的障がい者サッカーの九州リーグや全国大会の予選大会などに県の代表チームとして参加している。 ・活動が始まったばかりのため普及が必要。
デフサッカー／ デフフットサル 日本協会	<p>■要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年程前にFC九州バイラオールの練習にラッキーストライカーズ福岡とデフサッカーのメンバーらで参加し、20～30名ぐらいが集まり盛り上がった。そういった場を増やしていけたら。 ・2020年3月に「デフリンピック」のアジア予選があるため、もしJリーグのホームゲームでPRの場を提供してもらえるのであれば有難い。
Jリーグクラブ アビスパ福岡 ギラヴァンツ北九州	<p>アビスパ福岡)</p> <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なディスカッションの場としては、ざっくばらんに色々な話をできるよう、オンライン飲み会が良いのではないかな。 ・一緒にサッカーをする場などを設けて各団体の関係者を呼び合せて集めることができれば理想的。 <p>ギラヴァンツ北九州)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年、中間市で知的障がい者サッカーの体験会を実施した。 ・今年12月には、バイラオールと一緒にアンプティサッカー教室を直方市で実施する予定。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームゲームの試合の際は何かPRできるような場を提供できるのではないかな。例えば、障がい者サッカーを大型ビジョンで紹介したり、前座イベントとして体験等を場内で実施することも検討可能。（ただし、コロナ禍では様々な制限がある状況） ・定期的なディスカッションの場については、本音としては直接顔を合わせて話したい。
都道府県サッカー協会 福岡県サッカー協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか障がい者サッカーの活動ができていない状況。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年知的障がい者サッカーの九州予選が実施されるので県庁の方と一緒に相談に来てくれた。審判派遣など踏まえ応えていきたい。 ・協会として何かを主催するのは難しいが、相談や要望等があれば出来る限り応えていきたい。
(2) ディスカッションまとめ	
テーマ1：インクルーシ ブな場、指導者養成の場 等、各地域の課題や普及 状況に応じた障がい者サ ッカーの活動の場を考案 する	Jリーグクラブからは、コロナ禍でイベントとして人を集めることは難しいが、動画などでのPRはできるのではないかなという提案があった。

<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<p>LINEのオープンチャットなどを活用し大会スケジュールや互いの活動を随時共有できる関係性をつくっていく。</p>
<p>グループ2（大分県）</p>	
<p>（1）状況・課題・要望の共有</p>	
<p>アンプティサッカー 日本協会 FC九州バイラオール</p>	<p>FC九州バイラオール) ■活動状況 ・大分が拠点のチーム。 ・2011年の第1回日本選手権大会から参加している。 ・現在は、大分在住には4名のみで競技の継続が課題。 ・他県のチームに所属している選手は、練習へのアクセスのハードルが高い。 ・資金面も厳しい状況。 - 現在二つの公式戦が関東と関西で開催されており、参加するにはいずれも長距離の遠征となる。 - スポンサーを募集していたが日中に動けるメンバーがおらず獲得に至らなかった。 - 大会は競技者自ら出して参加という形がほとんど。日本協会から支援をするという動きも出てきているようだ。</p>
<p>ソーシャルフットボール 大分県ソーシャルフットボール競技会</p>	<p>■活動状況 ・中津市の精神科の寺町クリニックを母体として3年前から活動。 ・2019年に中津市の行政と連携し、各県からソーシャルフットボールチームを呼び大会を2回行った。 - 健常者の一般社会人チームなども招き参加者は全体で200名ほどにのぼる。 - 大会の予算はクリニックと地域の寄付で必要最低限は確保できた。 - グラウンドの確保は教育委員会等が全面的にバックアップしてくれた。 ・活動資金面では、大分県中小企業家同友会や経済界がバックアップしてくれている。限られた中でできることを行っているため現状不足はない。</p>
<p>Jリーグクラブ 大分トリニータ</p>	<p>大分トリニータ) ■活動状況 ・今年「ごちゃ混ぜサッカー大会」をFC九州バイラオールと日本ブラインドサッカー協会の協力を得て開催した。 ・体験会としては、アンプティサッカーやブラインドサッカーを実施。 ・ホームゲームでは、障がい者サッカーの体験コーナーを設けた。 ・指導者派遣は、障がいの種別ごとにそれぞれの協会に依頼してホームゲームに直接来てもらい実施している。 ・現在、大分県やスポンサーから活動に理解を示してもらい、活動は多方面でできている。 ■今後に向けて ・今後はタイミングが合えば、東京などからゲストを呼んで、大きな障がい者サッカーフェスティバルのようなものを開催したいと思っている。</p>
<p>都道府県サッカー協会</p>	<p>大分県サッカー協会) ■活動状況</p>

<p>大分県サッカー協会兼大分県障がい者サッカー協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年に協会内にパラ委員会を設置。 ・大分県障がい者サッカー協会が発足してから10年以上経過。 ・大分県障がい者サッカー協会の理事会には知的障がい者サッカー、デフサッカー、太陽の家等が参加。 ・これまで実施できていなかった「障がい者サッカーフェスティバル」が2020年は開催できた。 ・各種体験会は実施できている。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼があれば、場所の提供や指導者派遣も可能。（相談窓口は大分県障がい者サッカー協会） ・関係者から「協会に相談すれば何とかなる」と思ってもらえるようになっていきたい。 ・現状は大分県障がい者サッカー協会と大分県サッカー協会パラ委員会の認知度が低いため改善していきたい。 <p>■太陽の家との繋がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州にはCPサッカーのチームがないという話があったが、大分には「太陽の家」という施設があり、その中にCPサッカーの活動がある（日本CPサッカー協会は未登録）。 <ul style="list-style-type: none"> - 長年活動してきた歴史があるため、ソーシャルフットボールや知的障がい者サッカーなども含めた複数の種目の活動ができている。 - 大分県が「インクルーシブ委員会」という名前にしない点は「太陽の家」の存在が大きく、あえて「パラ」という名称を使用している。 - これまで、障がい者スポーツの受け皿としてまず「太陽の家」に相談し、そこから各協会に流れてくる背景があった。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を共有したところ、指導者の不足、選手が安定的に活動を継続できないなどの課題が目立った。 ・日常的なリレーションとしては、大分県サッカー協会と大分トリニータが開催するイベントに参加する団体やチームが増えていき、場がより大きくなっていくことで自然と連携の流れができていく。その際に、ごちゃ混ぜサッカーのようなイベントが軸になっていくのではないかという話があった。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<p>年に2回、大分県障がい者サッカー協会として理事会を開いている中で、横断的な交流の場が既にある。</p>
<p>グループ3（熊本県&宮崎県）</p>	
<p>(1) 状況・課題・要望の共有</p>	
<p>ソーシャルフットボールチームドラゴン 九州ソーシャルフットボール協会 熊本精神障がい者フットサル協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本県では「熊本スカンピオカップ」を開催するなど活動が広がってきている。 ・九州各県で足並みを揃えたり九州のどこかでやりたいと要望を受けた際、場の調整や広報ができない状況。 ・九州で「ソーシャルフットボール協会」を設置し、宮崎県の人材発掘に出向く予定。 ・地域の協会を作ることによって、Facebookで直接当事者の方から連絡が入ったりする。

	<p>・熊本県の精神科領域の中では、どちらかというなどはじめ広報として、誰でも参加できる大会を運営をしている。宮崎県と同じように、熊本県も県が縦に長いので、県北と中心部と県南とで拠点病院を作り、各地域にイベントを割り振って活動している。</p> <p>■今後に向けて、要望</p> <p>・今後は広報的な普及活動と、より競技的としてプレーしていきたい子どもの2つを支えられるような環境を作っていく。</p> <p>・トレセン活動プラス広報活動として、九州の競技レベルの高い選手が他県に行き、テゲバジャーロ宮崎と一緒にイベントやりたいと相談した。</p> <p>・ロアッソ熊本と連携していけば知らない方にも知ってもらう機会にもつながる。</p>
<p>Jリーグクラブ ロアッソ熊本</p>	<p>ロアッソ熊本)</p> <p>■活動状況</p> <p>・2、3年前までは人員を割けないような体制だった。</p> <p>・今はロアッソ熊本スポーツクラブという新しい部署で、スクールや巡回などに力を入れるようになってきたので、これから積極的にやっていきたい。</p>
<p>地域および都道府県サッカー協会 九州サッカー協会 熊本県サッカー協会 宮崎県サッカー協会</p>	<p>九州サッカー協会)</p> <p>■今後に向けて</p> <p>・協会として毎年2月に3種、4種の選手と指導者向けの講習会「九州サッカー育成シンポジウム」を開催しており、併せて何かできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ファイナルトレセンと抱き合わせで開催しているため、トレセン関係者や子どもたち（小6、中1）もいる。 - 県協会の予算でスタッフや選手も派遣されてくるため、同じ場に様々な障がいのある選手や関係者にも集まってもらい、宇城のアカデミーのスタッフから障がい者サッカーの指導者にレクチャーできる場があるのもよい。 - 今後は同じ場に女子や障がい者サッカーも巻き込んでいきたい。 <p>熊本県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <p>・当事者から「サッカーをしたい」という連絡を受けてもアクセスの問題などで練習に参加してもらえないことが多い。</p> <p>・体験会などを実施したいと思うが、マンパワーが足りないため、ロアッソ熊本などに協力してもらえたら有難い。</p> <p>・小中学校までは健常のクラブと一緒にプレーできる選手も多いが、高校以降はプレーの場がなかなかない。</p> <p>・特別支援学校にはグラウンドがあるため、地域の活動拠点になるのが理想的だが熊本県の支援学校にはサッカー部が少ない。</p> <p>・年に1回「フットボールデー」を県協会主体で実施している。その一部で、ロアッソ熊本のホームゲームの前座として障がい者サッカーの体験会も行っている。</p> <p>・テゲバジャーロ宮崎県とも連携している。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 現在は知的障がい者サッカーの活動やロービジョンフットサルの体験会。

	<p>- 今後はソーシャルフットボールも一緒に活動していきたい。</p> <p>宮崎県サッカー協会) ■活動状況 ・県協会主催でパラフットスクールを開催するにあたり特別支援の教員が指導者として活動。 ・将来的には県北、県央、県南で開催していき月1~2回ペースで行っていききたい。それが継続していけるようになったら選抜チームをつくりたい。 ・テゲバジャーロ宮崎とも連携している。 ■今後に向けて ・知的障がい者サッカーだけでなく、ユニファイドということで、違う障がいの子どもたちも集めた体験会やイベントを行いたい。 ・宮崎県にチームがない種目については、県外のチームを紹介するなどの仕組みを整えていきたい。</p>
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<p>近くに活動場所がない当事者のためにも、いくつか拠点を作ることが必要。場所だけでなく人がいないと進まないで、Jクラブのコーチなどの協力を得ながら場を作っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校などの体育の授業に体験会等を組み込むことも検討し、予算を取り指導者を派遣することも可能ではないかという話し合いをした。 ・放課後デイサービスでは、学校が終わったあとに拠点まで送迎を一緒にサッカーを楽しむという活動をしているところもある。そのような活動も仕組みや助成金を使って実施できるのではないか検討した。 ・指導者養成では、九州協会など各県がカンファレンスやシンポジウムを開催しているので障がい者サッカーも紹介してもらったり、障がい者サッカーコースを開催して仲間を作っていく。 ・情報発信は難しいので、都道府県サッカー協会やJクラブで情報収集から発信までできるよう連携していく。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既に宮崎県・熊本県は協会内で障がい者サッカー部門が組織化されているので、より人を増やして広げていく。
グループ4（鹿児島県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
<p>ソーシャルフットボール 日本協会 九州ソーシャルフットボール協会</p>	<p>■活動状況 ・九州のチーム数の変動はなく、12~15チームが活動。</p> <p>こだまユナイテッドの活動について) ・選手数も増えて、競技レベルも向上しており、サッカーをすることで治療的にも非常に意義があると聞いている。</p>
<p>知的障がい者サッカー／知的障がい者フットサル 鹿児島ユナイテッドFCフューチャーズ</p>	<p>鹿児島ユナイテッドFCフューチャーズ) ■活動状況 ・チームは立ち上がって今年2年目。 ・1年目は毎週1~2回の練習だったが、今年度から金曜夜は始良にのフットボールセンター、日曜日は鹿児島市内をメインとしてトレーニングや練習試合・公式戦を実施。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・練習試合も中学生や高校生とできたり、社会人リーグにも登録して社会人とも試合ができています。 ・少しずつ選手が増えてきている状況。 <ul style="list-style-type: none"> - 鹿児島ユナイテッドFCからの発信があるため、問い合わせをもらうことがある。 - 今まで特別支援学校の大会で選手が入ってくるが多かったが、中学校の特別支援教室の生徒も興味を持ち加入したり、気軽に練習参加をしてくれる。
<p>電動車椅子サッカー 鹿児島県電動車椅子サッカー協会 Nanchester United 鹿児島</p>	<p>鹿児島県電動車椅子サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国障害者スポーツ大会が延期となり、2023年開催に決定したのでこれから本格的に動いていく。 ・コロナにより大会が全部中止になり活動もあまりできていないため、いくつかの競技を合わせた試合形式の大会など、選手のモチベーションを上げられる機会があれば嬉しい。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、鹿児島県サッカー協会のドリームサッカーには招待される立場だが、今後実行委員の話し合いに参加させてもらうことができれば、交流しながら、ディスカッションもでき、大会運営やイベント運営のノウハウも得られるので有難い機会になると思う。 ・今後の組織体系としては、鹿児島県サッカー協会の中に委員会という形で組織をつくり、鹿児島県内のサッカーを取りまとめていける形が良いと思う。 ・定期的なディスカッションの場としては、かしこまった会議ではなくざっくばらんに話し合いができる場を月に一回、2か月に一回程度で設けていけたらと思う。 <p>Nanchester United 鹿児島)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームの活動歴は17年目。 ・鹿児島市内のハートピアかごしまという場所が拠点。 ・毎週1回チーム練習を行っている（コロナ禍ではなかなか練習できず）。 ・全国大会に出場していい結果を残す、優勝することを目標に活動している。 ・現状、新しい選手が体験に来る等はないが、何人か興味があるので練習に来たいと聞いている。コロナが落ち着けば一緒に体験など行い、チームに加入するなりサッカーを楽しんでもらえたらと思っている。 ・コロナの中練習や大会がなくなりモチベーションが下がっていたが、繋がりを持てる場を求めてSNSを使ってインスタライブ等の発信をした。 <p>→印象的だったのは、CPサッカーの関西のチームの選手繋がり、会話が盛り上がったこと。練習も平行しながらSNSを使った活動も重要と感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競技の認知度を上げていきたい。 ・何かのイベントと併催の形で、各団体が集まりまぜこぜサッカーなど、同じボールをつないでゴールを決めるといった縦ではなく横のつながりを築ける場をつくりたい。

	<p>■鹿児島県サッカー協会内に委員会を組織すべきかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県のHIFFのような取り組みはとても良いと思っており、それを鹿児島県でもできるのであれば、現状の新春ドリームや他イベント・大会もより盛り上がるのではないかと考えている。
<p>Jリーグクラブ 鹿児島ユナイテッドFC</p>	<p>鹿児島ユナイテッドFC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後主に発信面で何かJクラブのリソースを活用できないかと考えている。 ・具体的に依頼をもらえればできるだけ応えていきたい。 <p>■鹿児島県サッカー協会内に委員会を組織すべきかどうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドリームサッカーに向けての実行委員会から、発展していくこともできると思う。話し合っていく中で例年県内で行っている電動車椅子サッカーの九州大会などについても協議していけると思う。
<p>都道府県サッカー協会 鹿児島県サッカー協会</p>	<p>鹿児島県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状インクルーシブな場としては、年明けに「ドリームサッカー」を鹿児島県サッカー協会で開催している。2019年からは障がい者サッカーをテーマとして取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> - 2019年は知的障がい者サッカー選手とろう者サッカー選手のミックスチームを作り、鹿児島ユナイテッドFCのジュニアユースや女子チームとの交流マッチを行った。 - 2020年はブラインドサッカー体験、電動車椅子サッカー体験、アンプティサッカー体験、CPサッカー（脳性まひ者サッカー）体験会を行った。 ・ごちゃまぜウォーキングサッカーも行った。最後に知的障がい、デフ、ソーシャルの選手でチームを構成し、女子チームと交流マッチを実施した。 ・イベントは実施できているが、これまで活動してきた中でブラインドサッカーとCPサッカーの2つについては選手がどこにいるのかまだ情報がない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、障がい者サッカー担当者として皆さんと面識を持ちながら、これまで通りのスタンスで取り組んで行った方が良いのか、または他県のサッカー協会が組織しているように「障がい者サッカー委員会」などを設けたほうが良いのか、試行錯誤している。
<p>(2) ディスカッションまとめ</p>	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県サッカー協会の「ドリームサッカー」をより充実した内容にするために、その他の大会と併催など認知拡大にも貢献できたらよいのではないかとという話があった。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、鹿児島県県サッカー協会の障がい者サッカー担当理事が各カテゴリーの方々と交流をし情報発信している状況。 ・今後は組織をどう編成していくかという点では、ドリームサッカーの企画に関する会議が組織に発展していくのではないかとという意見や、まずは今回のzoomを活用してのディスカッションを定

	期的に設けることで将来的に組織に発展していけば良いのではないかという話があった。
グループ5 (沖縄県)	
(1) 状況・課題・要望の共有	
CPサッカー 日本協会	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20年くらい前には、プレー希望の連絡が2～3か月に1回来るほどだったが、環境をつくれないうまになっている。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPに限らず、知的障がい、発達障がいなども健常のチームで受け入れてもらうことは検討できないか。
知的障がい者サッカー／ 知的障がい者フットサル	<p>沖縄県サッカー協会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年からトレセン活動を立ち上げ、30名ほど、月1回、2回ぐらい練習をしている状況。 ・2018年には、FC琉球のホームゲームの前座で知的障がい者サッカーの試合等を行った。横浜F・マリノス フトゥーロの選手と沖縄県知的障がい者サッカー連盟の選抜とで対戦した。
電動車椅子サッカー	<p>沖縄県サッカー協会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県は電動ではなく手動車椅子で活動している。 ・手動車椅子サッカーの大会はある。
ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 琉球Agachi	<p>琉球Agachi)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チームが立ち上がってもうすぐ3年 ・選手集めが大きな課題。今後大会に参加できるのか不安。 <ul style="list-style-type: none"> - チラシ作成等もしている。 - 地域の視覚障がいの福祉協会（沖社協）や眼科医会、眼鏡屋などに連絡をする方針だがうまく進んでいない状況。 - 今後盲学校のサークルで増やしていきたい。 ・試合ができないため、試合や試合形式の練習をしたい。 <ul style="list-style-type: none"> - 県外のチームを呼ぶなども考えられる。 - 試合には壁が必要となるため購入するかなど要検討。 ・沖縄県サッカー協会の委員会で体験会などを実施している。今後も定期的に続けていくことが必要と考えている。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選手発掘の最適な方法がわからず模索中のため、良いアイデアがあれば教えてほしい。
デフサッカー／ デフフットサル	<p>沖縄県サッカー協会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県出身のデフサッカー・フットサルの女子日本代表選手がいる。
Jリーグクラブ FC琉球	<p>FC琉球)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合前などにスタジアムの競技場やフィールドを使ってブラインドサッカー体験会の実施などが検討可能。 ・競技団体の資金不足に関しては、ホームゲームの際の募金活動や企業向けに体験会などを行うことでスポンサーや協力者が出てきそうなのでぜひ協力させてほしい。
都道府県サッカー協会 沖縄県サッカー協会	<p>沖縄県サッカー協会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会内で障がい者サッカー特別委員会となっていたが、2020年から正式に委員会として活動できるようになった。

	<p>年に1回大規模なフェスティバルを開催しながら、特別支援学校などでの普及活動を行っている状況。フェスティバルは今年は中止だが来年3月には何か企画したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FC琉球との連携としては、以前行った手動車椅子のレクリエーションがよかった。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーのチーム（知的障がいなど）が県リーグに入ると審判や運営の問題が出てくるといった指摘があるが、できないところは皆で助け合えばよいと思っているので、まずはリーグに入りたい。 ・定期的集まる会議体は委員会で1回やってみたが、委員会レベルのため予算も含めて運営が難しい。資金源がJFAからの補助金しかないため、他をつくるには外部組織を作り委託にしたほうが良いと考えている。 <p>→以前からの目標として、7つの障がい者サッカーの一般社団法人を立ち上げる計画をしている。</p>
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県は比較的、既に横の連携が取れていて、フェスティバルなども実施経験がある。 ・2021年に向けて沖縄県障がい者サッカー連盟を立ち上げる。 ・FC琉球の試合の前座でいろいろな障がい者サッカーの体験会やイベント、試合をやるということを実現する。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<p>まずは沖縄県障がい者サッカー連盟設立に向け、定期的に打ち合わせていこうということに決まった。</p>
グループ6（佐賀県、長崎県）	
(1) 状況・課題・要望の共有	
<p>アンプティサッカー 日本協会</p>	<p>FC九州バイラオール)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンプティサッカーの九州の唯一のチームで強豪。 ・本拠地は大分だが、佐賀県在住の選手が1名いる。 <p>■Jリーグクラブとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・V・ファーレン長崎と連携して体験会を実施したことがある。 ・今後はぜひサガン鳥栖とも連携していきたい。
<p>電動車椅子サッカー 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年、九州地区では独自にQDリーグという電動車椅子サッカーの大会を開催。（2020年はコロナにより中止） <ul style="list-style-type: none"> - 福岡や鹿児島で開催。 - 鹿児島、北九州市、佐賀の3チームで実施。 ・2020年はコロナのため練習は個々で実施しており、試合は中々組めない状況。 ・大会に併せて体験会なども実施予定だったが、実施できていない。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが落ち着いたら体験会等開催させてもらいたい。
<p>ブラインドサッカー／ ロービジョンフットサル 日本協会</p>	<p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州地区のブラインドサッカーは福岡県に2チーム、沖縄県に1チームある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県島原市で自治体からブラインドサッカーの大会を誘致したいという声があったが、まだ調整中。 <p>■今後に向けて、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県ではJクラブと組んでチーム運営しているところもあるので、チームの立ち上げ等もぜひお声がけいただきたい。
<p>Jリーグクラブ</p> <p>V・ファーレン長崎</p> <p>サガン鳥栖</p>	<p>V・ファーレン長崎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月1日にデフサッカーの体験教室と選手の講演会をホームゲームの前座として実施する予定。 <ul style="list-style-type: none"> - 10月からクラブとして地域でのサッカーないしスポーツの普及に力を入れることを予定していた中、依頼を受けたことがきっかけで形になった。 <p>サガン鳥栖)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度の地域連携会議で皆さんと交流できたが、コロナのためなかなか活動ができていない。 ・今後取り組んでいきたい。気軽に声をかけてもらいたい。
<p>都道府県サッカー協会</p> <p>長崎県サッカー協会</p>	<p>長崎県サッカー協会)</p> <p>■活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島原市で自治体からブラインドサッカーの大会を誘致したい要望をもらったが、調整中。 ・2014年の長崎がんばらんば国体大会後、2015年（きらめきカップ）より障がい者のサッカー大会が開催できるようになった。 ・これれまでの活動は知的障がい者サッカー大会の開催（今年で6回目）のみ。（2015年のきらめきカップは県協会ではなくJリーグとの連携により始まったもの。） ・今後大会が定着していくように、まずは組織の体制を確立させるため理念やビジョンをつくり、2021年からは長崎県サッカー協会内1種委員会の中で「障がい者部会」という形で動いていく（12月の理事会で正式な承認を受ける予定）。 ・現状、まだ長崎の障がい者サッカー状況が把握できていない。 ・2019年、文科省に依頼し教員向けのブラインドサッカーの講習会を実施。 <p>■今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及に関しては、長崎県（自治体）を通じて各学校や県協会に話を通すという形が身近で一番早い普及に繋がるのではないかと。 - 競技ごとの体験会を個別にやっていくこともできるが、特別支援学校内の教員がスポーツ自体に対して前向きでない場合も多く県経由で上から話を通してもらうことが必要。
(2) ディスカッションまとめ	
<p>テーマ1：インクルーシブな場、指導者養成の場等、各地域の課題や普及状況に応じた障がい者サッカーの活動の場を考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎県では、障がい者サッカー自体がまだ根付いてない状況。 ・県庁、県から支援学校の担当者や特別支援教育課などとも繋がり、学校に選手を呼んで体験やデモンストレーションなどの実施を進めていくことが有効ではないかという話があった。
<p>テーマ2：定期的にディスカッションが行えるような仕組みを考案する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀県では昨年より障がい者サッカー委員会が設置されている。 ・長崎県の県サッカー協会では新しい動きがあり、2021年度に障がい者サッカーの部会が設立される見込み。JリーグクラブのV・

	<p>ファーレンや障がい者サッカーの関係者にも声がけをしていくとのこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有をしながら各県内の活動を進めていく。
--	--



③参加者の声

<p>会議の満足度</p>	<p>■とても満足 22名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の共有が多くできて、いいインプットになった。 ・知らなかったことが多く、全てが勉強になった。 ・一堂に集まったことにより、様々な実情が聞けたので勉強になった。 ・各JIFF協会・各クラブ、各県協会の現状、取り組みが聞けてとても良かった。 ・各団体の情報を共有でいる場が実現できたことがよかった。 ・各県協会の取り組みや他の障がい者サッカーがかかえる課題などが聞けた。 ・SNS上やメールなどでコンタクト取ったりはできるが、実際に顔を合わせて話せたのがよかった。 ・他の障害分野、Jリーグ、JFAの方々の話を聴く事ができてよかった。各地域、クラブの取り組みや現状を聞いて参考になりました。 ・Jリーグやサッカー協会の方との連携のきっかけをつかむことができた。つながりたい協会、Jリーグとコンタクトがとれた。 ・委員会立ち上げに際し、多くのヒント、情報を得ることができた。 ・7団体が集まることもなかなかないうえ、Jリーグのチームや県協会とのつながりができたことが嬉しい。いろんな情報を知れた。 ・クラブの取り組みもっと連携したいと感じることができた。 <p>■満足 6名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年比べてこれだけ多くの方々に開催できて良かった。時間が足りないくらいだった。 ・各FAやJリーグクラブの参加率が高く、連携という観点で有効な場になった。 ・知る事が多かった。知っていただくことができた。 ・Jリーグとの話がもう少しできれば良かったが、情報をいろいろと知ることができ良かった。 ・多くの話が聞けて良かった。 ・JIFFからの資料は揃っているが、各発表者の資料やサマリーも揃っていると県に戻ってからの報告・情報がしやすい。 <p>■普通 2名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人数が多過ぎではないか。 ・毎回各々の環境、状況を理解できるけど、前進している気がしない。
---------------	--

	<p>■不満 1名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたかった事あったが、時間が足りなかった。
感想・気づいた点	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合うことの重要性を改めて感じる会だった。 ・それぞれ抱えている課題など聞いた時、自分ではなかった、みんな同じだったと感ずることができた。 ・時間が短いと感ずた。皆さん、それぞれ熱い想いを持っていらっしやることわかつただけに、まだまだ聞き足りないと感ずた。 ・県協会、クラブ、それぞれ分かれてのディスカッションもあつて良かった。しかし、こんなに一同に集まつて全員が発言できるという機会はとても貴重でありがたかつた。 ・地元に戻つて新たな取り組みをしていきたい。 ・県サッカー協会の方と7団体の協会やクラブチーム、Jクラブがつながるきっかけになつたのは、とても良い機会だと感ずた。受け身ではなくて、自分たち自身が積極的に切り開いていかないといけないと思つた。 ・皆さん熱い気持ちを持って取り組みを話してつたので、普段はない刺激を感ずることができた。 ・これからの活動や事業を進める上で参考になる事が学べた。 ・障がい者サッカーの中でも、競技人口の数やレベルなどが全然違い、驚つた。今回伺つた話を持ち帰り、障がい者サッカーの普及を考えたつ。 ・NF（障がい者サッカー）とクラブからの発信力を高める必要性を感ずた。 ・盛り沢山で時間が不足つた。 ・一口に障がい者サッカーといつても種類が多く、課題のシリアスさも違ふ。なにをどうすべきか、考えさせられる。 ・テーマに対して人数が多過ぎ。時間が短すぎるのではないか。 ・各障がい者サッカーの現状、課題がわかり、各団体同じような問題をかかえていることがわかつた。 ・今回は多方面から出席があり、時間延長となつたが致し方ないと思ふ。 ・時間がない。 ・Jリーグクラブと7つの障がい者サッカーは連携と、お互いに良い事業ができると思ずきがあつた。 ・いろいろな断片的な知識がつながつていく所があつた。 ・各競技団体の代表が来てつたので、よかつた。 ・ワークショップなどができれば、距離が縮まつて、企画等も進めやすい。 ・懇親会があるとつと色々な情報を知る機会になる。 ・県協会、クラブ、それぞれ分かれてのディスカッションもあつて良かった。 ・各団体の問題を共に解決できるような場があると良いと思つた。サッカーファミリーとして団結していきたい。 ・もう少し人数を減らして詳しく聞く時間がほしい。 ・自己紹介とディスカッションは時間やグループを分けて、課題（議題）別で興味ある話についてディスカッションした方が効率が良い。深く話せる。30人以上が集まるので、興味ない話もある。聴く時間が長い。例えば、「クラブ運営」「競技力向上」「地域（Jクラブ）との連携」「資金調達」「普及活動」など、時間を区切つて、テーマ別に分かれて話した方が良い。せつかく集まつたので、つと効率良くやりつた

	<p>い。ある程度時間が過ぎたらフリートークタイムがあってもよい。Jリーグクラブをうまく使えたら良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカーの各種で競技人口や課題感が大きく違うことを知れた。 ・質問ができなかった点が残念だった。 ・地域の大会も含めて、より細かいところまでを資料も含めて整理できると、もっと理解を深められる。 ・県、クラブ単位で分かれたディスカッションの時間を設定し、より深く意見交換すると良いのではないか。 ・かなりの人数なので進行スケジュールを整える。 ・事前の資料をフォーマット統一するなどしてはどうか。 ・事前に活動報告は資料提供（各地区、各団体が）しておいて、テーマ、課題について話を深められると良い。 ・コーヒープレイクなどをうまくセッティングすると、もっと参加者間のコミュニケーションが取れるのでは。 								
<p>今後同様の会議を実施する場合の単位</p>	<p>■実施単位</p> <table border="0"> <tr> <td>9地域ごと</td> <td>17名</td> </tr> <tr> <td>都道府県ごと</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>9地域ごと・都道府県ごと両方</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10名</td> </tr> </table> <p>■「その他」の意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年に1度程度、全国規模で集まるとよい。 ・年2回ほど行いたい。 ・地域ごとではなくどの地域でも参加できるようにして欲しい（人数調整は難しいと思いますが） ・医師なども交えて、障がいの種別ごとで行いたい。 <p>■コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には今の規模での会議が妥当。何年かに一回、西日本や全国で集まると刺激になる。 ・九州は北部と南部で分けたらどうか。 ・西日本で集まりたい。 ・地域ごとと、全国で行いたい。 	9地域ごと	17名	都道府県ごと	4名	9地域ごと・都道府県ごと両方	1名	その他	10名
9地域ごと	17名								
都道府県ごと	4名								
9地域ごと・都道府県ごと両方	1名								
その他	10名								
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験会があってもよい。 ・会議後、交流会を行なってもらいたい。 ・各競技に特化した会議があってもよい。 								

Ⅲ. 成果

一般のスポーツ団体（サッカー団体）と障がい者スポーツ団体（障がい者サッカー団体）間の連携を図ることを目的として実施した地域連携会議では、昨年度より 100 名増の 440 名が参加し、地域全体での現状および好事例・先進事例の情報共有のみならず、都道府県単位等に細分化したグループでディスカッションを実施することができた。同会議を通じて、①障がい者サッカーに携わる方の増加、②地域連携を推進する組織または会議体の増加、③地域特性および課題の類型化、④JFA による都道府県サッカー協会への障がい者サッカー活動支援の充実の 4 つの成果を得ることができた。

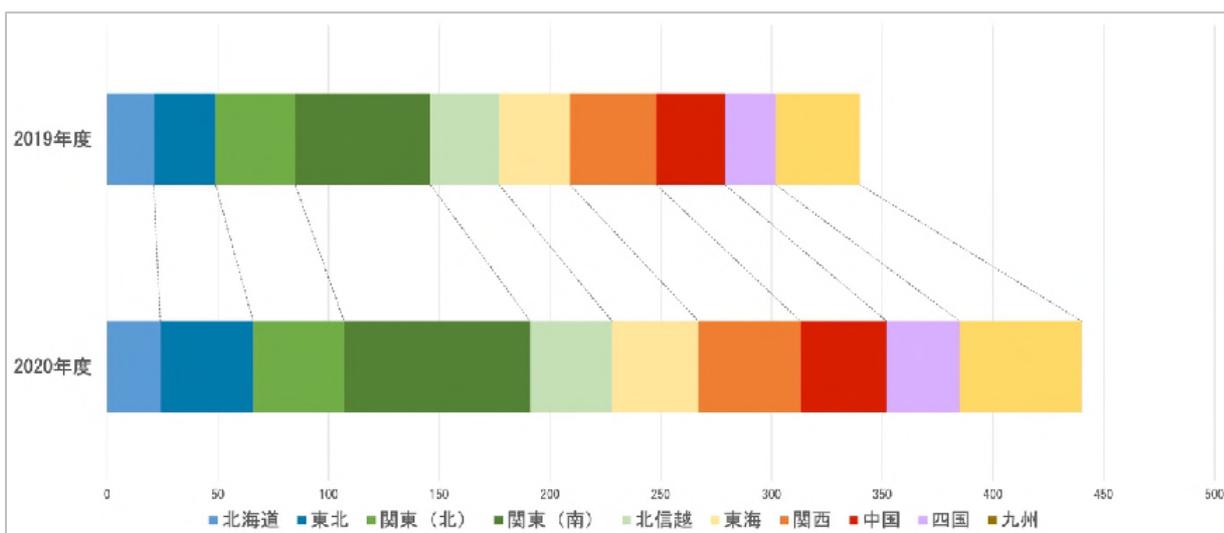
1. 障がい者サッカーに携わる方の増加（昨年より 100 名増の 440 名が参加）

地域連携会議は、全国 9 地域（北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州）で実施し、7 競技団体の地域担当者、7 競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等、昨年度より 100 名増の 440 名が参加し、各組織の窓口となる担当者同士の関係構築を促すことができた。

特に昨年度と比較して J リーグクラブからの積極的な参加があり、また、昨年度は当事者チームの出席は会議の開催地に所在するチームのみであったが、オンライン実施により今年度は他県からの出席も可能としたため当事者チームの出席を増やすことができた。

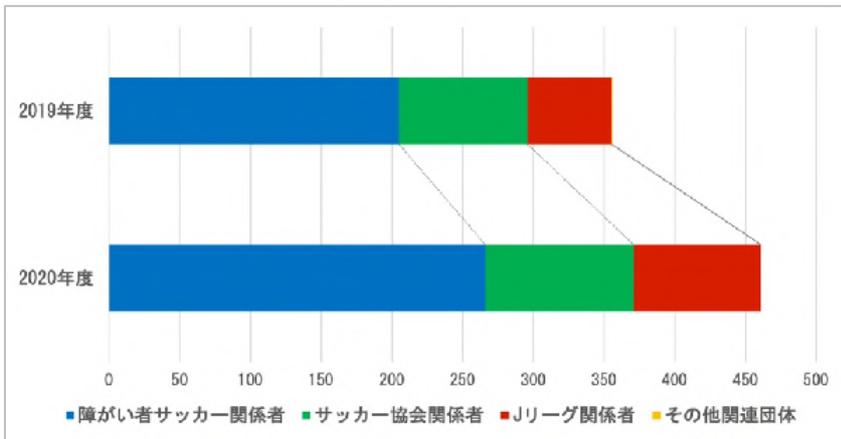
① 地域別参加人数

地域	2019 年度		2020 年度		増減
北海道	21	名	24	名	+3
東北	28	名	42	名	+14
関東（北）	36	名	41	名	+5
関東（南）	61	名	84	名	+23
北信越	31	名	37	名	+6
東海	32	名	39	名	+7
関西	39	名	46	名	+7
中国	31	名	39	名	+8
四国	23	名	33	名	+10
九州	38	名	55	名	+17
合計	340	名	440	名	+100



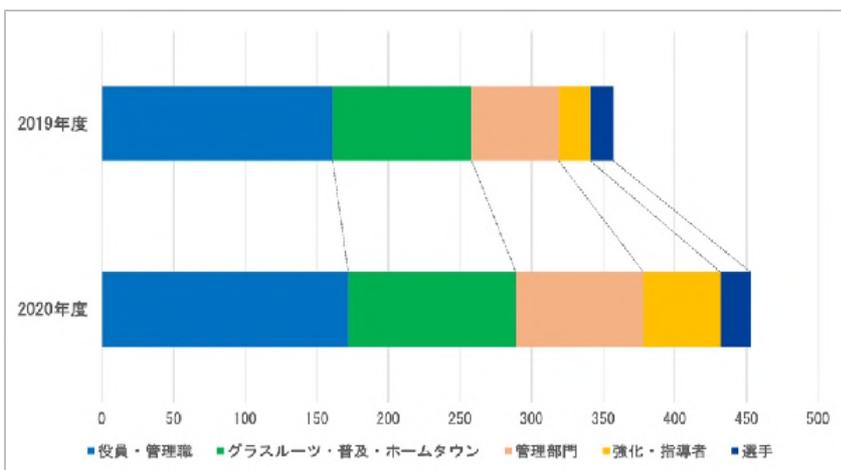
② 組織別人数 461名（延べ、重複あり）

2019年度	2020年度	増減
361名	461名	+100名



③ 部門別人数 453名（延べ、重複あり）

2019年度	2020年度	増減
357名	453名	+96名



2. 地域連携を推進する組織または会議体の増加

JFA では、2015 年から都道府県サッカー協会に障がい者サッカー担当者を設置した。それを受けて、都道府県サッカー協会では地域における障がい者サッカーの活動を推進する委員会等を設置し障がい者クラブチームとの連携・支援を進める窓口ができた。また、県内の障がい者サッカーチームを含む会議体や障がい者サッカーの統括組織設立の動きができた。

JIFF が目指すのは、以下の 3 つである。これらが設置され発展していくことで、地域における障がい者サッカーの活動と競技環境の整備が進んでいくと考える。

- a. 都道府県サッカー協会内に障がい者サッカーを推進する委員会等が設置されること
- b. 地域に障がい種別を超えた障がい者サッカーの横断的な組織または会議体があること
- c. 障がい者サッカーの活動をする組織間でスムーズな連携がとれていること

地域連携会議を通じて、全国の最新情報の収集と共有を行った。地域連携を推進する組織または会議体の設置を促している中で、10 都県で新しい動きがうまれた。

地域	9地域 または 都道府県	都道府県サッカー協会内の 障がい者サッカーを扱う組織	地域内の 障がい者サッカー統括組織 または 障がい者サッカーチームを含む会議体
北海道	北海道	北海道サッカー協会 チャレンジド委員会	北海道サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
東北	宮城県	宮城県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
関東	東京都		日本障がい者サッカー連盟とリーグクラブ等が連携し会議、イベントを実施 障がい者サッカーチームを含めた会議体発足の動き
	神奈川県		神奈川県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
	千葉県		障がい者サッカーチームを集めた会議体発足の動き
	埼玉県		埼玉県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議体 「埼玉県障がい者サッカーネットワーク」が発足
	茨城県 群馬県	茨城県サッカー協会 インクルーシブ委員会 群馬県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	茨城県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
北信越	長野県	長野県サッカー協会 グラスルーツ委員会	長野県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
	石川県	石川県サッカー協会 グラスルーツ委員会	石川県サッカー協会主導で障がい者サッカーおよびリーグクラブを集めた会議を実施
	福井県	福井県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
東海	静岡県	静岡県サッカー協会 チャレンジド委員会	静岡県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
	愛知県		愛知県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
関西	兵庫県	兵庫県サッカー協会 障がい者サッカープロジェクト	兵庫県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
	奈良県		奈良クラブ主導で障がい種別を横断したサッカーイベント実施の動き
中国	広島県		広島県インクルーシブフットボール連盟
	鳥取県	鳥取県サッカー協会 技術委員会 普及部会内 障がい者サッカー推進ミーティング	
	山口県	山口県サッカー協会 インクルーシブ委員会	山口県内で障がい者サッカーを統括する連盟設立の動き
	鳥根県	鳥根県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
四国	四国	四国サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	愛媛県	愛媛県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	徳島県	徳島県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
九州	佐賀県	佐賀県サッカー協会 障がい者サッカー委員会	
	長崎県	長崎県サッカー協会 第1種委員会内 障がい者部会	
	熊本県	熊本県サッカー協会 チャレンジド委員会	
	大分県	大分県サッカー協会 パラ委員会	
	宮崎県	宮崎県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	
	沖縄県	沖縄県サッカー協会 障がい者サッカー特別委員会	沖縄県内で障がい者サッカーを統括する連盟設立の動き

3. 地域特性および課題の類型化

過去 2 年間の地域連携会議を通じて、各地域のごとの障がい者サッカー活動および関係団体同士の連携への評価、地域特性、課題の類型化をすることができた。また、課題解決の方向性として、キーアクターの発掘やリーダー育成等の「人材の育成」による解決と、地域内または組織同士でリソースを提供し合える関係性を構築する「組織の確立・充実」による解決の 2 つがみえた。

過去2年間の事業実施 における 本連盟による活動評価 ※	地域特性	特徴	例	課題	
				人材育成で解決できる課題	地域または組織連携で解決できる課題
A 障がい者サッカー活動 関係団体による連携 ○	日常的に障がい者サッカーの活動があり、 地域内での連携が進んでいる 各組織が持つリソースを持ち寄ることで 個別の課題の解決を図っている	・障がい者サッカークラブが多い ・コーディネーターの役割を担う人がいる ・機動的な相談や会議体により、 コミュニケーションの手段がある ・学校、医療関係者、福祉関係者等との連携が不十分	静岡県、山梨県、 埼玉県、東京都、 山梨県等	・活動継続のためのリーダー後 任者育成（個人への依存） ・サッカーファミリー以外を巻き 込めず、ダブスタの不足	・専門的な指導者の不足 ・練習場所の不足
B 障がい者サッカー活動 関係団体による連携 ○ △	障がい者サッカーの活動は多いが、 一般のサッカーおよび関係団体との 連携は発展途上	・障がい者サッカークラブが複数ある ・障がい者サッカークラブ同士では連携がある （組織や会議体がある） ・都道府県サッカー協会やリーグクラブとの関係が希薄 ・学校、医療関係者、福祉関係者等との連携がない	広島県、兵庫県、 福岡県、鹿児島 県、茨城県等	・リーダーシップをとり障がい 者サッカーを推進していく人材 の不足	・専門的な指導者の不足 ・練習場所の不足
C 障がい者サッカー活動 関係団体による連携 × ○	障がい者サッカーの活動は少ないが、 一般のサッカーおよび関係団体間での 連携が進んでいる	・障がい者サッカークラブがない、または少ない ・都道府県サッカー協会が主体となる会議体等がある ・都道府県サッカー協会やリーグクラブが連属し、 活動を推進する環境がある ・学校、医療関係者、福祉関係者等と連携している	鳥取県、四国4 県等	・障がい者サッカーを推進して いく人材の不足	・選手の発掘が困難 ・障がい種別ごとのチームづくり、環境 整備が難しい ・競技を実施、継続する資金の不足
D 障がい者サッカー活動 関係団体による連携 × ×	そもそも障がい者サッカーの活動が少なく、 一般のサッカーによる連携もない	・障がい者サッカークラブがない、または少ない ・障がい者サッカーを推進する人材が少ない ・学校、医療関係者、福祉関係者等との連携がない	その他	・障がい者サッカーを推進して いくリーダー、マンパワーの不 足	・選手の発掘が困難 ・障がい種別ごとのチームづくり、環境 整備が難しい ・競技を実施、継続する資金の不足

※「過去2年間の事業実施における本連盟による活動評価」とは、本連盟が2019年度・2020年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」で実施した全国の障がい者サッカークラブチーム向けアンケートおよび9地域障がい者サッカー連携会議の内容から活動を評価したものです。

4. JFAによる都道府県サッカー協会への障がい者サッカー活動支援の充実

地域連携会議を受けて、JFAから都道府県サッカー協会に向けて新たに以下の3点の依頼と活動の方向性が示された。

- ① 障がい者サッカーに関連する団体の取りまとめ
各都道府県サッカー協会内に障がい者サッカーを担当する部署を設置すること
各都道府県内で地域連携会議を継続実施すること
- ② 障がい者サッカー情報の発信
各都道府県サッカー協会公式サイト内へ障がい者サッカーページの作成
各都道府県サッカー協会発行の広報誌への掲載 等
- ③ 障がい者へのサッカー環境の提供
地域連携会議内のアイデアの共有
＜組織・連携＞
 - ・メールやSNS等で情報共有の場をつくる
 - ・地域連携会議を都道府県サッカー協会内で継続する
 - ・都道府県サッカー協会内に障がい者サッカーを管轄する組織を設置する、組織の構成員を増やす
 - ・都道府県サッカー協会内でインクルーシブなイベントを行うための組織を作る＜イベント＞
 - ・Jリーグの試合の前座で障がい者サッカーを実施する
 - ・障がい者サッカー体験会を実施する
 - ・リフレッシュ研修会障がい者サッカーコース（指導者講習会）を実施する
 - ・障がいの有無に関わらず、複数競技の試合を同日同会場で実施する（認知向上のため）
 - ・地域内の各都道府県サッカー協会が持ち回りで毎年インクルーシブなイベントを開催する＜障がい者サッカーチームの活動支援＞
 - ・障がい者サッカーチームへクラブの指導者を派遣する
 - ・障がい者サッカーチームのグラウンド使用・確保に協力する
 - ・Jリーグ等試合会場で、障がい者サッカーやチーム情報をブースに展示する

おわりに

2020年度は一般のスポーツ団体（サッカー団体）と障がい者スポーツ団体（障がい者サッカー団体）間の連携が進んだ地域が多くみられた一方で、地域差に対する解決のアプローチまでは至らず、また、連携や活動の推進が不十分であったり、一部の関係者および関係団体のみで活動が行われ、地域全体を巻き込んだ活動ができていない地域があるなど課題も残った。

今後は、成果として得た「類型化した地域特性および課題」を深掘りする。更なる連携と発展に不可欠であるそれらの解決に向けて、キーアクターの発掘やリーダー育成等の「人材の育成」と、地域内または組織同士でリソースを提供し合える関係性を構築する「組織の確立・充実」の2つの方向性からアプローチを図ることで、身近な場所でサッカーおよびスポーツを実施できる環境の整備と連携および体制整備に向けた事業を展開していく。

2020年度「9地域障がい者サッカー連携会議」開催要項

2020 年 8 月 27 日

公益財団法人日本サッカー協会
 一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

日本サッカー協会（JFA）と日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は協働し、地域における障がい者サッカー団体と都道府県サッカー協会・Jリーグクラブ・Jリーグ百年構想クラブとの連携および体制整備を目的に、2020 年 9 月より全国 9 地域で「9 地域障がい者サッカー連携会議（以下、地域連携会議）」を順次開催いたします。本体制での地域連携会議の開催は昨年
 に続く 2 回目、新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインで実施いたします。

地域連携会議では、各地域の普及状況に応じた障がい者サッカーの活動を促し、障がいの有無に関わらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりを推進してまいります。昨年度の同会議では、連携に向けた各関係者の初顔合わせを行い連携機会の創出と情報共有を行うことができました。2020 年度は、地域ごとに具体的なディスカッションを進め「連携の活用」と「活動創出の場」となることを目指します。

なお、本会議は 2020 年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」として実施いたします。

記

- 会議名** : 9 地域障がい者サッカー連携会議
- 目的** : 地域における障がい者サッカー団体と都道府県サッカー協会・Jリーグクラブ・Jリーグ百年構想クラブ、その他障がい者サッカーに関係のある団体との「連携の活用」および「活動の創出」
- 日程** : 2020 年 9 月～2021 年 1 月 / 時間 18 時 00 分～20 時 00 分
 全国 9 地域*、10 回に分かれオンライン会議にて開催
 *9 地域…北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州

開催地域	都道府県	開催日
北海道	北海道	2020 年 10 月 5 日(月)
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	2020 年 11 月 16 日(月)
関東(北)	茨城県、栃木県、群馬県、山梨県	2021 年 1 月 13 日(水)
関東(南)	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	2021 年 1 月 21 日(木)
北信越	長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県	2020 年 11 月 9 日(月)
東海	静岡県、愛知県、三重県、岐阜県	2020 年 12 月 7 日(月)
関西	滋賀県、大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県	2020 年 11 月 26 日(木)
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	2020 年 10 月 29 日(木)
四国	香川県、徳島県、愛媛県、高知県	2020 年 9 月 24 日(木)
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、 鹿児島県、沖縄県	2020 年 10 月 22 日(木)

内容・時間：オンラインにて約2時間を予定しており、昨年度の報告とグループディスカッションの2部構成で実施予定です。詳細は別紙をご参照ください。

使用ツール：WEB 会議ツール「Zoom」を利用（会議 URL は参加者にのみ連絡します。）

参加対象：地域サッカー協会
 都道府県サッカー協会
 障がい者サッカー7 競技団体*
 障がい者サッカークラブ
 Jリーグクラブ
 Jリーグ百年構想クラブ
 その他障がい者サッカーに関係のある団体

JFA

JIFF

*=特定非営利活動法人日本アンパティサッカー協会、一般社団法人日本 CP サッカー協会、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会、一般社団法人日本ろう者サッカー協会

昨年の様子：



※今年度はオンラインでの開催となります。

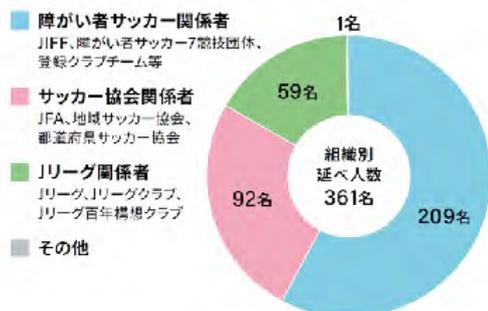
2019 年度 成果報告書（スポーツ庁 HP 公開）

https://www.mext.go.jp/sports/content/20200519-spt_kensport01-300001071-13.pdf

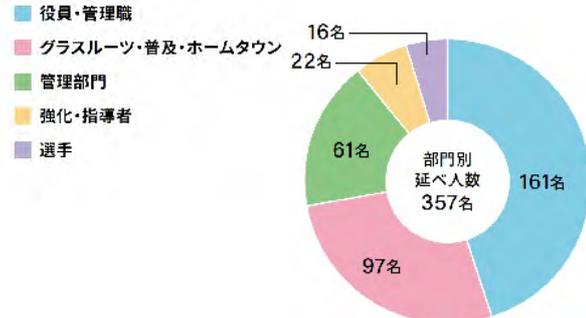
【参加者】全国 延べ 340 名

【参加者内訳】

■ 組織別人数 (延べ、重複あり)



■ 部門別人数 (延べ、重複あり)



参加方法 : 地域ごとにお申し込みフォームを設けております。
期日までに以下の該当地域のリンク先よりお申し込みください。
お申し込み方法についてのお問い合わせは、
JIFF 事務局 (03-3818-2030/jiff_info@jfa.or.jp) までお願いいたします。

※会議の時間はすべて 18 時 00 分～20 時 00 分となります。

地域	開催日	お申し込み期日	お申し込みフォーム URL
北海道	10月5日(月)	9月14日(月)	https://forms.gle/3QrmQuwFC4qjWpCx6
東北	11月16日(月)	10月26日(月)	https://forms.gle/9xForeosnN4cyvsQ8
関東(北)	1月13日(水)	12月23日(水)	https://forms.gle/XgT3xQHJAzumN96A
関東(南)	1月21日(木)	12月24日(木)	https://forms.gle/5g9MFzZKiXpSBUDY7
北信越	11月9日(月)	10月19日(月)	https://forms.gle/yK48aq1yDq4PsyPr7
東海	12月7日(月)	11月16日(月)	https://forms.gle/EmEgUno2Mi39H76v9
関西	11月26日(木)	11月5日(木)	https://forms.gle/Tk7pVVChcWa4a8f9
中国	10月29日(木)	10月8日(木)	https://forms.gle/y6YA5uAMEdSejDcd7
四国	9月24日(木)	9月10日(木)	https://forms.gle/KqR72RHjLEDSbNut7
九州	10月22日(木)	10月1日(木)	https://forms.gle/jugYvwJn3tNr7JKf6

以上

【お問い合わせ先】

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟 事務局 山本・神谷
TEL 03-3818-2030 / MAIL jiff_info@jfa.or.jp

報道関係各位

公益財団法人日本サッカー協会
一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

JFA と JIFF が協働し、9 地域障がい者サッカー連携会議をオンラインで初開催 スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト」として昨年に続く 2 回目

日本サッカー協会（JFA）と日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は、2020年9月24日（木）より下記の日程で「9地域障がい者サッカー連携会議（以下、地域連携会議）」を開催します。

これは、JFA と JIFF が協働して行うもので、本体制での開催は昨年に続き、2 回目。今回は新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインで開催します。

地域連携会議は、障がいの有無にかかわらず「誰もが、いつでも、どこでも」サッカーを楽しめる環境づくりを推進するため、地域における障害者サッカー団体と 47 都道府県サッカー協会（47FA）、Jクラブ、Jリーグ百年構想クラブによる協力体制を整備するものです。JFA が 47FA と行ってきた会議をさらに拡大して実施した昨年度の同会議では、それぞれの関係者が初めて顔を合わせ、連携の強化と情報共有を行うことができました。2020 年度は、地域ごとに具体的なディスカッションを進め「連携の活用」と「活動創出の場」となることを目指します。

なお、本会議は JIFF が受託する 2020 年度スポーツ庁委託事業「障害者スポーツ推進プロジェクト（障害者スポーツ団体の連携及び体制整備への支援事業）」として実施いたします。

【9 地域障がい者サッカー連携会議 概要】

■ 日程

開催地域	都道府県	開催日
北海道	北海道	2020年10月5日（月）
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	2020年11月16日（月）
関東（北）	茨城県、栃木県、群馬県、山梨県	2021年1月13日（水）
関東（南）	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	2021年1月21日（木）
北信越	長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県	2020年11月9日（月）
東海	静岡県、愛知県、三重県、岐阜県	2020年12月7日（月）
関西	滋賀県、大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、和歌山県	2020年11月26日（木）
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	2020年10月29日（木）
四国	香川県、徳島県、愛媛県、高知県	2020年9月24日（木）
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	2020年10月22日（木）

実施時間はすべて 18 時 00 分～20 時 00 分を予定。

■ 内容

オンラインにて昨年度の報告とグループディスカッションの 2 部構成で実施

■ 参加対象者

地域サッカー協会、都道府県サッカー協会
障がい者サッカー7 競技団体*、障がい者サッカークラブ
Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ
その他障がい者サッカーに関係のある団体
JFA、JIFF

公益財団法人 日本サッカー協会

広報部 〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス Tel. 03-3830-1807 Fax. 03-3830-1813

www.jfa.jp

* =特定非営利活動法人日本アンブレティサッカー協会（切断障がい）、一般社団法人日本 CP サッカー協会（脳性麻痺）、特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会（精神障がい）、特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟（知的障がい）、一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会（重度障がい）、特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会（視覚障がい）、一般社団法人日本ろう者サッカー協会（聴覚障がい）

■昨年度の様子



※今年度はオンラインでの開催となります。

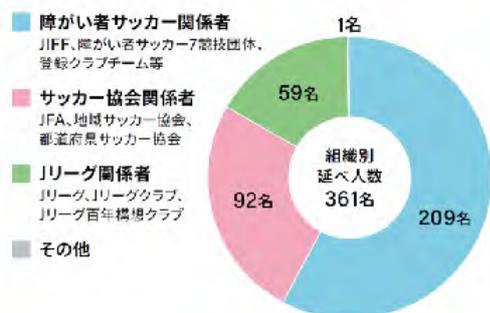
2019 年度 成果報告書（スポーツ庁 HP 公開）

https://www.mext.go.jp/sports/content/20200519-spt_kensport01-300001071-13.pdf

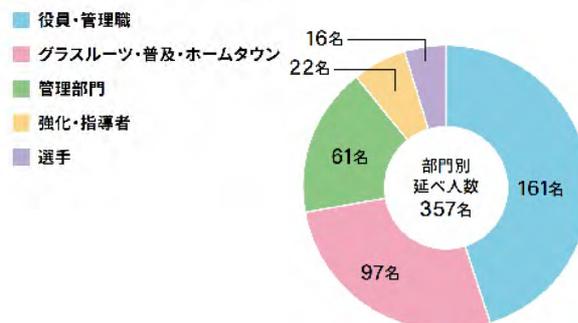
【参加者】全国 延べ 340 名

【参加者内訳】

■ 組織別人数 (延べ、重複あり)



■ 部門別人数 (延べ、重複あり)



各地域で実施する「地域連携会議」のご取材のほか、JIFFとJFAで協働する本取り組みについて、代表者／担当者へのインタビュー等も随時承っております。「地域連携会議」および本取り組み、代表者/担当者への個別取材をご希望の方は、JFA 広報部【media@jfa.or.jp】または JIFF 事務局【jiff_info@jfa.or.jp】(担当：神谷)までご連絡ください。



9地域障がい者サッカー連携会議 2019年度 実施報告

2020年9月

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

目次

1. 2019年度 実施概要
2. 事業の成果
 - (1) 障がい者サッカーネットワークの構築
 - (2) 全国の好事例・先進事例の把握
 - (3) 障がい者サッカー7競技団体の共通課題の抽出
3. 課題ごとの解決に向けたアイデア
4. 2020年度へのステップ

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

1. 2019年度 実施概要

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

「9地域障がい者サッカー連携会議」実施までの背景

- 2014年：「JFAグラスルーツ宣言」を発表
- 2015年：都道府県サッカー協会内に障がい者サッカー担当者を設置
障がい者サッカー担当者が全国から集まり会議を実施
- 2016年： //
- 2017年：9地域ごとに障がい者サッカー担当者が集まり、会議を実施
障がい者サッカー7競技団体（日本協会）の担当者も一部参加
- 2018年： //
- 2019年：スポーツ庁委託事業として「9地域障がい者サッカー連携会議」を実施
既存参加者に加えて、障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者
サッカークラブ、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等が初参加

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

2019年度 実施概要

事業の目的

1. 障がい者サッカーネットワークの構築

地域における障がい者サッカー団体と47都道府県サッカー協会・Jリーグクラブ・Jリーグ百年構想クラブとの連携および体制整備

2. 地域に応じた障がい者サッカー活動の推進

各地域の状況にあわせた障がい者サッカー活動の創出

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

2019年度 実施概要

実施期間と参加人数

実施期間	2019年10月27日～2020年2月2日
時間	各回3時間（発表／ディスカッション） ＊地域により視察あり
参加総数	340名（延べ人数）
実施単位・回数	9地域・計10回： 北海道、東北、関東/午前の部、関東/午後の部、北信越、東海、関西、中国、四国、九州

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

2. 事業の成果

- (1) 障がい者サッカーネットワークの構築
- (2) 全国の好事例・先進事例の把握
- (3) 障がい者サッカー7競技団体の共通課題の抽出

(1) 障がい者サッカーネットワークの構築

障がい者サッカーネットワークの構築



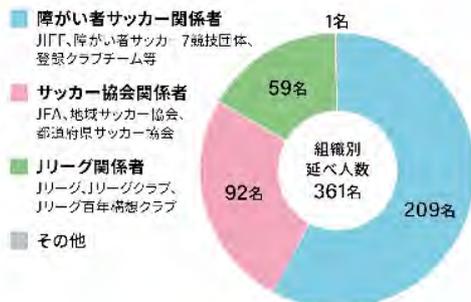
全国9地域、全10回実施
障がい者サッカー団体・クラブ、都道府県サッカー協会、Jリーグ・Jリーグ百年構想クラブ等から
延べ **340名** が参加

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

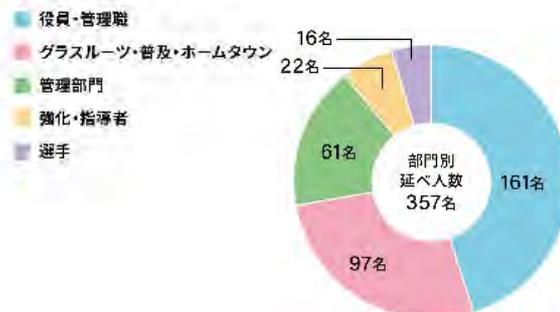
障がい者サッカーネットワークの構築

障がい者サッカー7競技団体に登録する地元の障がい者サッカークラブ代表者、都道府県サッカー協会の障がい者サッカー担当者、Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブの関係者等、延べ340名が参加し初めて顔を合わせました。

■ 組織別人数 (延べ、重複あり)



■ 部門別人数 (延べ、重複あり)



Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

(2) 全国の好事例・先進事例の把握

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

【1】地域連携を推進する組織または会議体の状況把握

地域	協会	障がい者サッカーを扱う組織	障がい者サッカー統括組織 または 障がい者サッカーチームを含む会議体
北海道	北海道	北海道サッカー協会 チャンジド委員会	北海道サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
東北	宮城県	宮城県サッカー協会 地域交流委員会	
関東	東京都		日本障がい者サッカー連盟とJリーグクラブ等が連携し会議、イベントを実施
	神奈川県		神奈川県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
	千葉県		障がい者サッカーチームを集めた会議帯発足の動き
	埼玉県		障がい者サッカーチームを集めた会議帯発足の動き
	茨城県	茨城県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
北信越	群馬県	群馬県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	
	長野県	長野県サッカー協会 グラスルーツ委員会	長野県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
	石川県	石川県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
	福井県	福井県サッカー協会 グラスルーツ委員会	
東海	静岡県	静岡県サッカー協会 チャンジド委員会	静岡県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めたイベントを実施
	愛知県		愛知県サッカー協会主導で障がい者サッカーチームを集めた会議、イベントを実施
関西	兵庫県	兵庫県サッカー協会 障がい者サッカープロジェクト	
中国	広島県		広島県インクルーシブフットボール連盟
四国	四国	四国サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	愛媛県	愛媛県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
	徳島県	徳島県サッカー協会 インクルーシブ委員会	
九州	佐賀県	佐賀県サッカー協会 障がい者サッカー委員会	
	熊本県	熊本県サッカー協会 チャンジド委員会	
	大分県	大分県サッカー協会 ハフ委員会	
	宮崎県	宮崎県サッカー協会 障がい者サッカー担当理事	
	沖縄県	沖縄県サッカー協会 障がい者サッカー特別委員会	

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

【2】継続的な支援事例の把握

よりよい街づくりのための地域連携



【関東】山梨県
ヴァンフォーレ甲府

2010年から精神疾患・知的障がい対象のサッカー教室やフットサル大会を開始。不定期でソーシャルフットボールのチームに指導スタッフを派遣。2019年からは月2回に。

大会はパートナー企業からの支援も得て開催し、スポーツ振興と障がい当事者の社会参加を促進。

県の障がい者等の人権課題をテーマとした人権啓発事業を受託。障がい理解を深める機会として地元ブラインドサッカーチームと連携し体験教室を小学校、スタジアム来場者向けに実施。



【北信越】長野県
松本山雅FC

2015年のブラインドサッカー体験会参加をきっかけに、2016、2017年に山雅後援会主催の体験会を開催（2017年には選手も参加）。

2018年にホームゲームでブラインドサッカー体験会開催。2019年にはクラブ主催でホームタウンを巡回する体験会を開催など。

活動開始から関わる輪が拡大し、クラブ主導の事業展開へ。（2020年にはブラインドサッカーチームをクラブ内に設置）



【九州】福岡県
アビスパ福岡

2003年の地元ブラインドサッカーチーム発足時からサポート。チームの強化と競技の普及活動を実施。クラブスタッフがチームの監督、選手として活動。

ユニバーサル都市・福岡を実現するためにクラブとしてブラインドサッカーを活用し、小学校の授業の巡回やイベント、ホームゲーム前座などで啓蒙活動を実施。イベントなどに企業や自治体から支援を得ており、人づくり・街づくりに貢献しながら、活動を継続できている。

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

【2】継続的な支援事例の把握

県サッカー協会とJリーグ百年構想クラブによる連携



【九州】宮崎県
宮崎県サッカー協会
テゲバジャーロ宮崎



入口

宮崎県サッカー協会等による障がい者サッカーイベント（特別支援学校とも連携）

2017年～
ユニファイドスポーツフェスティバル
インクルーシブのイベントとして毎年実施し、2020年で4回目。

日々の活動（日常的なプレーの場）

テゲバジャーロ宮崎では、日々の活動（スクール）内でイベント等への参加により発掘されたすべての障がい者サッカーカテゴリーの選手の受け入れを行い、日常的なプレーの場の受け皿となっている。活動は5年目。CP、精神、知的、電動車椅子、ロービジョンの選手などがある。アンブティサッカーは、九州バイラオールと連携。

強化

■パラフットボールスクール
宮崎県サッカー協会とテゲバジャーロ宮崎が連携し、2019年に開始。サッカーとしてのアプローチのため、スクールを協会主催の位置付けとした。



Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

【2】 継続的な支援事例の把握

Jリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ内の障がい者サッカーカテゴリー設置



【関東】神奈川県
横浜F・マリノス

知的障がい者サッカー

2004年、日本初で唯一のJリーグクラブによる「横浜F・マリノスフットワーク」を発足。サッカーだけではなく1人の社会人としての教育にも力を入れている。選手は約80名が在籍（中学生～50代）。2018シーズンより横浜市社会人サッカーリーグに参戦している。認知拡大のため、特別支援学校などでのサッカー教室を実施している。

2019年度、フットワークvsフューチャーズ リーグ戦を初開催
(Jリーグ公式戦の前座試合として実現)



【九州】鹿児島県
鹿児島ユナイテッドFC

知的障がい者サッカー

2019年2月に知的障がい者サッカーチーム「フューチャーズ」を発足。クラブ誕生時の前身となるヴォルカ鹿児島島の元選手で知的障がい者サッカー日本代表スタッフ（2013年～日本代表コーチ、2015年・2018年監督）の西真一氏を監督に。恒常的にプレーする場（週1回のトレーニング）をつくった。



【関西】奈良県
奈良クラブ

知的障がい者サッカー

電動車椅子サッカー
クラブ内に知的障がい者サッカーチーム（奈良クラブバモス）、電動車椅子サッカーチーム（奈良クラブピクトリーロード）を組織している。

認知拡大のため、ホームゲームでのPR、選手を起用した啓発活動を行っている。自治体とも連携し、支援学校でのサッカー教室、小中学校への訪問等を行なっている。

（3）障がい者サッカー7競技団体の 共通課題の抽出

障がい者サッカー7競技団体の共通課題

選手の発掘が困難

- 普通学校へ通学する障がい者が増えたことで、**競技団体およびクラブチームと障がい当事者との接点**が**つくりにくくなっている**。
- 競技ごとに選手発掘の傾向はみえていますが、十分なアプローチができていない。

地域差があり 環境整備が困難

- 地域ごとの普及状況（競技者数、チーム数等）の格差が大きい。
- **関東や関西にチームが集中**し、他地域では障がい種別ごとのチームづくり、環境整備が難しい傾向にある。

サッカー専門の 指導者が不足

- 多くの障がい者サッカークラブチームには、**競技に精通したサッカー専門の指導者が不在**。

活動資金が不足

- 障がい特性、競技特性により、介助・サポートの確保や競技用具の調達等、**競技者の費用負担が大きく、競技活動を開始するハードル**になっている。
- チーム運営を継続するにあたり、活動資金の調達が課題。

3. 課題ごとの解決に向けたアイデア

課題ごとの解決に向けたアイデア

選手の発掘が困難

- 普通学校へ通学する障がい者が増えたことで、**競技団体およびクラブチームと障がい当事者との接点**が足りなくなっている。
- 競技ごとに選手発掘の傾向はみえていますが、十分なアプローチができていない。

解決に向けたアイデア

● 医療従事者へのアプローチ

身体障がい者へのアプローチは、中途障がいは特にリハビリ時に利用する病院や理学療法士・作業療法士への周知が有効（CPサッカー・東北）

病院内のデイケアや就労支援の事業所からチームができることが多い（ソーシャルフットボール・北信越）

チーム加入の入口としては、義肢装具士、理学療法士からの紹介が最も多い。（アンプティサッカー・中国）

● 都道府県サッカー協会の協力を得たアプローチ

理学療法士や作業療法士を通じた選手の発掘の話が出たが、協会内には医事委員会がある。スポーツ医学の役員もいるので確認する（都道府県サッカー協会・東北）

許諾や仕組みを整えば、都道府県サッカー協会を経由して、登録者、登録チームに対し障がい当事者がプレーしているかアンケート等で確認できるのでは。（デフサッカー・四国）

県協会がハブとなり、登録しているチームに対し情報発信を行い各協会へ繋いでいく役を担ってきたい。（都道府県サッカー協会・中国）

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

課題ごとの解決に向けたアイデア

地域差があり 環境整備が困難

- 地域ごとの普及状況（競技者数、チーム数等）の格差が大きい。
- **関東や関西にチームが集中**し、他地域では障がい種別ごとのチームづくり、環境整備が難しい傾向にある。

解決に向けたアイデア

● 障がい種別を超えたチーム作り・活動

北海道は広く、札幌市を中心とした地域に道民の半数以上が住んでおり、他地域と距離があるため普及が難しい。他の競技と選手の共有、健常者のサッカーと一緒にやっていくことが望ましい（アンプティサッカー・北海道）

他の障がいでも、同じルールでできるものについては一緒にやっという流れがある（知的障がい者サッカー・北海道）

CPの選手だけで始めていくことは困難なので、インクルーシブでサッカーができる場を作り、選手の発掘をしていきチーム作りに繋げたい。（CPサッカー・四国）

イングランドでは、バンフットボールという障がいの種別を問わずできる人が集まって行うリーグ戦がある。CPサッカーだけで集まるのが難しい場合は、まぜこぜで集める環境を作れたら新しい楽しさが生まれる（JIFF）

サッカー協会4県がもちまわりで、7競技団体にも協力いただきながら、まぜこぜのウォーキングサッカーを実施してほしい。Jリーグクラブにも協力を仰ぐ（都道府県サッカー協会・四国）

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

課題ごとの解決に向けたアイデア

サッカー専門の指導者が不足

- 多くの障がい者サッカーチームには、**競技に精通したサッカー専門の指導者が不在**。

解決に向けたアイデア

●Jリーグクラブの協力を得ての活動

県内のソーシャルフットボール、知的障がい者サッカー、ブラインドサッカーのチームと連携している。精神疾患・知的障がいの方を対象としたサッカー教室のほか、不定期でチームに指導スタッフを派遣。2019年からは月2回に（Jリーグクラブ・関東）

チームの強化と競技の普及活動に協力しており、スタッフがブラインドサッカーチームの監督、選手として活動している（Jリーグクラブ・九州）

●その他

サッカー経験がある人、実際に講師として活動している人をサッカー協会の方から紹介いただく、またはサッカー協会の講習会の中にブラインドサッカーも入れていただきたい（ブラインドサッカー・北海道）

サッカー専門の指導者が不足しており、病院のサッカー好きのスタッフが指導している状況。サッカー協会、Jリーグクラブに指導者派遣の協力をいただきたい（ソーシャルフットボール・北海道）

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

課題ごとの解決に向けたアイデア

活動資金が不足

- 障がい特性、競技特性により、介助・サポートの確保や競技用具の調達等、**競技者の費用負担が大きく、競技活動を開始するハードル**になっている。
- チーム運営を継続するにあたり、活動資金の調達が課題。

解決に向けたアイデア

●自組織での資金調達

収益源は、体験会収益（年間50回程度）とスポンサー収益。固定費はなく、遠征費、ドリンク代、ユニホーム代は、チームの収益から捻出している（ブラインドサッカー・東北）

●その他

自治体と連携してふるさと納税でクラウドファンディングを実施する方法もある（四国）

高価な電動車椅子については、全国で貸し出しできる状況をつくるのが望ましい（電動車椅子サッカー・中国）

●Jリーグクラブ・都道府県サッカー協会の協力を得ての活動

ブラインドサッカー教室やイベントなどに企業や自治体から支援を得ており、人づくり・街づくりに貢献しながら、活動を継続できている。（Jリーグクラブ・九州）

審判の派遣、練習場・施設利用等の協力を今までやってきて、今後も続けていく。フットボールセンターを運営しており、活動拠点のひとつとして検討してもらいたい（都道府県サッカー協会・東北）

協会内に委員会を設営して、Jリーグクラブ、障がい者サッカー団体の三者合同での事業を実施できれば。金銭的または労力的な支援を検討する。（都道府県サッカー協会・関東）

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

4. 2020年度へのステップ

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation

連携会議の「連携の活用」と「活動創出の場」への発展

2019年度「連携機会の創出」と「情報共有の場」となった本会議を、
今後は「連携の活用」と「活動創出の場」となるよう発展させていきます。

	障がい者サッカー ネットワークの構築	地域に応じた 障がい者サッカーの活動の推進
2019年度	連携機会の創出	情報共有の場
2020年度	連携の活用 2019年度抽出した課題をもとに、グループ ディスカッションを行うことで参加者の連 携を深め、その後も定期的にディスカッシ ョンが行えるような仕組みを考案する。	活動創出の場 インクルーシブな場、指導者養成の場等、 各地域の課題や普及状況に応じた障がい 者サッカーの活動の場を考案する。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで会議を実施。

Copyright © 2020 Japan Inclusive Football Federation



サッカーなら、どんな
障害も超えられる。

